令和3年度

学生による授業改善のための 授業評価結果に関する 報告書

公表用



目 次

1.	「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みについて	 1
2.	実施方法/令和3年度学生による授業評価アンケートの調査用紙等	 2
3.	授業担当教員による授業評価アンケート結果の考察	 6
4.	学生による授業評価アンケート調査結果報告(学科別集計結果)	 180
5.	令和 4 年度 授業評価アンケートに関する自己評価報告書	 194
6.	分析に基づく検証評価・改善について	 197

「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みについて

全ての授業は、学生の実態やニーズを踏まえた質の高いものでなければならない。「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みの目的は、各授業に対する受講学生の意見や要望、自己評価等の情報を収集することで、集約したデータを各々の教員が分析を行い、指導方法の工夫・改善に具体的に生かすということである。

本学における「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みは、平成 13 年度より実施されている。

また、平成21年度からは、西九州大学と同一内容の授業評価アンケート調査を実施し、大学との教育内容の共有を図りながら授業の質の向上を目指してきた。

平成29年度からは相互授業参観がスタートしたが、平成31年度に各教科の専門性のみならず、汎用的な授業力を振り返る質問項目や、大学教育に求められている「深い学習」「深い理解」「深い関与」に着目したディープ・アクティブラーニング的な授業を展開するための質問項目を加える等、評価内容を改善した。

本年度も、学生による授業改善のための授業評価を実施し考察を行った。以下、学内 用報告書としてとりまとめる。なお、報告書の公表においては、授業担当者を伏せてと りまとめる。

分析、考察と合わせ、本学の授業改善に生かされることを期待する。

令和4年度 西九州大学短期大学部FD委員会

授業担当教員 各位

西九州大学短期大学部 F D委員会 委員長 武富 和美

学生による授業改善のためのアンケートの実施について

平素より本学FD活動につきまして、先生方におかれましては、多大なるご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。 さて、今年度も学生による授業改善のためのアンケートを実施いたします。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Teams等を活用したオンライン授業を実施している科目が多くを 占めることから、例年実施している学期の中間アンケートは実施せず、学期末のWEBアンケートのみを実施します。

WEBアンケートの質問項目には、先生方が自由に質問できる項目を設けておりますので、質問したい事項(4段階評価で集計されます。)があれば実施日までにご検討ください。特になければ、ご検討いただく必要はございません。

また、「授業評価実施報告書」作成のため集計結果の分析と次年度に向けての取り組みについて報告書作成のご依頼をさせていただきたいと存じますので、ご了承をお願いいたします。

なお、本アンケート実施結果(自由記述除く)及び「授業評価実施報告書」については、集計後、各先生方へ周知する とともに学生も閲覧できるよう本学ホームページでも公開します。

記

1. アンケート項目 : 別紙「学期末調査 評価項目」参照

2. 授業評価実施期間: <u>前 期:令和3年7月9日(金)~令和3年7月29日(水)</u>

後期:令和4年1月5日(水)~令和4年1月25日(火)

3. 授業評価実施方法: 別紙「学生による授業改善のための授業評価アンケート調査の実施について」参照

※学生ポータルサイトでのWeb調査になりますので、アンケートへの回答を促していただくようお願いいたします。学生には掲示板及び学生ポータルサイトで回答要領を周知します。

4. 授業評価対象科目: 全科目が対象となります。

以上

令和3年度 学生による授業改善のための授業評価アンケート調査の実施について 【西九州大学短期大学部】

このアンケートは、授業の内容をより充実したものに改善するための大切な調査です。あなたの成績評価には、一切影響しませんので、率直に回答してください。学生の皆さんは、<u>今年度前期に履修している科目で、担当教員から指示された科</u>目の授業評価をしてください。授業評価は全て学生ポータルサイト上での回答となります。

≪操作手順≫

- 1. 学生ポータルサイトを利用しますので、各自のログイン ID とパスワードを準備しておいてください。 忘れた場合は、 事前に学生支援課窓口に問い合わせてください。
- 2. 学生ポータルサイト上の**〈授業〉 ⇒ 〈授業評価アンケート〉**にある履修科目の**[回答する]** ボタン**(※**1) を押すと 授業評価シートがでてきます。



3. 授業評価シートの質問 1~18 は共通です。 該当番号のチェックと自由記入をしてください。 質問 19~25 は、先生からの質問提示がある場合に回答してください。

回答終了後、「登録」して

ください。

③「回答する」ボ タンを押すことに より、「授業評価ア ンケート」が表示 されます。

								ようこそ	đ	えん[ログアウト
-ム ポ·	ートフォリオ SNS 出欠閲覧	あずなろうセンター	授業 キャリア	セミナー・カ" イダ" ンス	設定	95N"X	7ンケート			
プー資料	各·免許希望 履修登録 授業評	P価アンケート 学修習	到達度マップ	5/						
i > 回答										
アンケー	- トは、授業の内容をより充実したも	ものに改善するための	大切な調査です。	。あなたの成績評	価には、	一切影響し	ませんの	ので、率直(こ回答してくだ	ごさい 。
	T BY JAKOT JE EU JOSOFO	0.0104447	, CHICAGO TO COL			1000	, at C 10 s	у с т - ш і		LC - 0
4111	58】あすなろう体験 I(基礎) 通年	()						
問番号		設問						0:	答	
せわた白	身の授業参加態度について)									
のはん日	PA-PAPARAGE INNOVATION A ST									
Q1.	授業は何回欠席しましたか。						1	□ 2	□3	□ 4
Q1.	PA-PAPARAGE INNOVATION A ST	⇒ 2~3回、1 ⇒	4回以上】				1	2	□3	4
Q1.	授業は何回欠席しましたか。		4回以上】					□ 2 □ 2	□3 □3	4 4
Q1. Q1.の評価	授業は何回欠席しましたか。 極準: 4 → 0回、3 → 1回、2	: ታ ነ₀	4回以上】				1			
Q1. Q1.の評価 Q2.	授業は何回欠席しましたか。 基準: 4 → 0回、3 → 1回、2 シラバス (授業計画) を活用しました	か。 こ取り組みましたか。					1 1	□2	□3	4
Q1. 21.の評価 Q2. Q3. O4.	授業は何回欠席しましたか。 ・ 基準: 4 → 0回、3 → 1回、2 シラバス (授業計画) を活用しました 授業中に居眠力・私語等をせず真剣(か。 こ取り組みましたか。					1 1	□ 2 □ 2	□3 □3	□4 □4
Q1. Q1.の評価 Q2. Q3. O4.	授業は何回欠席しましたか。 返算: 4 → 0 回、3 → 1 回、2 シラバス(授業計画)を活用しました 授業中に階限り・私語等をせず真利 あなたはこの授業を理解するために自	か。 こ取り組みましたか。 分で何か工夫をしました	か。	即孫は一切影響	しません・		1 1	□ 2 □ 2	□3 □3	□4 □4
Q1. Q1.の評価 Q2. Q3. O4.	授業は何回欠席しましたか。 選導: 4 → 0 回、3 → 1 回、2 ララバス(授業計画)を活用しました 授業中に居眠り・私語等をせず真剣 あなたはこの授業を理解するために自 授業政務のためのアンケート は、授業や高さより充実したものに改 この授業について気付いた事や要値	か。 こ取り組みましたか。 分で何か工夫をしました 書するための人切な資料	か。	17倍には一切影響	U ≇ tž∕u+		1 1	□ 2 □ 2	□3 □3	4 4
Q1. (1.の評価 Q2. Q3. O4.	授業は何回欠席しましたか。 ・	か。 こ取り組みましたか。 分で何か工夫をしました 書するための人切な資料	か。	11年後には一切影響	U\$ti∧.		1 1	□ 2 □ 2	□3 □3	4 4
Q1. Q1.の評価 Q2. Q3. O4.	授業は何回欠席しましたか。 選導: 4 → 0 回、3 → 1 回、2 ララバス(授業計画)を活用しました 授業中に居眠り・私語等をせず真剣 あなたはこの授業を理解するために自 授業政務のためのアンケート は、授業や高さより充実したものに改 この授業について気付いた事や要値	か。 こ取り組みましたか。 分で何か工夫をしました 書するための人切な資料	か。	明年後には一切影響	L≇tt∧+		1 1	□ 2 □ 2	□3 □3	□4 □4

※履修中の科目全て が表示されますが、 担当教員から指示さ れた科目のみ回答し てください。

4. 回答終了後は、授業評価シートの下にある**「登録」**ボタンを押すことで提出となります。 ※授業評価回答は、回答期間中であれば、変更して再提出することが可能です(「登録」ボタンを押すことにより更新されます。)。

西九州大学-西九州大学短期大学部

前期回答期間:令和3年7月9日(金)~令和3年7月29日(水) 後期回答期間:令和4年1月5日(水)~令和4年1月25日(火)

授業評価アンケート (学期末調査) 評価項目

(学生ポータルサイトでの質問項目)

(あなた自身の授業参加態度について)
igsquareQ1. 授業は何回欠席しましたか。
【Q1の評価基準:4⇒0回、3⇒1回、2⇒2~3回、1⇒4回以上】
igsquareQ2. シラバス(授業計画)を活用しましたか。
\mathbf{Q} 3. 授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。
Q4. あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。
(例えば、ノートをまとめる。テキスト・参考書の活用。教員への質問。予習・復習等)
【Q2~4の評価基準:4⇒そう思う、3⇒だいたいそう思う、2⇒あまりそう思わない、1⇒そう思わない】
□Q5. あなた自身の総合自己評価
【Q5 の評価基準:4⇒良い、3⇒やや良い、2⇒やや悪い、1⇒悪い】
(授業内容・方法について)
Q6. シラバス(授業計画) について説明がありましたか。
Q7. 教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。
Q8. 授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。
$\overline{\ \ \ \ \ \ \ }$ Q 9 . 授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。
Q10. 視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。
□Q11. 教科書・配布資料等は役に立ちましたか。
igsquareQ12. 声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。
igsquareQ13. 授業の進む速さは適切でしたか。
【Q6~13 の評価基準:4⇒十分、3⇒だいたい十分、2⇒やや不十分、1⇒不十分】
(数量の対応について)
(教員の対応について) \square
Q15. 公平に学生に対応しましたか。
Q16. 教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。 (コメントを付したレポートの返
却、学生からの質問を授業で取り上げるなど)
Q17. 教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。
【Q14~17の評価基準: 4⇒そう思う、3⇒だいたいそう思う、2⇒あまりそう思わない、1⇒そう思わない】
(<mark>総合評価</mark>)
□Q18. この授業を総合評価してください。
【Q18 の評価基準: 4 ⇒良い、 3 ⇒ やや良い、 2 ⇒ やや悪い、 1 ⇒悪い】
(教員による自由項目)※授業担当教員からの指示に従ってください。(指示があれば記入すること。)
Q19.
\square Q20.
\square Q21
\square Q22
\square Q23
\square Q24
【019~25 の評価基準:4⇒良い、3⇒やや良い、2⇒やや悪い、1⇒悪い】

(自由記述)

令和3年度「学生による授業評価アンケート」集計結果の分析及び評価の報告について

本学では、例年、学生による授業評価アンケートを実施しており、コンピュータによる統計処理後の集計表を実施された各先生方に返却し、その結果をもとに分析・検討及び評価を行い各授業に反映してきました。

この度、各教員の分析・検討および評価などの内容について、教員間で共有するとともに、学生および対外的に公表するため、教員のコメントを掲載した報告書を作成することにいたしました。

つきましては、下記の要領にて報告書冊子原稿のコメント文の提出をお願いいたします。

- 1. 分析及び評価の対象: 令和3年度に実施した授業評価結果
- 2. 報告書の内容: 学部名、学科名、科目担当者名、科目名、履修者数及び以下の(1)~(3)
 - (1) 学生による授業評価結果
 - WEB(ポータルサイト)入力画面に自動表示されます。
 - (2) 結果の分析と評価(300~500 字程度)
 - ・学科平均との比較(共通教育科目については共通教育科目全体平均との比較)
 - ・特に低(高)い項目についての考察
 - ・自由記述についての分析と評価
 - 本授業の目標、ねらいと照らし合わせた分析と評価
 - ・授業全般に対する反省点
 - 回答率が低かった理由 など
 - (3) 次年度に向けての取り組み(300~500 字程度)
 - (1) の授業評価結果で特に低かった項目に対する改善方法
 - ・(2)の授業全般の反省点に対する取り組み方法
 - 令和3年度に新たに導入したいと思っている授業方法 など
 - ・授業評価そのものに対する意見を含んでも可
- 3. 報告科目数

授業評価結果がある全科目(※オムニバス開講など複数教員で担当する科目は代表 1 名の報告で可)

4. 提出方法

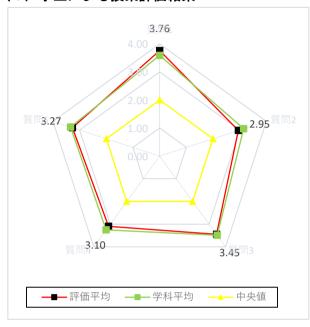
WEB (ポータルサイト) で提出

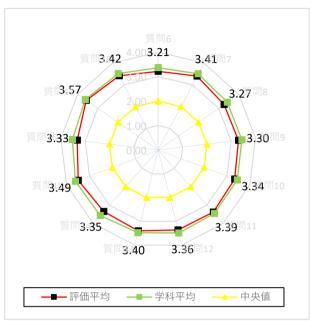
- 6. その他 WEBマニュアル及び参考資料(授業評価アンケート評価項目、学科別平均値)は、以下の共通フォルダに格納しています。

全学教職員(¥¥nobita(x)) → ●●●【短大部】授業評価に関する報告書●●● → 報告書様式&記入マニュアル等

授業担当教員による授業評価 アンケート結果の考察

É	学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期	月大学部	地域生活支援 幼児保育		SDG s 入門	161名





(2) 結果の分析と評価

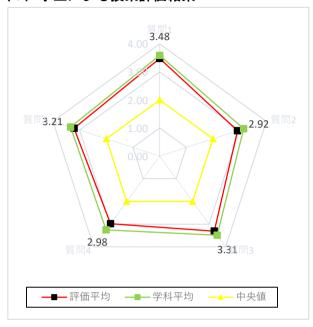
多くの項目で共通教育科目の平均値を下回る結果となった。要因としては、本科目は8名の教員(オムニバス)によるオンデマンドの授業であり、講義資料の作成方法やレポート課題の形態等、若干の相違があり、履修する学生にとっては分かりづらい部分があったと思われる。また、今年度の新規科目でもあり、評価や課題未提出者への対応が遅くなったことも要因の一つだと考える。

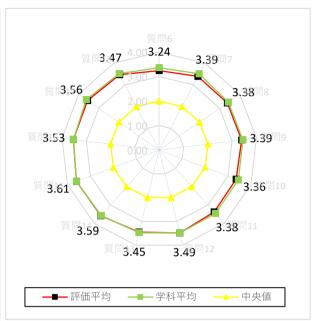
自由記述では、レポート課題の作成のし難さ、提出したはずの課題が未提出としてカウントされていた、 音声付き資料の再生方法が統一されておらず、分かりにくかったなどの記述がみられた。しかし、多くの学 生がSDGsの重要性に気づく契機にもなっており、音声付き資料の音声スピードや丁寧な説明、資料の見や すさなどのコメントも多くみられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度もオムニバスによるオンデマンド事業を実施する。その際、今年度の反省を踏まえ、担当者間で事前の打ち合わせを丁寧に行い、レポート課題用紙の統一、未提出者への早期対応を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		共に学ぶあすなろう (キャリア) II	90名





(2) 結果の分析と評価

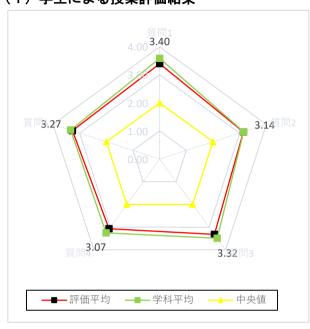
質問項目1~5について、学科平均よりもいずれも下回っていることがわかる。本科目は通年授業であり、授業の頻度も不規則でレポート課題の出し方も形態によって異なるため、学生にとって他の科目よりも比較的把握がしづらいと思われる。実際に出席回数が足りず、数名に対して再試を実施することとなり、年間を通して学生の受講状況を把握し指導することの難しさも感じた次第である。

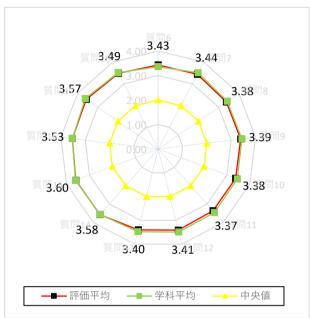
質問項目6以降も、学科平均か下回る数値が多くみられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

コロナ対策の影響で、当初の予定通りにできなかった回もあり、そのうちの代表的なものが保育研修である。学内において、2年生の指導のもと1年生がグループごとに劇活動を行うが、2年生は準備期間のみ携わる者と本番日も補助に入る者とに分かれて活動してもらうことになった。そのせいか、今回の自由記述にも「不平等に感じる点があった」という意見があり、こちらとしてはできる限りで実現しようとしているものの、やはり学生側に立ってみると違和感を感じてしまう場合もあるのだと気づかされた。来年度も同じような形になるが、学生の理解を得られるように最初の段階で丁寧な説明を行い、極力変更がないように配慮すべきである。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		SDG s の実践	151名





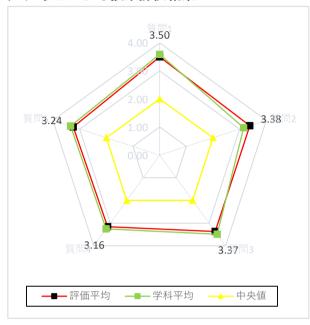
(2) 結果の分析と評価

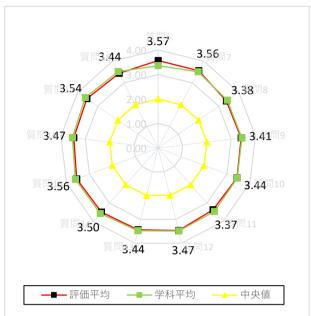
- ・質問1~質問7に関しては、初めてスタートした授業であったことや、学科やコースを越えた、そして留学生を含んだグループ編成による学びであったにも関わらず概ね学科平均並みであった。
- ・コロナ禍の中、対面の実践が難しいため、県内のSDGSの実践を推進している実践家によるオンライン 講義を複数回行い、それを受けて8班(16グループ)に分かれたグループごとのプレゼンを行った。その成 果と課題を以下のように捉えている。
- ①講師による講義に対しては、レポート内容からもSDGsが学生たちにとって身近なものとしてとらえられたことが分かり有効であったと思われる。
- ②講義をもとにした各グループのプレゼンについては、学科やコースの違いや留学生との言語能力の差、海外から参加する留学生のWi-Fi環境の問題などから、活発な活動が行われたとは言い難い。
- ・本授業の到達目標のうち「(1) SDGsのゴールやターゲットをもとに、それぞれの課題解決のために取り組む意欲・態度を身につける。」「(3) SDGsの目標について、自己の専門領域に関する課題はもとより、幅広く課題解決への実践意欲を高める。」については、授業終了後に学内の実

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・次年度もコロナ禍の状況が著しく好転しない限り以下のような取り組みになる。
- ①外部講師による講義は基本的にオンラインによるものとする。
- ②グループ分けについては、学科やコース、留学生の状況を踏まえ、より効果的な学びが展開できるように 再検討する。
- ③学びの総まとめとして本年度は各グループによるオンデマンドによる「プレゼンテーション」を行ったが、次年度はグループごとのSDGsに係る施設見学やボランティア活動などを工夫するなどして、より「実践的」な学びの場を工夫検討する。ただし、コロナの状況に応じて対面による活動が難しくなることも念頭に、対面バージョン、オンラインバージョン双方の案を準備しておく必要がある。
- ・オンライン授業の場合には、昨年度同様にSDGsの取り組みをリアリティを持って学生が理解できるように外部の実践家による講義とする。
- ・対面による活動を展開する場合には、本学学生同時のみならず、外部からの参加者との接触が密になる可能性が考えれれるため、コロナ感染予防の指針に従い、きめ細かな対策のもとに実施しなければならないと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		データサイエンスの基礎	151名





(2) 結果の分析と評価

この科目は、今年度新規科目であり、各専門分野の先生方にオムニバス形式で講義を実施頂いた。また外部 からも講師をお招きし、講義を実施頂いた。

高評価としては、質問2、質問6などが挙げらえる。

これらの項目は、「シラバスの活用」に関わる項目である。この科目はオムニバスで講義を実施しているため、次の講義予定をシラバスで確認していることが、高評価につながったと考える。

低評価としては、質問1、質問3、質問4、質問11などが挙げられる。

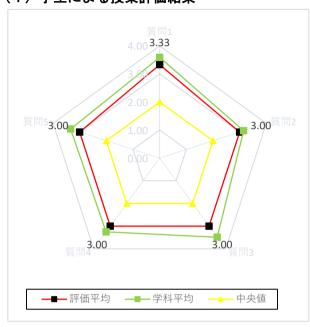
この科目は、すべての講義をオンラインで実施したため、対面での緊張感がないため、授業中の居眠り等が増加したことが考えられる。質問11については、オンラインでの配布資料が講義終了後に実施するなど、学生が資料を見たいときに提示できなかったなどの要因が考えられる。

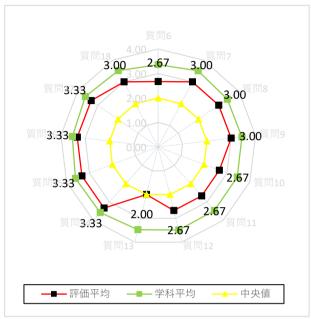
(3) 次年度に向けての取り組み

この科目は、来年度も同様の形態で実施する予定である。

それを踏まえ、学生に演習をやってもらうような工夫をすることで、講義中の緊張感を維持できるように やっていきたい。また、資料の提示についても可能な限り早めにアップロードですることを心がけたいと考 える。

ĺ	学部	学科	担当者	科目名	履修者数
	短期大学部	地域生活支援		あすなろう体験	3名





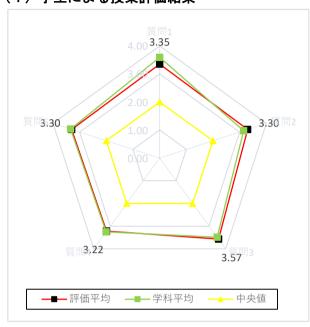
(2) 結果の分析と評価

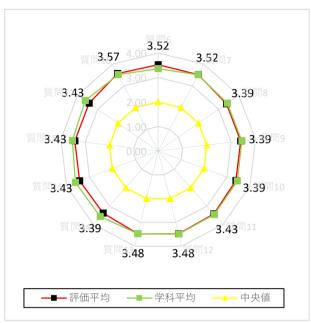
コロナ禍によって計画通りに進めることができなかったため、当該科目の評価対象はない。履修者も大変少なく、評価に対するコメントは控える。

(3) 次年度に向けての取り組み

可能な範囲で体験活動や演習を積極的に取り入れ、学習が進められるよう最良の方策を検討し進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		心理学入門	25名





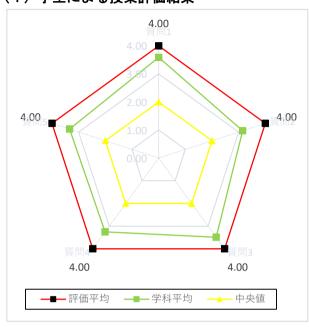
(2) 結果の分析と評価

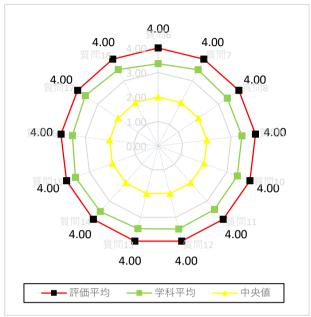
全体的な数値データは平均的である。完全オンデマンドの一般教育科目であり、今年度については大学コンソーシアム佐賀としての科目等履修生も授業に参加していた。自由記述には「いろんなことが学べた」とあったが、オンデマンドということもあり、学生の学びに対するフィードバックには限界があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は授業毎に実施してきた学びの確認(課題)について、オンデマンドではあるが、学生が自発的に学 ぶことができるような教材づくりについて検討していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		ボランティア活動	1名





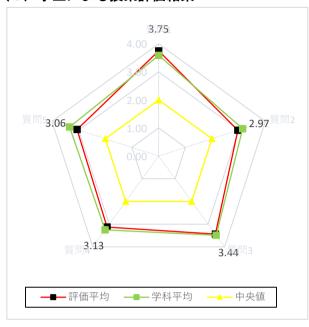
(2) 結果の分析と評価

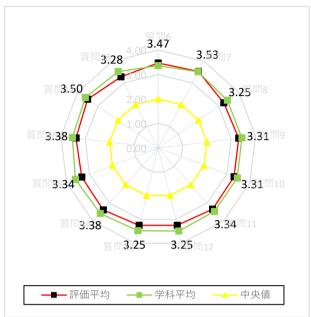
自由記述からは、地域活動への参加のきっかけとなっており、改めて地域の魅力を実感する機会となっている。

(3) 次年度に向けての取り組み

当該科目は廃止となり、ボランティア活動は「あすなろう体験」に組み込まれるものとなった。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		異文化理解	34名





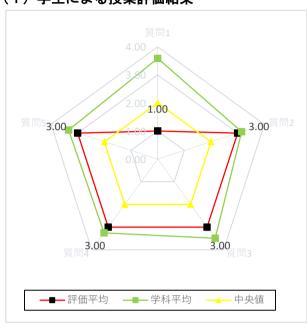
(2) 結果の分析と評価

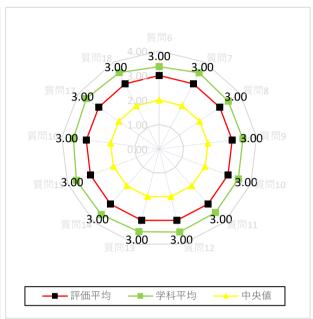
自由記述からは、「資料があって分かりやすかった。」「内容が難しい時もありますが、いろいろなことを 学ぶことができて楽しいです。」「どの授業も難しかったですが自分のことを知る機会が増えたりいろんな ことに視野を広げるいい機会になりました」「グループワークでいろんな人と話せて楽しかったです。」と いった評価を得た半面、「ペアでの話し合いではなく、4人とかのグループのほうが話しやすいです。」 「資料はとても役に立ったのですが、授業内でで出たのに資料内ではなかったことがあったのでできればす べてほしいです」「たまに課題の提出日がその日になっています。」「グループワークで外国人の方となっ たときは話が弾まず、説明をするのが難しい。」「演習の時に何を考えたらいいのかもう少し簡単に話して ほしいです」といった意見があった。授業の計画・実施法や資料作成は改善を図っていたが、評価は総じて 低い傾向があった。課題の提出日に対しては、登録管理に十分気を付ける必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度ではペア学習からグループ学習に切り替え、ファシリテーターとしての働きかけの強化を検討し、改善を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		総合英語(初級)	4名





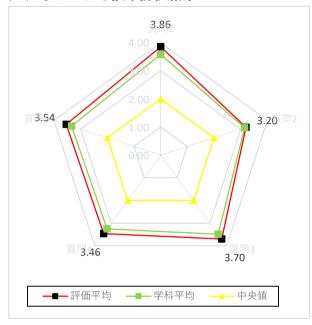
(2) 結果の分析と評価

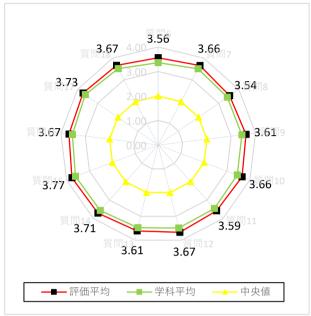
2021年度は未開講

(3) 次年度に向けての取り組み

受講者がいる場合、開講する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		英会話 I	79名





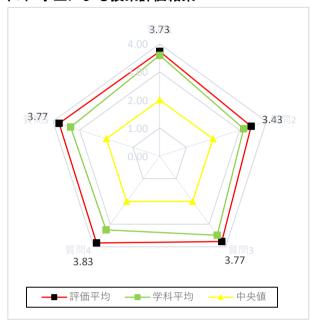
(2) 結果の分析と評価

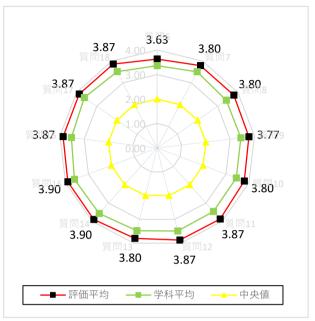
概ね学科平均に近い評価結果となった。毎回授業の目標を設定し、授業の始めに周知していたが、授業計画と目標の共有がうまくできておらず、「シラバスの活用についての評価」が低かった。保育者に求められる英語力を強化するために、授業内容や勉強方法を検討する必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

対面授業を中心として行うが、授業計画と授業目標を受講生全員と共有し、多くの受講者が目標を達成するような工夫をする。オンライン教材や無料の教材について紹介をしているが、それらをうまく活用して英語を好きになってもらえるような事例を作りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		英会話Ⅱ	31名





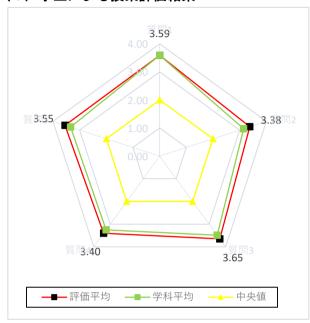
(2) 結果の分析と評価

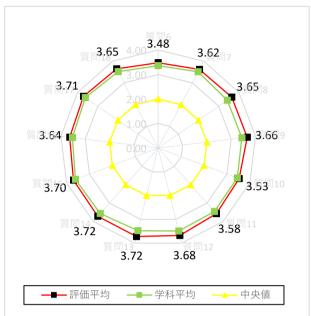
授業評価は概ね平均値に近い結果となった。本授業は前期の科目(英会話 I)と連続する内容であったが、英語力の向上につながった受講生は多くはないと感じている。受講生が多く、一人一人の進捗を確認することが難しかったことは次年度への課題としたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

1年間の英語学習を更なるステップへとつなげるために、「資格試験の案内」「英語に関する課外活動」 「英語関連情報の提供」などの学習機会を準備し、受講生の意欲を高める工夫をする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		健康スポーツ	113名





(2) 結果の分析と評価

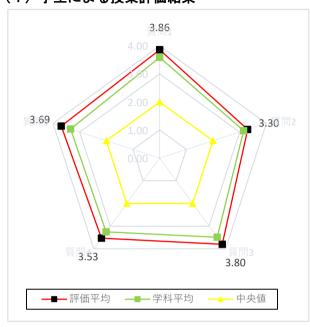
全体的に高い評価を得ることができた。この授業は、スポーツ実技のため、運動の好き嫌いや得意不得意が みられることから、学生の自主性、主体性を重視した形で授業を展開したが、ほとんどの学生にとっては、 授業の受けやすさにつながったのではないかと考えられる。

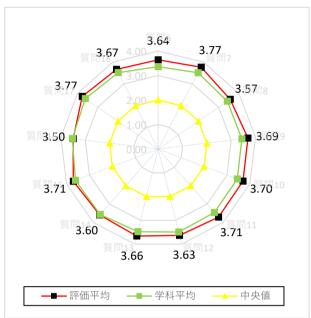
しかしながら、逆に授業の意図が分からなかったり、真面目に取り組まない学生への不満などを感じる学生もおり、授業の目的や授業の取り組み方について、しっかりと伝えきれなかったことが反省点である。ただ、運動・スポーツを通して、体を動かすことの大切さや集団で取り組むことの楽しさを感じ、健康への意識も高めることにつながったのではないかと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けては、学生の自主性や主体性を重視する形は継続していきたいと思うが、しっかりと授業の意図や取り組むにあたっての約束事などについて、しっかりと明確に示した上で、学生が自ら積極的に授業に取り組んでいける環境を築いていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育原理	81名





(2) 結果の分析と評価

1. 学生の取り組み

遠隔授業であったが、学生の取り組みは、学科平均を超える、

又は同等程度の良好な結果となっている。

特に授業における真剣な取り組み(質問3)、総合的な自己評価(質問5)は、

高い評価となっており、学生たちが遠隔授業の中心である動画視聴による内容理解と

その確認のための課題にしっかりと取り組んでいることが伺える。

2. 教授方法・教員の対応

全体的に、学科平均等程度の評価となっており、おおむね良好の評価となっている。 授業計画についての説明(質問6)、授業の到達目標を明確にした授業展開(質問7)の評価が 高いことから、コース全体および各回の授業が構造化されていることが評価されている。 一方、双方向的なやり取り(質問16)は、オンデマンド型の遠隔授業だったたため、 やや低い評価となっている。

(3) 次年度に向けての取り組み

2年間、遠隔授業への対応に力を入れてきた。

本授業をはじめ、中規模~大規模の講義(90人以上)が中心であるため、

非同期オンデマンド型を採用し、授業動画の質向上を優先して授業準備を進めてきた。 次年度は対面授業が基本となることが決まっている。

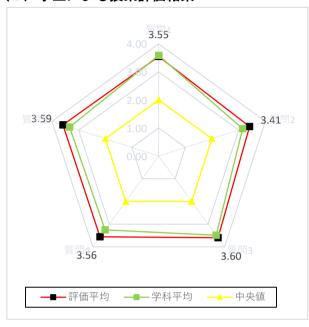
対面授業時は、レクチャーとグループワークを組み合わせていた授業を展開していた。

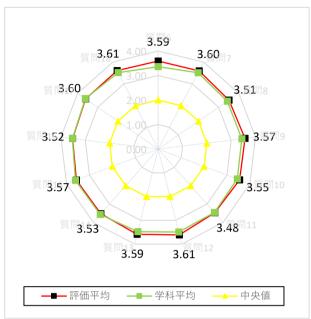
しかし、レクチャーが必ずしも効果的ではない、グループワークに時間がかかり授業の進度が落ちるといっ た問題点があった。

そこで、2年間で作成した授業動画を活用して、

レクチャー部分をオンデマンド授業(動画視聴 + 確認テスト、リアクション・ペーパー)でおこない、 先行知識の獲得したうえで、対面によるグループワークで知識や理論を活用し実体化する、 ブレンデット型授業をめざしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育総論	77名





(2) 結果の分析と評価

1. 学生の取り組み

遠隔授業であったが、学生の取り組みは、学科平均を超える、

又は同等程度の良好な結果となっている。

特にシラバス(授業計画)の活用(質問2)は比較的高い評価となっており、

コース全体の流れを意識しながら、各回の授業に取り組んでいる様子が伺える。

2. 教授方法・教員の対応

全体的に、学科平均同程度、項目によっては若干低い評価となっているが、

おおむね良好の評価となっている。

教科書・配布資料等の有効活用(質問11)の評価がやや低いことが気がかりである。

学生は配布資料を手元に置きながら動画を視聴し、

メモを取りながら受講するようにアドバイスしている。

また、課題内容の回答の際にも参考になるが、配布資料やテキストを活用せずに回答しているのかもしれ ない。

(3) 次年度に向けての取り組み

2年間、遠隔授業への対応に力を入れてきた。

本授業をはじめ、中規模~大規模の講義(90人以上)が中心であるため、

非同期オンデマンド型を採用し、授業動画の質向上を優先して授業準備を進めてきた。 次年度は対面授業が基本となることが決まっている。

対面授業時は、レクチャーとグループワークを組み合わせていた授業を展開していた。

しかし、レクチャーが必ずしも効果的ではない、グループワークに時間がかかり授業の進度が落ちるといっ た問題点があった。

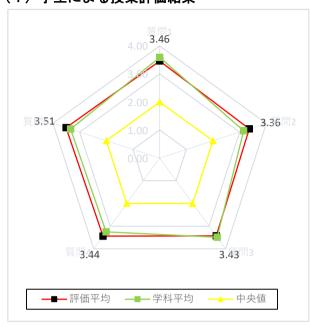
そこで、2年間で作成した授業動画を活用して、

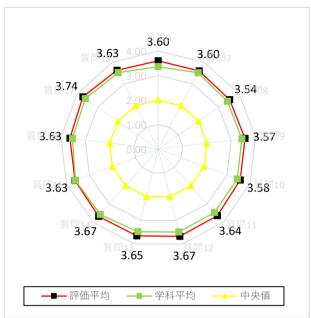
レクチャー部分をオンデマンド授業(動画視聴 + 確認テスト、リアクション・ペーパー)でおこない、 先行知識の獲得したうえで、対面によるグループワークで知識や理論を活用し実体化する、ブレンデット型 授業をめざしていく。

また、オンデマンド授業や対面時のグループワーク等、授業場面に応じた資料やテキストの活用法につい

スタディスキルの1つとして紹介していくようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども家庭福祉	74名





(2) 結果の分析と評価

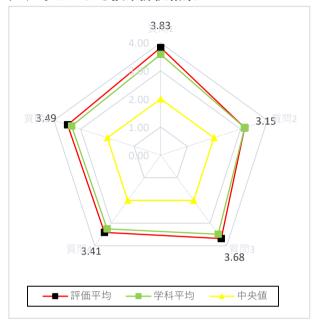
授業評価においては、ほぼ学科平均と変わらなかった。ただし、他の科目と比べ多少欠席回数が多かったようである。

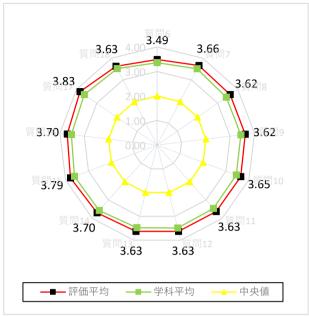
学生からの自由記述においては、レポート試験の一部遠隔対応についての指摘があった。また、本科目は講義系となるが、熱心に取り組むことができたとの評価もあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述にあったレポート試験試験の実施方法については工夫を行っていきたい。 また、制度論のため学生にとって難しく感じる箇所もあるかと思うが、今後も保育実践とのつながりをイ メージしてもらえるように丁寧に授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		社会福祉	80名





(2) 結果の分析と評価

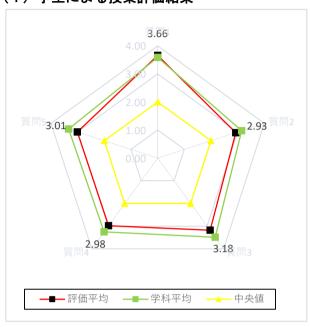
前期講義はすべて遠隔授業であったため、学生への授業の伝わり方が心配であったが、授業評価においては、ほぼ学科平均と変わらなかった。

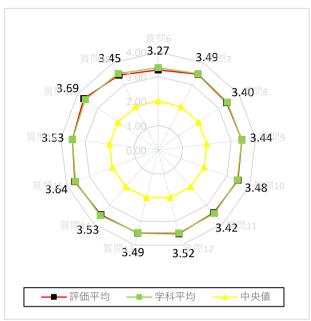
講義系科目であるため、学生にとっては覚えることが多く退屈に感じるかもしれない。そのため、遠隔授業においてもなるべくグループワークを取り入れた結果、学生が参加しやすかった授業評価となったかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においては対面授業を予定しているため、よりわかりやすさと伝わりやすさを意識していきたい。 また、必要におうじて遠隔授業も組み合わせることで、より学生が取り組むやすい授業を目指していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども家庭支援論	93名





(2) 結果の分析と評価

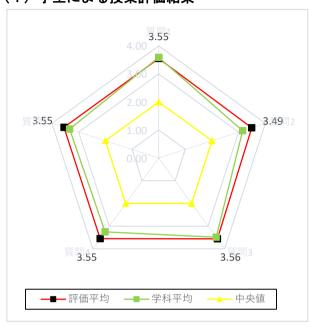
前期科目であったため、すべて遠隔授業を行った。演習系科目を遠隔授業でどのように展開するか苦慮し

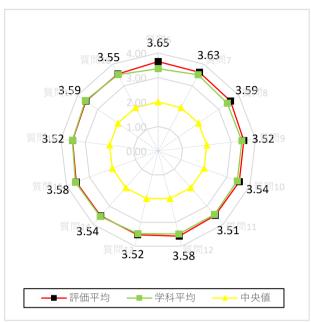
授業評価においては、授業計画の説明や学生の授業参加が学科平均より低かったことが反省点である。一方 で、なるべく遠隔授業でグループワークを取り入れようと工夫を行った。 学生とは一度も直接接することができなかったことが、授業評価に反映されていると考えられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、対面授業を予定している。 演習系科目であるため、感染症対策に留意しながらもコミュニケーションをとりつつ、保育実践に生かせる スキルが伝わるように工夫をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		発達心理学	74名





(2) 結果の分析と評価

全体的な評価はほぼ学科の平均となっている。自由記述の中で以下の意見が見られた。 1. 席が後ろということもありましたが声がこもっているので聞こえないし、スライドは早いし、かといっ て写メをとると「著作権の侵害です」などいわれファイルももらえませんでした。結局自分で毎回勉強。授 業を受けた気すらしませんでした。

- 2. わかりやすかった
- 3. 赤ちゃんのことや虐待のことなどたくさんの知識を得ることができた!!
- 4. たくさんの用語が出てきてとても難しかったです。ありがとうございました。

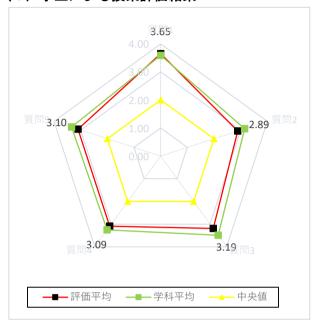
1については、著作権の侵害にあたる箇所については、明確に伝えていました。しかし、テキストにない箇 所や必要という意見に答えて講義資料も配布し、撮影も許可していました。その為、この意見を真摯に受け 止めたいのですが、事実と異なる点があり、客観的な評価としては除外させていただきます。

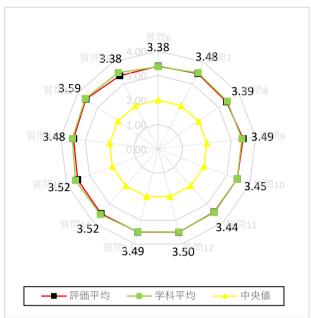
1年生の後期科目であり、まだ大学の講義に慣れていない可能性もあります。スライドのスピードが速い点 については、今後改善していく余地があります。

(3) 次年度に向けての取り組み

教材の作成、資料の配布等について明確に伝えるとともに、学習の仕方についても配慮しつつ伝えていきま す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		社会的養護 I	92名





(2) 結果の分析と評価

前期科目であったため、すべて遠隔授業を行った。遠隔授業をどのように展開するか苦慮した。 授業評価においては、授業計画の説明や学生の授業参加が学科平均より低かったことが反省点である。これ は同学年の他の科目とも同じ授業評価の傾向であった。

一方で、なるべく遠隔授業でグループワークを取り入れようと工夫を行った。 学生とは一度も直接接することができなかったことが、授業評価に反映されていると考えられた。

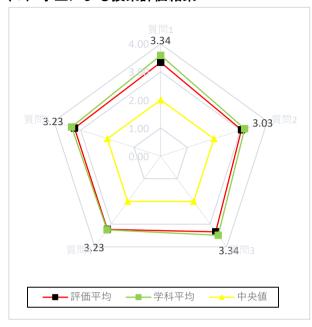
(3) 次年度に向けての取り組み

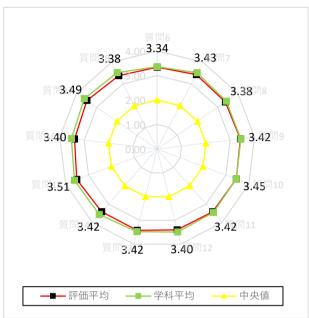
次年度は、対面授業を予定している。

講義系科目であるが、きわめて実践的な内容を伴う科目のため、感染症対策に留意しながら学生とコミュニケーションを図りながら授業を展開していきたい。

また、必要におうじて遠隔授業との組み合わせを意識しながら、わかりやすい授業を目指すようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育・保育者論	91名





(2) 結果の分析と評価

1. 学生の取り組み

学生の取り組みは、全体的に学科平均をやや下回る結果となっている。

15回すべてが遠隔授業であったがことを考えると、妥当な結果であるともいえる。

ただ、同じように遠隔授業を受けている1年生と比較すると、

すべての取り組み状況が低い点が気がかりである。

遠隔授業は学生側の受講環境の影響も大きいのではないだろうか。

受講学生は、PC必携化対象外であり、

スマートフォンで遠隔授業に取り組んでいることは考慮しておく必要があるだろう。

2. 教授方法・教員の対応

全体的に学科平均をやや下回る結果となっている。

15回すべてが遠隔授業であったがことを考えると、こちらも妥当な結果だといえる。

上記で受講環境の影響について述べたが、資料をプリントアウトできる環境が整っていないとの声もあっ たため、

印刷した資料を用意していたが、利用する学生はほとんどいなかった。

遠隔授業に必要な環境、そして、どのように授業を受け、課題に取り組んでいくのか、

導入したTeamsの使い方と合わせて、丁寧に説明していくことが大切だと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

2年間、遠隔授業への対応に力を入れてきた。

本授業をはじめ、中規模~大規模の講義(90人以上)が中心であるため、

非同期オンデマンド型を採用し、授業動画の質向上を優先して授業準備を進めてきた。 次年度は対面授業が基本となることが決まっている。

対面授業時は、レクチャーとグループワークを組み合わせていた授業を展開していた。

しかし、レクチャーが必ずしも効果的ではない、グループワークに時間がかかり授業の進度が落ちるといっ た問題点があった。

そこで、2年間で作成した授業動画を活用して、

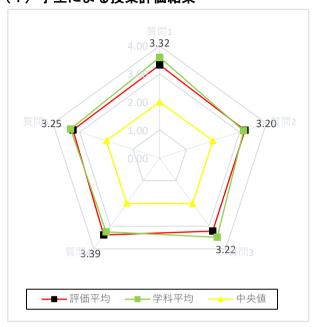
レクチャー部分をオンデマンド授業(動画視聴 + 確認テスト、リアクション・ペーパー)でおこない、

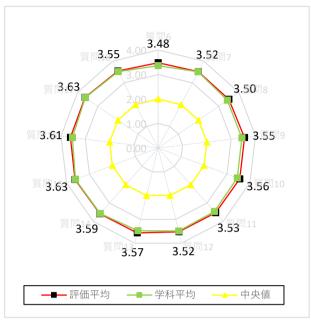
先行知識の獲得したうえで、対面によるグループワークで知識や理論を活用し実体化する、

ブレンデット型授業をめざしていく。

また、オンデマンド授業を行う前には、Teamsの使い方をはじめとする遠隔授業の受け方を 学生に丁寧に説明する機会を設けるようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども家庭支援の心理学	91名





(2) 結果の分析と評価

全体として、学科平均と同程度からやや低い評価であった。

特に欠席回数、居眠り・私語、総合自己評価が学科平均に比べて低い評価となっていた。自由記述の中で、 試験に持ち込める資料として認めていた自作のメモの作成が大変だったという記述や、試験が難しかったと いう記述がみられた。こうした点も自己評価の低さにつながっている可能性が考えられる。

一方で、資料が見やすい、具体例が多く分かりやすかったというコメントも複数あった。こうした点は肯定 的な評価につながったと思われる。

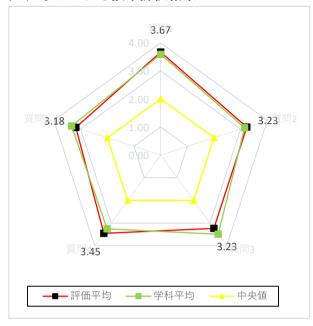
(3) 次年度に向けての取り組み

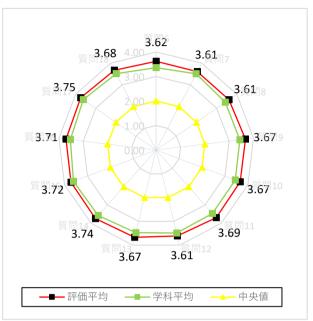
肯定的に評価されている点については、今後も引き続き行っていく。

欠席回数や私語・居眠りに関しては、学生の自己制御が必要となる点ではあるが、気づきやすくなるようこ まめに声かけを実施する。

資料作成や授業内容は肯定的なコメントが多かったものの、難しさや退屈さを感じている学生もいるため、より多くの学生が関心を持って取り組めるような工夫が必要であると考えられる。具体的には、事例を挙げて学生間で議論を行うなどの取り組みが有効な可能性がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども理解と教育相談	90名





(2) 結果の分析と評価

全体として、学科平均と同程度からやや高い評価であった。

自由記述の中では、毎回授業後に感想の提出を求め、次の回に教員からの回答を示すという取り組みが、復 習や他の視点の理解につながったという肯定的なコメントが複数見られた。また資料や授業の進む速度につ いても分かりやすいという意見が複数あった。こうしたことが、全体としての評価の高さにつながったと考えられる。

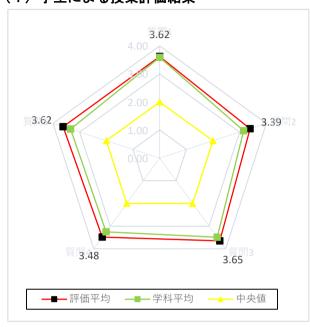
- 一方で、私語・居眠りの自己評価が低く、そのことが学生自身の自己評価の低さにつながったと思われる。

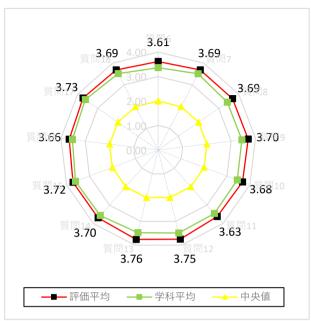
(3) 次年度に向けての取り組み

授業後の感想の提出と教員からの回答や、授業資料の作成は、肯定的な成果を得られているため、引き続き 行っていく。

私語や居眠りに関しては、学生が自分でコントロールできるよう、適宜声かけを行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容(健康)の理論 と方法	74名





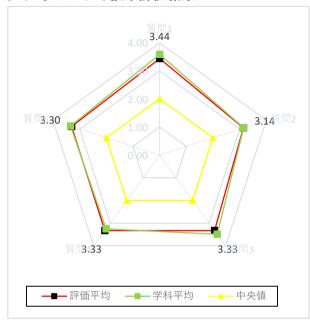
(2) 結果の分析と評価

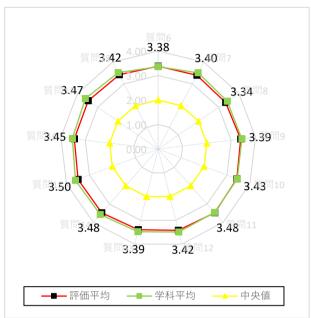
全体的に学科平均よりも高い評価を得ることができた。この授業は、グループワークや模擬保育を中心に授業を展開した。模擬保育でのグループワークでは、役割等を決めて学生自身が自覚をもって実践できるように努めた。また、他のグループの模擬保育も含め、子ども役、保育者役、評価者役と3者の視点から模擬保育を考えることで、様々な角度から発見があったのではないかと感じている。このように、学生の実践をとおした学びが学生の理解度にも結び付いたのではないかと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後もグループワークをとおした学びを展開し、模擬保育をとおした学びを引き続き実施し、学生がより主体的に学ぶ環境を作っていけるよう工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの食と栄養Ⅱ	91名





(2) 結果の分析と評価

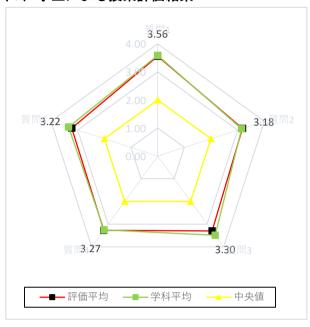
本科目は前期開講科目「子どもの食と栄養I」に引き続き実施されるものであるが、令和3年度は後期のみを担当した。授業形態は完全オンライン授業であり、学生の顔が全く分からないままにスタートし、分からないままに終えるという初めての経験であった。受講者90名中88名より回答を得た(回答率97.8%)。

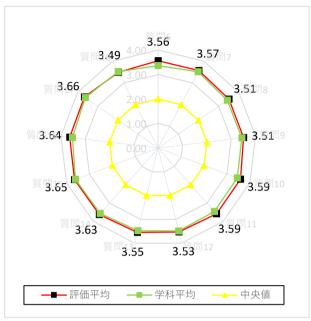
授業評価結果をみると、学生自身の評価、教員・授業に対する評価のいずれも学科平均よりわずかに下回る結果となった。要因として、①担当者には初めてのオンライン授業でありうまく対応できなかったこと、②前期と後期で科目担当が異なり、授業展開に戸惑いがあったこと、③学科所属教員ではないため学生との接点が授業時に限定されること、等が考えられる。オンラインであっても学生自身が発言する機会を設けたり、考える時間をとったりと、できるだけ対面での授業のように配慮をしたつもりであったが、まだまだ不十分であったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述のなかに「対面でできず残念だった」「離乳食の実習をしたかった」といったコメントがあったので、学生はやはり対面での授業を望んでいることがわかった。授業のなかでFormsを利用した課題を提示していたが、「課題の内容が授業を振り返れる内容で勉強になった」とのコメントがあり、これは授業形式が対面に変わったとしても続けていきたいと考える。学生自身の学びの積極性を高めることができるよう、幼児保育学科の先生方の取り組みを参考にしながら、本授業の内容・方法の改善を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育課程・方法論	93名





(2) 結果の分析と評価

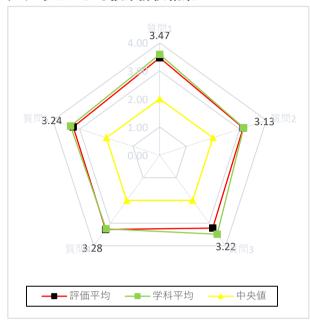
質問1~質問5に関しては全て学科平均を下回っている。これは自由記述にもあったが、遠隔授業であったため集中して講義を受講することが難しかったようである。また、基本的にはオンラインで双方向的なやり取りをしながらの遠隔授業であったが、他の授業の関係上、数回対面授業やオンデマンド形式での授業を行った。その際、どのように授業を受講すればよいのかわからず、戸惑った学生もいたようである。授業の実施形態に関する事前連絡(掲示板でなくメールで送信してほしいという要望)が必要であったようだ。私自身、初めての遠隔授業であったため、学生の声からの学びは多かった。

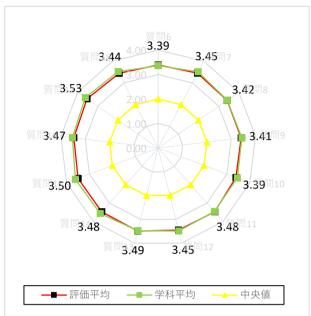
質問6以降も学科平均と同じもしくは少し下回る結果となっている。しかし、大きな差異はなく、概ね及 第点だと思われる。オンライン上で、学生の姿が見えない中での授業スピードの調整は想像以上に難しいも のがあった。学生も、その点を指摘しており、これに関しては今後改善する必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

この科目は次年度以降は他の教員が担当することになっている。しかし、学生のコメントを見てみると、授業の内容と保育現場(実習)での学びが繋がったという点を一番評価していた。指導案作成や研究保育など、学生が苦手意識を持っている部分に対して、具体的に丁寧に指導をしたことが学生の満足度に繋がっている。他の教科目においても、保育現場と直接的に結びつくような学びを提供していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容総論	91名





(2) 結果の分析と評価

全項目で学科平均を下回っているが、大きな差異はなく、また特段評価の低い項目もないため及第点だと 思われる。

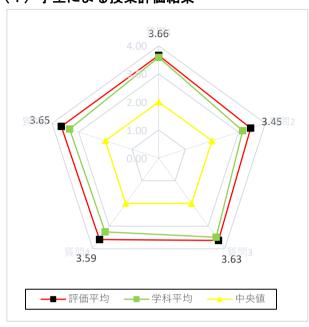
この授業は保育現場での事例を通して、子どもの気持ちや保育者の対応を丁寧に掘り下げて考えていくというワークを中心に行った。その中で、自身の考えだけでなくグループワークや全体での発表を通して、様々な考えに触れることができるよう意識して授業を構成している。学生の自由記述からは、そのグループワークでの気づきや新たな視点の獲得に関する内容が多く書かれており、自他の意見を認め合い尊重する姿勢も身に付けることができていた。この授業のねらいは十分に達成できたと考える。

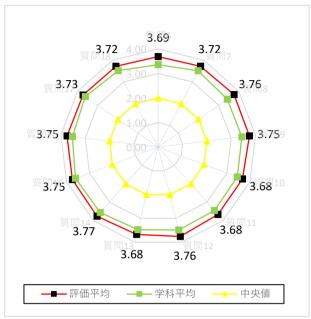
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降も、この形態を続けていきたい。学生に自身のこととして事例を捉え、課題解決する力を身に付けさせたい。また、保育職の重要なスキルである子どもの気持ちに寄り添うこと、自他を尊重する姿勢なども身に付けてほしいと願っている。

一方で、詳細な回答データを見ると、授業に対して不満を抱えたままであった学生が数名いたようである。机間巡視なども行いながら、双方向のやり取りをしていたつもりであったが、そのような学生の存在に気付くことが出来なかった点は反省すべき点である。次年度以降は、一層学生の様子に目を配り、授業に対して意欲的に取り組めるような改善を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容(音楽表現)の 理論と方法	74名





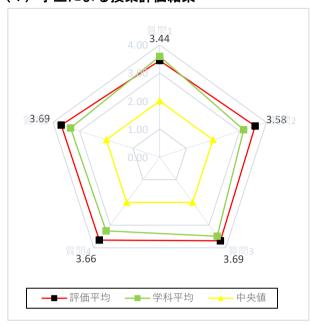
(2) 結果の分析と評価

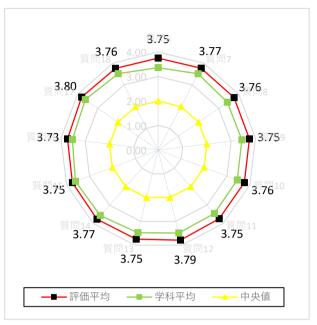
本授業は2名で担当し、内容に応じて担当部分を分ける形で実施しており、いずれも音楽を伴うグループワークを中心とする内容である。学生の評価はどの項目も学科平均より高い数値で一定している。自由記述の数は少なかったものの「楽しかった」「仲間との絆が深まった」など肯定的な記述がみられた。グループワークの課題を達成する過程では、学生同士が協力しながらも試行錯誤が繰り返し、苦労する様子が見られるが、発表では音楽を楽しみ、保育に繋げることができた達成感を感じるとともに、他のグループの発表に刺激を受ける様子もあり、将来の自身の保育に生かせるというイメージが持ちやすいと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

再過程認定の「領域に関する専門的事項の新設」に伴い、次年度からは領域「幼児と音楽」が新設科目として立ち上がる。本科目の名称はこれまで通りではあるが、内容は大きく変更することになる。科目担当者は1名となり、主に器楽をテーマとした基礎知識や演奏技術を身につけ、実践的に学んでもらう予定である。また、器楽による表現の様々なアプローチ方法を教授し、指導案作成にも反映できるるよう指導を行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容(造形表現)の 理論と方法	75名





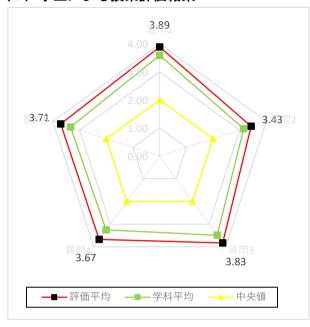
(2) 結果の分析と評価

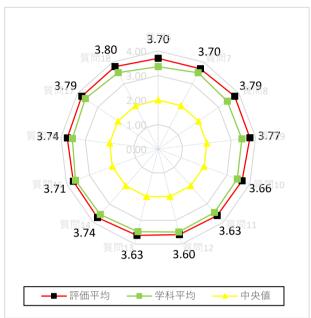
- ・学生による自己の授業に対する参加態度に関する評価では、一部、質問1の欠席に関して自己評価が低い 学生もみられるが、その他の質問項目に関しては全て学科平均よりも上回っており、学生のこの授業に向か う姿勢(態度)は好ましいものであったととらえている。
- ・教員による授業内容や授業スタイル等に対する評価は質問6~18まで、全てにおいて学科平均よりも上回っている。このことから、教員の授業に関する工夫改善は功を奏しているととらえたい。
- ・前期に担当している図画工作の授業と同様、毎回授業の初めに「シラバス」の確認や、評価の規準(基準)を確認したり、学生の模擬授業や作品に関するプレゼン(鑑賞会)において「自己評価・相互評価」をさせたことが、授業の目標達成につながったと思われる。
- ・実習を伴うという授業の特性上、ハイブリッド型授業やオンラインの授業になった場合に、直接的な指導がやりにくいというデメリットがある。しかしながら画面を共有することで、対面では不可能な「教師の個々の作う品に対するコメント」を共有できるというメリットもあった。また、すべての学生に対して平等に指導・助言をする時間が確保できた。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・授業評価結果においては、質問2~18まで、全てにおいて学科平均を上回っていることから、現在の授業スタイルを踏襲しながら、年度それぞれの学生の実態を踏まえながら、臨機応変に工夫改善を行っていきたい。
- ・授業全般に関する改善点としては、オンライン授業になった場合、もしくはハイブリッド型の授業になった場合に、自宅でも制作可能な題材にしたり、指導略案を手書きではなくWord文書で作成させるなどの工夫が必要である。また対面授業で実施している「相互評価の場」についても、チャットを利用するなど、よりライブ感のある効果的なスタイルにしていきたい。
- ・授業で使用したワークシートはすべてファイルに閉じさせ、最終授業後に提出させているが、15回の授業の中間評価として、二回に分けて提出させることも検討したい。
- ・令和4年度に新たに導入したいと考えている授業方法としては、一つは現在も模擬授業や作品発表のプレゼンにおいて行っている「言葉かけ」のシミュレーションの時間を増やすこと。そしてもう一つはクリニカルアート(臨床美術)に係るワークショップ的な学びの時間を取り入れてみることである。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容(リズム表現) の理論と方法	81名





(2) 結果の分析と評価

概ね良好な結果だと思われる。

体育館の暑さ及びマイクの声が聞き取りずらい反響音、その上にマスクをつけての実技という悪環境の中の 結果だったので、学生の評価を嬉しく思う。

質問のシラバスに関しても授業の初めに内容を伝え、ホワイトボードにも張り付ける工夫により、以前より は結果が良好であった。

ただ、学生の自己評価の高さには疑問を感じる。それは、習得する実技は一生懸命取り組んでいたが創作の 部分で、ある一部の学生に頼り切りであった。

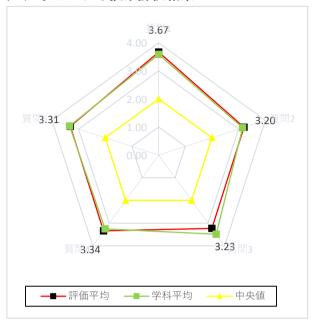
今後の課題としてとらえたい。

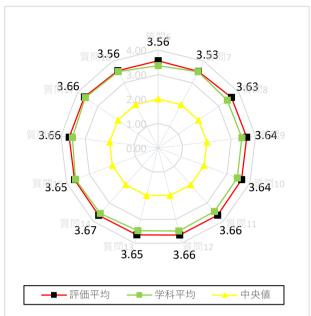
(3) 次年度に向けての取り組み

実技はコロナにより口頭で伝えることが多く、実習や現場に立った時に役立たないのではないかと思われ ることが度々あった。 次年度は、そういうことも踏まえより改善し、学生が自分の力を前面に出せるような環境や指導に取り組み

たい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容(言葉)の理論 と方法	92名





(2) 結果の分析と評価

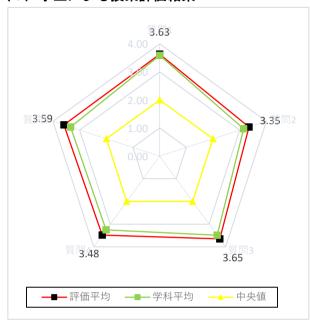
表現・音楽コース、心理・環境コースともに同じペース、内容で進めていった科目であるが、アンケート結果に差が見られる結果となった。

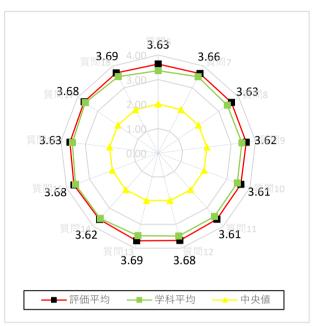
表現・音楽コースの結果は多くの項目で学科平均値を下回る結果となったが、心理・環境コースの結果は、アンケート項目の「授業内容・方法について」「総合評価」の全てにおいて学科平均値を上回っていた。試験結果と比較してみると、心理・環境コースの方が平均点が高く、授業評価は学生の理解度と比例すると推測する。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の授業への意欲や理解度を確認しながら授業を行う。また、引き続き学生の実習や実践に繋がる授業内容を工夫しながら、保育所保育指針や幼稚園教育要領の言葉の領域との関連を十分に説明し、学生の理解度を高めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		国語	74名





(2) 結果の分析と評価

1. 学生の取り組み

遠隔授業であったが、学生の取り組みは、学科平均を超える、

又は同等程度の良好な結果となっている。

特に授業における真剣な取り組み(質問3)、総合的な自己評価(質問5)は、

高い評価となっており、学生たちが遠隔授業の中心である動画視聴による内容理解と その確認のための課題にしっかりと取り組んでいることが伺える。

2. 教授方法・教員の対応

全体的に、学科平均等程度の評価となっており、おおむね良好の評価となっている。 声の大きさ・明瞭さ・話す速さ(質問12)、授業の進む速さ(質問13)の評価が 高いことが特徴的である。

本授業は他の講義系の授業にくらべて、演習的な要素が多い。

講義部分で扱う知識の分量が少なく、毎回のテーマも絞り込みができており、

説明内容もかなり端的なものとなっている。学生にとって程よい分量なのかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

2年間、遠隔授業への対応に力を入れてきた。

本授業をはじめ、中規模~大規模の講義(90人以上)が中心であるため、

非同期オンデマンド型を採用し、授業動画の質向上を優先して授業準備を進めてきた。 次年度は対面授業が基本となることが決まっている。

対面授業時は、レクチャーとグループワークを組み合わせていた授業を展開していた。

しかし、レクチャーが必ずしも効果的ではない、グループワークに時間がかかり授業の進度が落ちるといっ た問題点があった。

そこで、2年間で作成した授業動画を活用して、

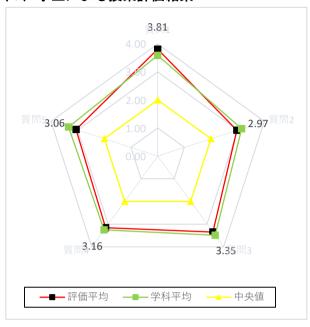
レクチャー部分をオンデマンド授業(動画視聴 + 確認テスト、リアクション・ペーパー)でおこない、

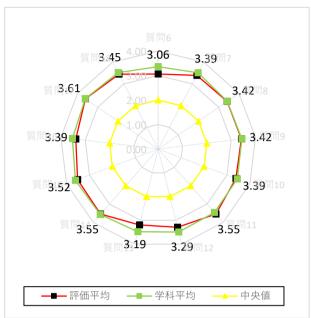
先行知識の獲得したうえで、対面によるグループワークで知識や理論を活用し実体化する、 ブレンデット型授業をめざしていく。

残念ながら、本授業はカリキュラム改変につき今年度で廃止となるが、 今回高評価だった話す速さや授業の進む速さについては、他の科目の授業設計対して示唆的である。

どの科目でも授業内容を絞り込み、端的な説明を意識していく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		解剖生理学	31名





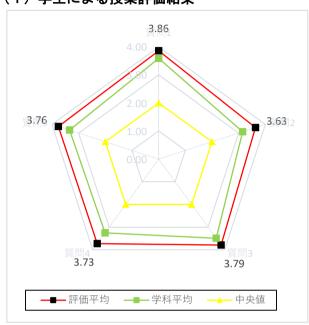
(2) 結果の分析と評価

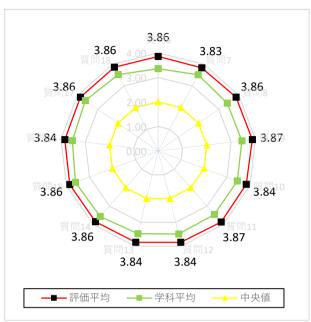
遠隔講義となり、双方向的なやり取りをしながらの講義は困難であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義の途中で、チャットでの質問時間を設けるなどの工夫をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		図画工作	80名





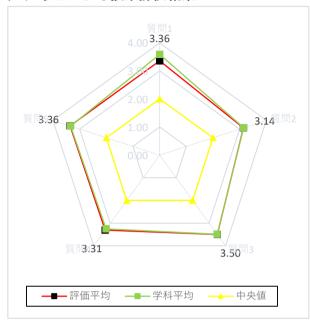
(2) 結果の分析と評価

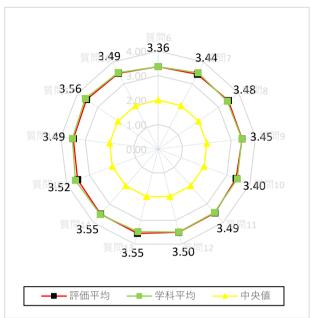
- ・学生による自己の授業に対する参加態度に関する評価は、質問1~5まで、すべての項目において学科平均よりも上回っており、本授業の学生自身の学びのスキルは概ね達成できていると思われる。
- ・教員による授業内容や授業スタイル等に対する評価も質問9~18まで、すべての項目において学科平均よりも上回っている。教員の授業方法が効果的であったととらえている。
- ・毎回授業の初めに「シラバス」の確認や、評価の規準(基準)を確認したり、学生の模擬授業や作品に関するプレゼン(鑑賞会)において「自己評価・相互評価」をさせたりしたことが、授業の目標達成につながったと分析している。
- ・授業全般に対する反省点としては、どうしても実技を伴う授業内容であるために、オンラインの授業やハイブリッド型授業においてはきめ細かな指導がやりにくかった。しかしながら半面、一部の学生ではなく、すべての学生に対して平等に指導・助言ができたこと、また、その指導・助言内容を参加している学生全員が共有できたことはメリットであったと回答している学生もいた。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・授業評価結果では学生の自己評価に関しても、教員の授業スタイルや内容に関しても、特に低かった項目は見当たらない。したがって現在の授業スタイルを踏襲しながら、学生の実態に応じた授業を展開していきたい。。
- ・授業全般の反省点に対する取り組み方法としては、オンライン授業になった場合、もしくはハイブリッド型の授業になった場合は、授業スタイルや評価の方法の工夫改善が必要である。「課題の与え方」や、「相互評価のスタイル」についてより効果的な内容にしていきたい。例えば、対面授業で使用する画用紙の大きさを、画面で写しやすい大きさにしたり、相互評価の評価の方法も対面の授業で取り入れている「模擬授業」的な発表がやりにくいので、評価項目を変えたりする必要がある。
- ・令和4年度に新たに導入したいと思っている授業方法としては、現在も模擬授業や作品発表のプレゼンにおいて行っている「言葉かけ」のシミュレーションの時間を増やしたり、クリニカルアート(臨床美術)に係るワークショップ的な学びの時間を取り入れてみたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児体育	90名





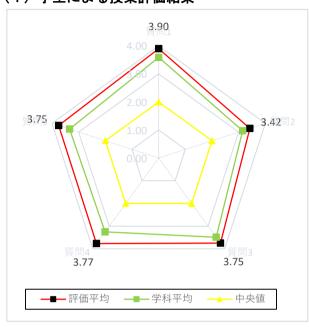
(2) 結果の分析と評価

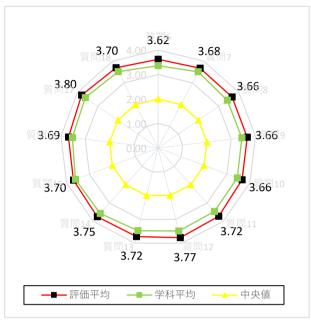
全体的に学科平均よりも低い結果となった。この授業では実技を通した体験をもとに子どもの視点や保育者の視点を考える機会を作ったりもしたが、こちらの授業の意図や伝えたいことが学生にはわかりにくく、きちんと伝わらなかったのではないかと考えられる。映像や配布資料も含め、もう少し工夫をしなくてはいけなかったと感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の反省を踏まえ、わかりやすい授業とは何か、こちらの意図が明確に伝わるよう改善し、学生が実践を通して、子どもの視点や保育者の視点で考える機会を作り、学生が主体的に取り組めるよう今後も工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		音楽	82名





(2) 結果の分析と評価

本授業は、ピアノ等の音楽経験や音楽の予備知識を問うアンケートに基づいて習熟度別に「未経験者クラス」「初級者クラス」「経験者クラス」の3クラスに編成している。今年度は「未経験者クラス」と「初級者クラス」を担当し「経験者クラス」は非常勤講師が担当した。授業名は「音楽」であるが、内容は理論が大半であり、ピアノなどの楽器経験のない学生にとっては難解な部分が多い。しかし初心者の学生たちにも解りやすく、なるべく楽しみながら授業を受けられるよう工夫することが本授業の私自身の目標であり、授業を行う上で常に意識している点である。

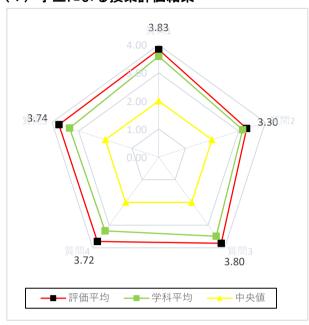
授業を評価する質問6から質問18の13項目について、全ての項目が評価点が学科平均を上回っている。また学生が自身を振り返る質問1から質問5の5項目についてもすべてが学科平均を上回りっており、学生が本授業に意欲的に取り組んだことが窺える。

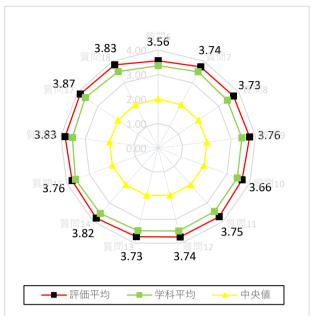
自由記述には「全員が解るまで丁寧に教えてくださり、良い授業だった」「理解しやすいように積み木 (音符積み木)を使うなどの工夫が良かった」などの記述が見られ、「楽しく解り易い授業」という担当者 としての目標が学生に評価されたことを嬉しく思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度は全体的に高評価が得られ、学科平均を下回る項目はなかった。次年度もリトミックの手法も用い、楽しみながら理論を学べるよう授業を組み立てたいと考えている。また、今年度、試験的に1クラスのみで実施した、PCを使用した授業「楽譜作成ソフトの活用」を次年度は3クラス全てで実施し、全ての学生がPC上で楽譜を書くスキルを身に付けられるようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		ピアノ I	102名





(2) 結果の分析と評価

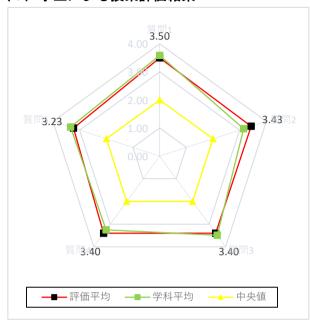
選択制の設問については、シラバスに関するとことは比較的低めだが、それ以外は大差ない。いずれの項目も学科平均よりも上回っていることがわかる。

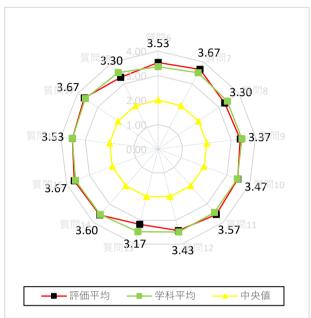
自由記述では、「初心者の私でもできるように親身になって教えてもらった」「頑張ろうという気持ちにさせられた」「丁寧に教えてくださり、どんどん進むことができていた」など、授業を通して様々な成長を実感してくれた様子がうかがえた。本科目は複数の教員で担当するため、多少学生によっての差はあると考えられるが、少人数対応のためおおむね学生の満足度は高かったといえる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回はたまたまオンラインレッスンや動画提出型試験をする必要がなく、対面授業が実施できた。来年度は実施できるとは限らないので、オンラインレッスンへの抵抗をなくすため、実施方法などを具体的に説明できるように準備が必要である。学生が不安を感じないように、教員側も機器の使用方法をマスターし、全員が同じ対応をできるように心がけたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生化学	31名





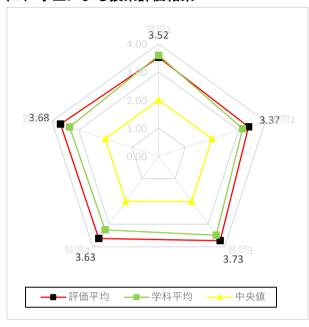
(2) 結果の分析と評価

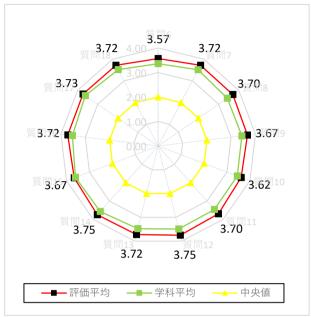
評価はいずれも平均並みであるが、とりわけ自由記述での「難しかった」というコメントを含め、授業の進む速さ(質問13)の評価が低かったことは、予習・復習の自己学習が不足していることが十分に考えられる。授業内容については、内容を厳選し可能な限り模式図などを用いて、分かりやすく資料を改め、説明に努めたが、質問8.9は比較的低いものとなった。このことは、これまでの分析で記した、生化学への興味関心や、他の科目とのつながりの理解が乏しいことが考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業での興味関心を与えるよう、日常や他の科目に関わる話題に触れることで、興味関心を与えていきたい と考える。また、効果的な学習を進めていくため、ワークシートなどを盛り込んだ資料作りを検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		ピアノ I	63名





(2) 結果の分析と評価

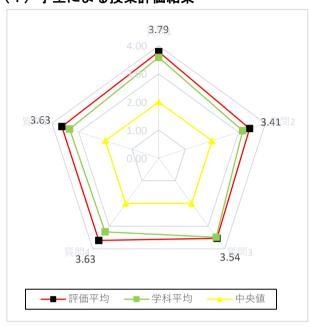
選択制の設問については、シラバスに関するとことは比較的低めだが、それ以外は大差ない。いずれの項目も学科平均よりも上回っていることがわかる。

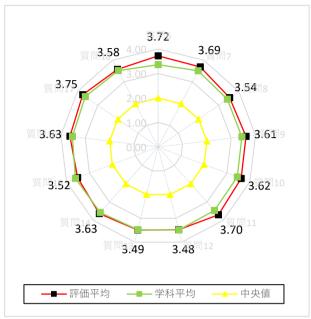
自由記述では、「初心者の私でもできるように親身になって教えてもらった」「頑張ろうという気持ちにさせられた」「丁寧に教えてくださり、どんどん進むことができていた」など、授業を通して様々な成長を実感してくれた様子がうかがえた。本科目は複数の教員で担当するため、多少学生によっての差はあると考えられるが、少人数対応のためおおむね学生の満足度は高かったといえる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回はたまたまオンラインレッスンや動画提出型試験をする必要がなく、対面授業が実施できた。来年度は実施できるとは限らないので、オンラインレッスンへの抵抗をなくすため、実施方法などを具体的に説明できるように準備が必要である。学生が不安を感じないように、教員側も機器の使用方法をマスターし、全員が同じ対応をできるように心がけたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		乳児保育 I	81名





(2) 結果の分析と評価

質問項目1~5について、学科平均よりもいずれも上回っており、学生は意欲的に学習に取り組むことが 出来ていたことがわかる。

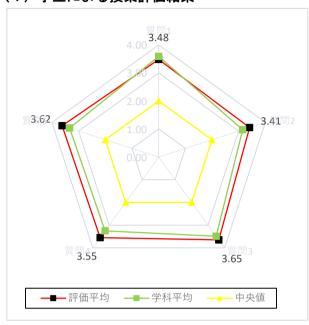
また、質問6以降も学科平均を前後しており、特に問題となる項目はないと思われる。特に、この授業では毎時間最初にシラバスを用いて本時の学習内容を確認することから始めていたため、質問6,7の評価に繋がったと思われる。

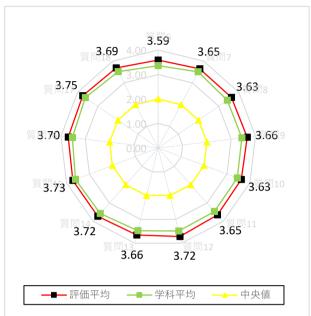
質問12,13に関しては、授業内容のボリュームが膨らみ、授業内に全てを解説しようという思いから早口で説明することも多かった。学生から指摘を受けるたびに気を付けてはいたのだが、どうバランスを取るのか難しさを感じている部分である。

(3) 次年度に向けての取り組み

全体的な数字では特に問題がないように思えるが、詳細な回答データを見ると、授業に対して不満を抱えている学生が数名いたようである。より多くの学生に目を向けることが出来るよう、Teamsなどを用いて双方向のやり取りに力を入れていきたい。また、授業内容を精査し、必要な情報を分かりやすく解説するという取り組みも必要であると感じた。学生の興味やニーズに合わせた情報と、普遍的な内容をうまく組み合わせ、より学生が興味を持てるような授業へと改善したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		乳児保育Ⅱ	74名





(2) 結果の分析と評価

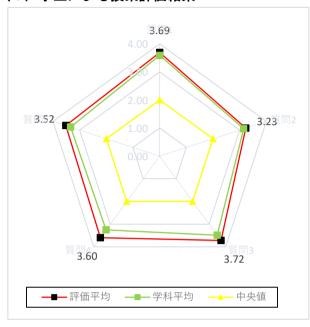
質問1に関しては学科平均を下回っているものの、その他の項目は全て学科平均を上回る結果である。質問1に関しては授業が1限目にあったことも影響していると思われる。

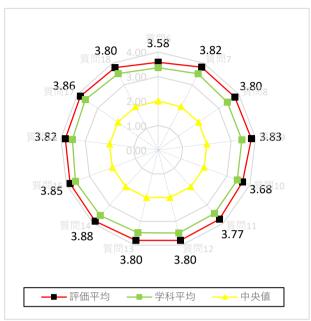
この授業は学生の興味やニーズに沿った内容を演習という形態で実践できたことが高評価に繋がっていると思う。また、学生の授業理解を促進するための工夫として、小グループで実践する学習環境を整えた。そのため、学生の満足度が高くなったのだと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

自由回答を見ても、「楽しかった」や「しっかりと学ぶことが出来た」など、学生の自信につながったと思われるコメントが多かった。次年度以降も、学生が保育技術をしっかりと習得できるよう、小グループの取り組みを続けていきたい。また、学生のニーズをしっかりと拾い、よりよい授業を目指していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		ピアノⅡ	67名





(2) 結果の分析と評価

本授業はピアノII受講者とIR受講者が混在するクラスで同時に行い、さらに計9名の教員で対応しているため、様々な事例が含まれていることを先に確認しておく。また集計結果についても、3クラスにまたがっているため、それぞれの傾向があるとは思うが、ここでの評価・分析は全クラスをまとめたものである。

質問2「シラバスを活用したか」についての数値が低いが、オリエンテーション時に別紙を配布していることや、シラバスには盛り込めないような、ピアノ特有のグレード別進行表やポイント制などの説明が必要だったため、シラバスを見る機会がなかったとも言える。

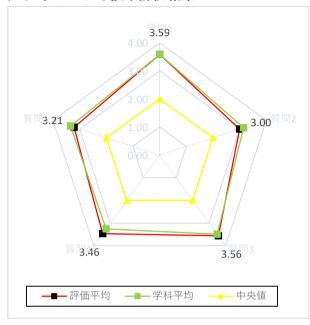
今回の自由記述では、弾き歌い試験を動画提出型にしたことに言及しているものがいくつかあり、好意的にとらえている意見が多く見られた。また、前回と指導教員が変わった学生からは、「先生が変わったことで、自分ができていない部分に気づくことができた」という声があった。教員といえど、弾けるように指導するためのアプローチは様々であり、指導者が変わることへのメリットを我々自身も再発見することができた。

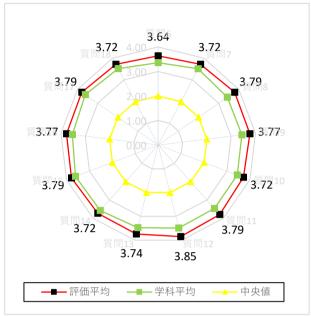
(3) 次年度に向けての取り組み

昨年「IIとIRを分けてクラス展開をした方がよい」という要望があったことを受け、年度最初の授業にて、混合にしている理由やメリットにふれたところ、それに対する不満は一切あがらなかったため、一定の効果があったことが伺える。

次年度についても、混合で編成する予定であるが、学生が不利益にならないように、教員 1 人あたりのバランスも配慮しつつ検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		リトミック	40名





(2) 結果の分析と評価

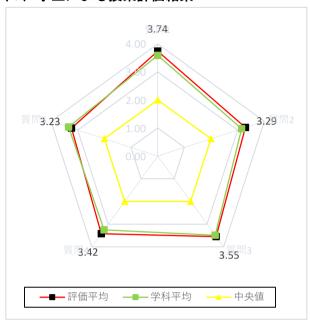
今年度もコロナ感染拡大による授業の中断があり、工夫しながら対面授業を進めることとなったが、授業内容が幼児保育の音楽的学びの中でも、特に保育現場での実践に特化した内容であるため、学生の評価は概ね高いものであった。授業内のグループ活動の中では、常に学生自身の発想や工夫が求められることから、学生も毎回達成感が持てるのではないかと思う。また本授業評価において、他の担当科目と比較して、学生の自由記述が大変多いことからも学生の満足度の高さが窺える。

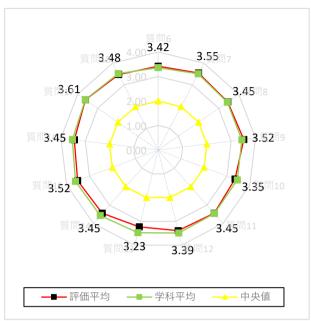
学生のコメントの多くは、「解り易い」「楽しい授業」「現場で役立つ」「ティーチングにおける先生役の 経験でリトミックが身につく」といった意見が多数あり、演習後にノート記入の時間を確保し、活動を振り 返りつつ、学生自身の言葉で文字に置き換える作業を大切にした点も、学生の満足につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の履修者は40名で、最終的には38名が試験に合格し「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」を取得した。次年度も授業内の小さな工夫を積み重ね、履修者全員が資格取得できるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		基礎栄養学	31名





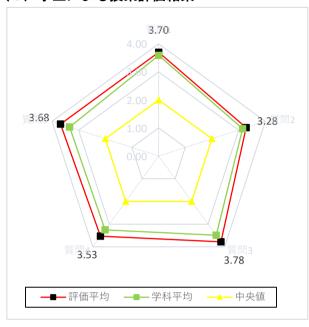
(2) 結果の分析と評価

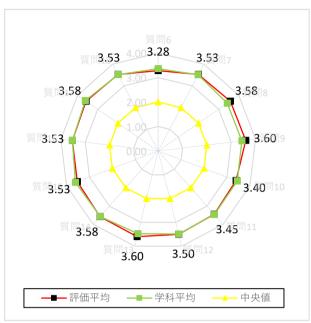
評価は総じて平均並みであった。自由記述からは、「資料を印刷してくれるから、とても分かりやすかった。」「授業内容は難しいですが楽しいです」「スライドがわかりやすかったです。先生の話もためになることで面白かったです」「授業をわかりやすく教えて下さる。」「グループでの話し合いが多くてよかったです。」という、比較的良い評価を得た。一方では、「ノートのまとめ方についてもう少し説明してほしいです」というコメントもあり、授業の受け方やノートの取り方など、初年次教育としての充足が必要と考えられた。質問13が若干低い点は、予習・復習の不足が考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

予習・復習を促す仕掛け、授業初回でのノートの取り方を含めた授業の受け方について丁寧な説明が必要と 考え、資料作成や説明の改善を検討する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		総合表現	43名





(2) 結果の分析と評価

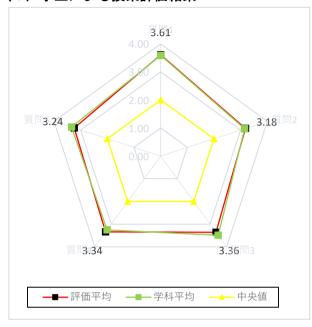
本授業は表現フェスタでの発表に向け「ミュージカル」「ミュージカル器楽」「器楽アンサンブル」の3 チームに分かれ、2年生の卒業課題研究IIと合同で進めていくものである。例年と比較すると授業評価はかなり低い結果となった。その理由の一つとして考えられるのは、本授業の教員の指導は主に2年生を対象にしたものであり、実際に1年生を指導するのは2年生であることから、1年生からは教員の指導が見えにくいことがあるだろう。また、今年度は1月に予定していた表現フェスタが、コロナウイルス感染拡大により中止となった。実際は3月に発表会として再設定し開催できたが、本評価は中止が決定した直後に行われているため、学生の喪失感が評価に反映したのではないだろうか。しかし、自由記述欄には、「ミュージカルに向けて楽しく頑張れた」「大好きなミュージカル本番に向けて2年生と頑張ることができた」「素敵な先生と先輩に恵まれて、大変な練習を毎日楽しく乗り越えることができた」などの前向きな記述も見られた。

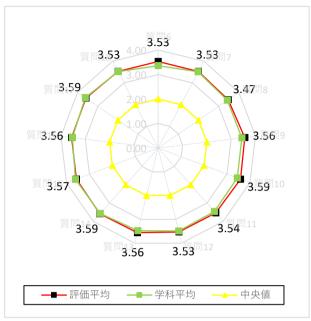
(3) 次年度に向けての取り組み

本授業が1・2年合同で進められる点や学生が主体となる点で、2年生になり、1年生を牽引する立場になると、授業時間や自主練習時間の区別なく、練習に励む必要性を感じ自主的に動くようになるが、1年生のうちは慣れないこともあり、気持ちの面で温度差が少なからずあるようだ。もちろん意欲は受講者全員に備わっているが、足並みをそろえるのは難しさもある。

練習に関しては、基本的には学生の自主的な計画に基づき行っているが、参加率が悪いと再度集合することになるなど、効率の面でもう少し改善する余地はありそうである。学生同士で考えられた計画にあえて教員が介入しないほうがよいと判断し、指導してきた部分もあるが、今後は適切なタイミングで助言し、学生同士をつないでいけるよう意識していきたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		特別な教育的ニーズの理解とその支援(障害児保育)	90名





(2) 結果の分析と評価

全体的に学科平均とほぼ同様の評価となっている。自由記述については、14件コメントがあった。それらを まとめると以下のようになった。

- 1. 障害児に対する新しい知識を増やすことができた。
- 2. 動画や実体験をもとにした話が分かりやすかった。
- 3. 授業のペースが適度だった、授業のペースが速かった。
- 4. 実習で役に立った。
- 5. 試験勉強が大変だった。
- 6. 学生の体調にも配慮した進め方だった。

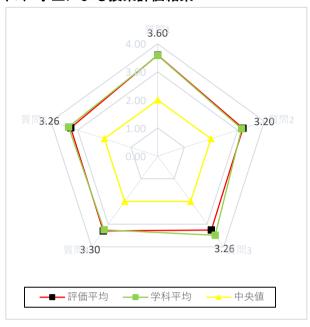
7. 大切な箇所についてスライドに示してあった。 特に4については学生が実体験したことにつながったため、評価できる。

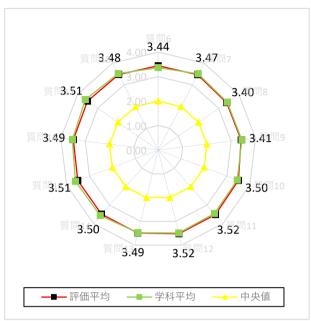
6については体調に配慮した記憶がなく、通常の対応だったと思われる。 テキストを基本にスライドを作りこんだことにより学生の理解度が上がったと思われる。また、障害児に対 する興味を示したといった記述もあり、障害理解という授業の到達目標はある程度達成できたのではないか と思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も講義が中心となるが、スライドのスピードについては、その都度確認しながら進めていくことが必 要と思われた。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子育て支援	91名





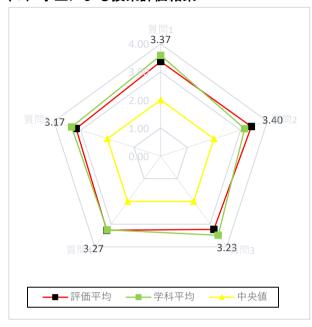
(2) 結果の分析と評価

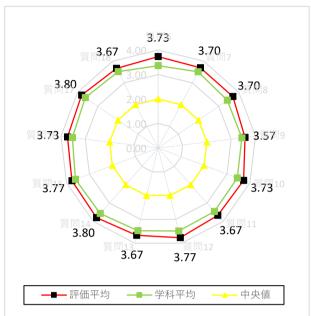
数値から見る全体的な評価は平均よりも若干低くなっている。しかし、自由記述では、スライドの分かりやすさ、2人の教員(オムニバス)がそれぞれの担当分野について、経験談を交えて説明したり、深い洞察により、保育士としての専門性を感じることができた、授業の進め方が分かりやすい、視聴覚教材を使うことにより理解が深まる、といったコメントが多くみられ、高評価となっていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、わかりやすい教材続くを目指していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		解剖生理学実験	31名





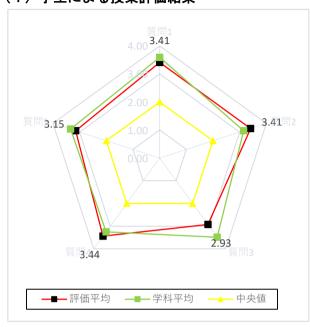
(2) 結果の分析と評価

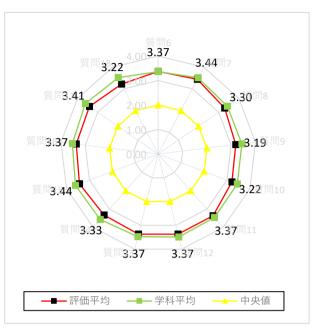
コロナ禍で行動に制限がある中、実習を無事に終えることができた。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の興味を探りながら、実験実習のテーマを考えたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		発達と老化の理解Ⅱ	43名





(2) 結果の分析と評価

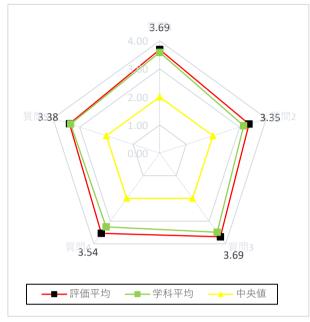
回答したのは43名中27名であった。留学生の多くがまだ入国していない時ではあるが前期では全員評価 を行っていたのでこちら側の声掛けが足りなかったと思われる。

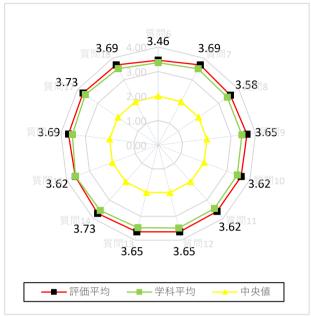
学生自身の授業に対する自己評価は低く、特に居眠りや私語が多かった。授業の内容をもっと興味を引く内容にしていく必要がある。自由記述では、勉強になった、わかりやすかったとの記述が多くみられた。授業の時は理解できたが後日思い出せるかが不安であるとの記述あり。思い出しやすいように簡潔な説明の希望あり。もともと理解が難しい授業の内容であるので、次の授業の時にも再度説明を行うなど記憶に残す工夫が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答の時間を決めたり、回答していない学生に対し個別に回答を促す。オンライン授業、対面事業共にさら にわかりやすい工夫を行う。理解した記憶が継続するように復習を行いながら授業を進める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		歌唱表現	26名





(2) 結果の分析と評価

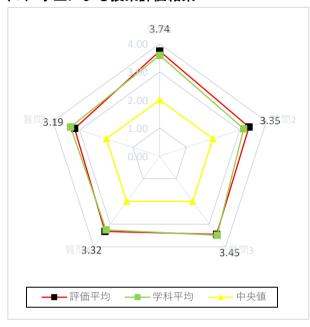
本授業は「歌唱」を通して、表現することについて考える内容であるが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大により、授業内容を大幅に変更せざるを得ず、またマスクを着用して歌唱するという点で「歌うことを心から楽しむ」ことができなかったことが悔やまれる。本授業の目的である「表現力の向上」(顔の表情も含め)についてもマスク着用により、難しさを感じながら授業を進めることとなった。

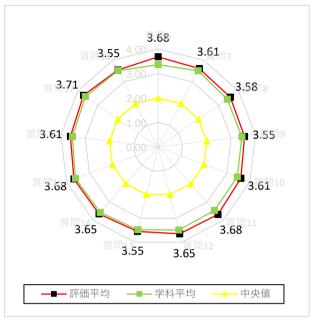
学生の評価は学科平均よりやや高いところで一定しており、例年と比較すると低い評価となっている。自由記述には「ミュージカルでも生かすことができる内容もあり、真剣に取り組めた」「歌う時の基礎知識をイメージしやすく学ぶことができた、以前より歌うことに自信を持ち楽しく取り組めている」などの記述がみられ、歌唱に対する印象が好転したと感じた学生がいることには嬉しく思った。

(3) 次年度に向けての取り組み

歌唱は目に見えず成果が判り難いが、学生が自身の歌唱力が向上したことを実感できるような声掛けを多くしたい。教材として過去に取組んだミュージカルの楽曲を用い、個人やグループで取り組む。発表後に実際の実技発表会のミュージカルの歌唱部分を視聴し、自己課題や求められる表現を見出し、実技発表会に向け学生一人ひとりが具体的な目標を設定できるようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生化学実験	31名





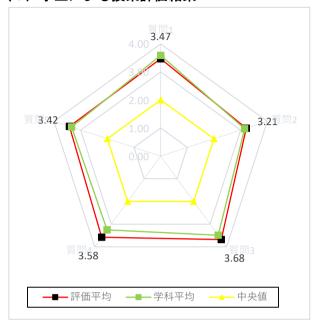
(2) 結果の分析と評価

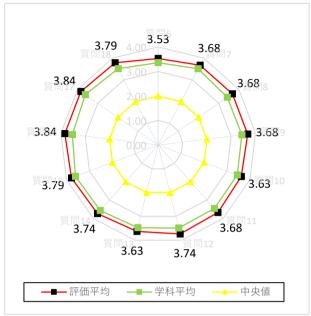
自由記述からは、「遠隔授業が入ったこともあり、説明と実験内容が一致せずやっていることがわからないことがあった。」が揚げられた。今回は、コロナ禍において、授業形式が変則的になっており、説明の座学と実験が断続的にならざるを得なかった。しかしながら評価結果は総じて例年通りであり、コロナ禍によって学習の質が下がることはなかったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

可能な限り対面での実施を行い、また作成資料の改善を図り、学習の効果を高めていくようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		器楽表現	20名





(2) 結果の分析と評価

質問6「シラバスについて説明があったか」の設問に対し、幾分評価が低い。初回オリエンテーションに てスケジュールやねらいなどを別紙で配布しているので、シラバスを確認した意識が低かったのかもしれない。

それ以外の項目では著しく低い・高いものは特に見られない。

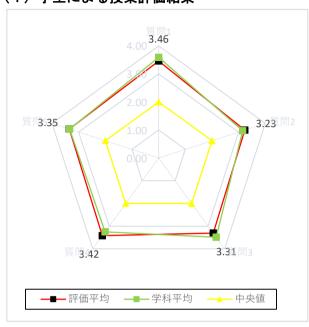
自由記述の回答者は3名と少なく、新型コロナウイルスによる影響を唱えるものは見られなかった。 一つの意見であるが、「いつもと違うチームで活動ができてよかった」というものがあり、こちらの思惑 が学生にフィットしていることを感じた。

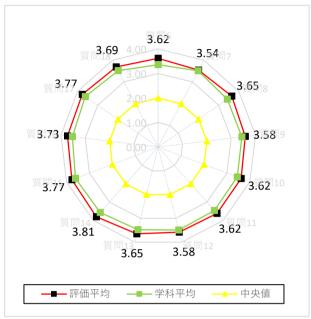
(3) 次年度に向けての取り組み

来年度も新型コロナウイルスによる影響は考えられるため、シラバスに示している通りに進められるとは考えにくい。できる限り予定通りの対面で、実践を通した授業を行いたいところだが、状況に応じて、実践に頼らない内容を常に準備しておく必要がある。しかし本心としてはそのような対応で終えてしまうよりも、対面授業が可能になった際に実践させたい所存である。学生が現場で困らないように、できる限りを尽くしたい。

尚、この場にて恐縮だが、アンケート集計表の中に「回答率」の欄があるが、これはあくまでも"回答してくれた者のうち、その設問に対して何人答えたか"の割合であるため、履修登録者に対しての回答率と勘違いしやすい。授業評価自体の回答率はここには表されておらず、自分で計算しないといけないため、改善を求める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		認知症の理解 I	45名





(2) 結果の分析と評価

多くの項目で学科平均を上回る結果となった。特に質問、学生からの質問等に対する誠実な対応、学生への公平な対応、双方向での授業展開、熱心な授業への取り組みの項目について平均を大きく上回る結果となった。

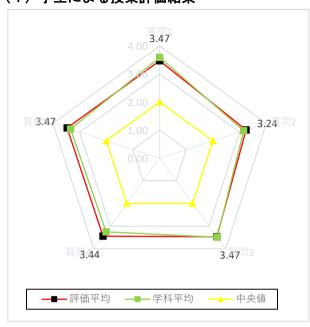
留学生も多く、また授業形態は、日本にいる学生は対面、海外にいる学生はオンラインまたはオンデマンドと複合的な形態での授業となった。学生に出来るだけ、理解してもらえるように、資料は文字の大きさや量、視認性などに配慮を行った。また、留学生の資料に関しては、すべての資料にふりがなをつけ、理解しやすいように工夫を行った。授業後も復習しやすいように授業のレコーディングを共通のフォルダに蓄積し、復習しやすい環境にも配慮した。

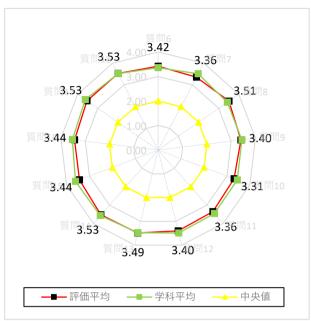
その反面、シラバスの活用や授業中の私語・居眠り、自己学習の取り組みの項目で平均を下回る結果となった。シラバスについては、初回に説明は行ったが、その後の活用は乏しかった。私語や居眠りに関しては、もっと学生が能動的に参加できるような工夫が必要と感じる。また、自己学習についても、復習できるっ要に課題設定等行うべきだと反省した。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も今年度同様に資料の工夫や復習できるような環境設定を継続して行う。また、学生が興味をもち能動的に授業に参加できるように、授業中にディスカッション出来る時間や動画等の活用を心がけて行く。また、自己学習が進むように課題の設定や自己学習の声掛けを行っていく.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児ダンス	46名





(2) 結果の分析と評価

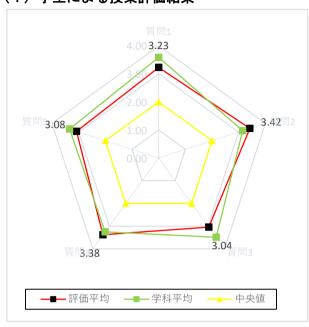
コース科目で表現コースの学生が対象であるが、学科平均を少し下回る結果となっている。 これは、実技発表会の創作および教材の創作等を自分たちで作り上げる内容としていることが、自信に繋 がったことが関係している。

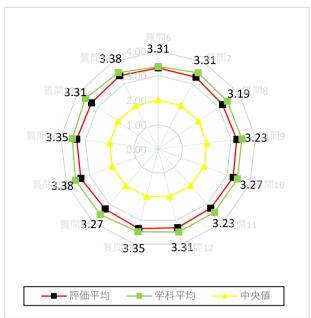
指導側としては、自信をもって授業に取り組んでいても伝わらないこと改めて感じた。次年度の課題としたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

改めて業内容を検討し、学生に伝わる授業で臨みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		障害の理解 I	43名





(2) 結果の分析と評価

基本的に対面による講義であった。ただし、感染症対策のため海外にいる留学生も同時に遠隔授業も行った。

そのため、機会操作も含めて対面と遠隔の両方を対応するため、特に遠隔授業の学生は聞き取りにくいところや説明が伝わりにくい箇所もあったと考える。

授業評価は、学科平均よりやや低い項目が多かった。対面と遠隔授業の同時実施に不慣れなためだったと思わわれる。医学的側面や制度論を扱う科目であり、特に留学生にどう授業内容をかみ砕いて伝えていくかに 苦慮した。

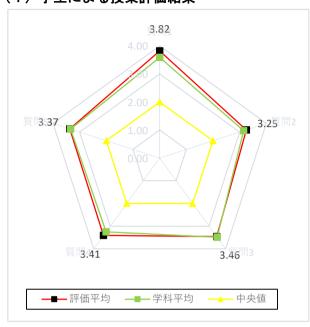
一方で、自由記述においては、留学生の学ぶ意欲が高い学生もおり遠隔授業なりの工夫ができたと思われた。ただし、どうしても理解度の差があると思われるため、授業に参加する学生が理解しやすいようにより工夫を図っていきたい。

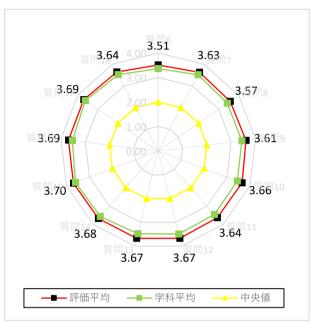
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、対面授業であるか遠隔授業であるかは未定である。

本科目の場合は、制度論と実践論がミックスしているため、可能な限り対面が望ましいと考える。 しかしながら、遠隔授業で実施する可能性もありうるので、特に留学生においては遠隔授業でも理解がしや すいように授業のテンポや課題内容、また双方向を意識した授業が展開できるように工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導 I	90名





(2) 結果の分析と評価

質問1~質問5に関しては、学科平均とほぼ同じ数値であり、学生は意欲的に授業に取り組めていることが分かる。特に質問1の授業の出席状況に関しては、この科目では重視している点であるため、学生も授業の意図を理解し他の科目以上に出席に対する意識が強いことが伺える。

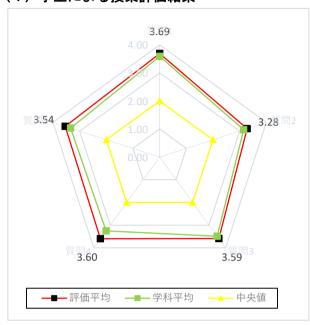
質問6以降に関しても、多くの項目で学科平均を上回る数値であり、学生はこの科目に満足していると考えられる。

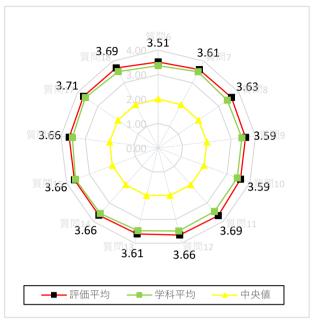
(3) 次年度に向けての取り組み

学生の自由記述を見ると、授業の内容や方法に概ね満足していることが分かる。事前指導が実習意欲を高め、事後指導により実習内容をより深く理解することが出来たようである。また、グループワークを取り入れたことも効果的だったようである。

また、自己課題に対して厳しい目でチェックを行ったことが良かったというものもあり、学生の提出課題に対してしっかりとコメントを残すことの大切さも改めて感じることが出来た。次年度以降も、学生が実習に対し意欲的に取り組めるよう、しっかりとサポートしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		こどもの遊び	89名





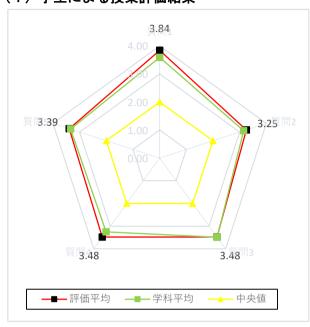
(2) 結果の分析と評価

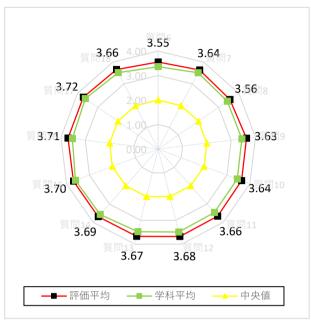
- ・回答率は前期、後期共に95%で、昨年度から大幅にアップした。授業内での回答の呼びかけにより、高い回答率になったと思われる。
- ・前期はほぼ全ての項目において、学科平均値より高い結果であったが、後期は「授業内容・方法」の項目を中心に、学科平均値より低い結果となった。要因として、特に後期から実践活動が中心となったことが影響していると考察する。
- ・自由記述では「学生同士空き時間なども使って協力してできて達成感があった」、「準備時間も楽しかった」など意見が見られた。一方、「もっと親子に関わりたかった」という声もあった。コロナの影響で、親子いきいき広場の開催が後期に延期されたことによる機会の減少や、参加率が低い親子がいたことが要因にあると考察する。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・本科目は複数教員で担当する科目である。そのため、教員間での分担や役割を明確にしながら、グループの話し合い等に細やかに入り込み、学生一人ひとりがやりがいを感じられる取り組みにしていくよう工夫する。
- ・基本的に学生による主体的な活動ではあるが、より良い取り組みになるよう適切に指導を行う。その際、 学生に指導する内容の意図、意味、背景を具体的に示し、学生が納得しながら取り組めるようにする。
- ・本科目は「親子いきいき広場」に係る科目である。適宜、シラバスに記している到達目標や、本科目を学 ぶ意義について確認する時間を設けながら、学生の理解につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習 I (保育所・施 設)	90名





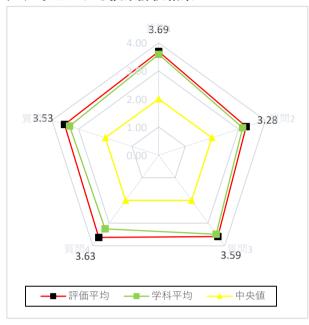
(2) 結果の分析と評価

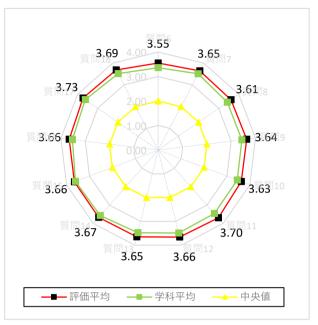
この科目は1年次2月の保育所実習と2年次6月の施設実習を合わせて単位認定しているものである。そのため、今回の評価項目は実態と合わない部分が多く、学生は評価しずらかったと思う。しかし、どの項目も数値が高いことから、学生は意欲的に実習に取り組むことが出来たものと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

コロナ禍で保育現場での実習が難しい状況ではあったが、学生の評価を見ると、現場でしか学ぶことのできない事柄をたくさん学び、成長できたようである。今後も実習の実施が難しい状況は続くと思われるが、可能な限り学生に現場での実習機会を提供したいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育カウンセリング	89名





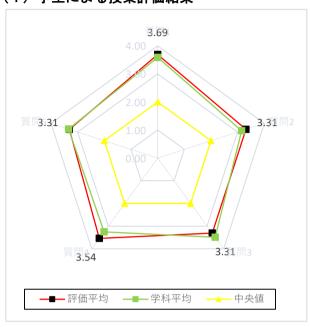
(2) 結果の分析と評価

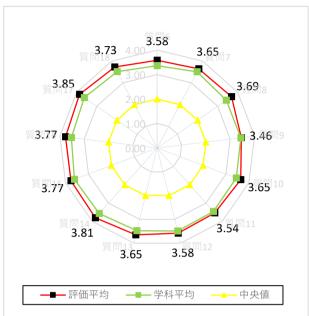
- ・回答率は前期、後期共に95%で、昨年度から大幅にアップした。授業内での回答の呼びかけにより、高い回答率になったと考察する。
- ・前期は全ての項目において、学科平均値より高い結果であったが、後期は「授業内容・方法」の項目を中心に、学科平均値より低い結果となった。要因として、特に後期から実践活動が中心となったことが影響していると考察する。
- ・自由記述では「コロナの影響が大きい中、親子と関わることができてとてもためになった」、「学生同士で協力をして企画をする中で難しさや達成感を味わうことができた」などの意見が見られた。参加親子の中には、参加率が低い親子もあり、学生によって親子と関わる時間、機会に差が出てしまった。そのためか「もっと子どもと関わる時間が欲しかった」という意見も見られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・本科目は複数教員で担当する科目であるが、引き続き教員間での分担や役割を明確にしながら、グループの話し合い等に細やかに入り込み、学生一人ひとりがやりがいを感じられる取り組みにしていくよう工夫する。
- ・基本的に学生による主体的な活動ではあるが、より良い取り組みになるよう適切に指導を行う。その際、 学生に指導する内容の意図、意味、背景を具体的に示し、学生が納得しながら取り組めるようにする。
- ・本科目は「親子いき広場」に係る科目である。適宜、シラバスに記している到達目標や、本科目を学 ぶ意義について確認する時間を設けながら、学生の理解につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみ I	45名





(2) 結果の分析と評価

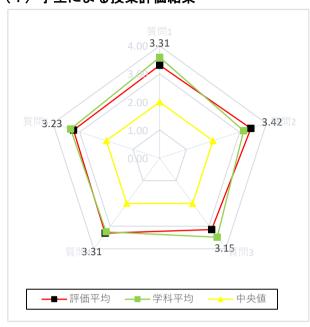
回答したのは43名中27名であった。留学生の多くがまだ入国していない時ではあるが前期では全員評価 を行っていたのでこちら側の声掛けが足りなかったと思われる。

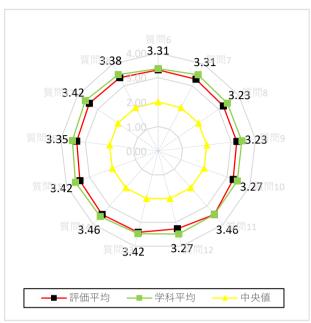
学生自身の授業に対する自己評価は出席や自分での工夫が学科の平均より高かった。授業に対する評価も学科の平均より高かった。多くの資料を使って詳しく説明を行ったことがよかったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価の時間を決めたり、回答していない学生に個別に促したりする。さらにわかりやすい説明の工夫を 行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみ II	43名





(2) 結果の分析と評価

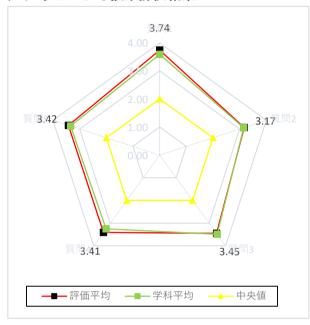
回答したのは43名中26名であった。留学生の多くがまだ入国していない時ではあるが前期では全員評価を行っていたのでこちら側の声掛けが足りなかったと思われる。

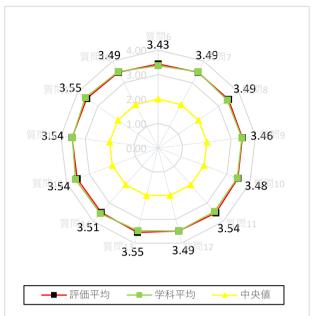
学生自身の授業に対する自己評価は学科の平均とほぼ同じではあったが私語や居眠りが若干多かった。 授業内容についての評価は学科の平均より全体的に低かった。内容が難しく理解がしにくかったようである。わかりやすい説明の工夫を行う必要がある。学生によっては詳しい説明でよく理解できたとの記述もあった。日本語レベルが低い学生にも理解してもらえるような説明が必要であると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答の時間を決めたり、回答していない学生に対し個別に回答を促す。日本語レベルが低い留学生が理解できるような工夫や理解を確認しながらの授業の進め方を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導Ⅱ	72名





(2) 結果の分析と評価

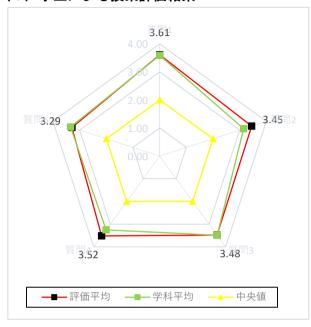
全ての評価項目について学科の平均値とほぼ同等であった。

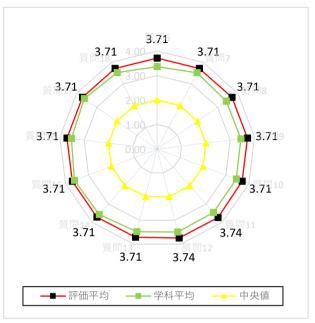
学生からのコメントとして「グループでの交流があったことで、園によって保育が違うことや参考になることを知ることができた」、「実習に対する心構えやマナーを身につけ、実習後の振り返りをすることで次につなげることができた」などの意見が見られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生からのコメントを踏まえ、担当教員と連携を図りながら、学生のより深い理解につながるようにする。 また、個別対応が必要な学生に対しては、引き続き実習担当者間で協力して、なるべく早く対象学生への対 応を進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		臨床栄養学	31名





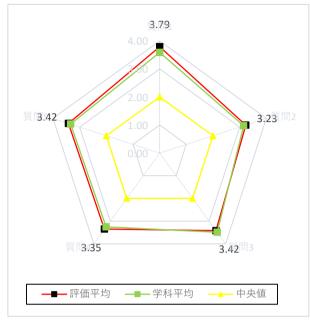
(2) 結果の分析と評価

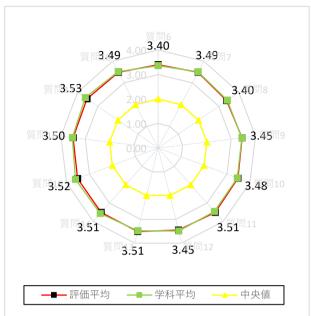
総合評価は3.71であった。令和3年度は昨年度に引き続き遠隔での授業展開となった。遠隔手法が昨年度は zoom、今年度はTeamsと変更になったため、学生共々最初こそ戸惑いはあったが次第に慣れ、授業は問題なくできたように思う。この科目の基礎となる解剖生理学や生化学、基礎栄養学、食品学などは苦手意識をもつ学生が多く、なおかつ実施方法が遠隔であるため学生の理解度や学習意欲が低下しないよう昨年度の反省もふまえ要点が分かるよう教材を一部修正した。学生からは要点がまとめてあり分かりやすかったという評価であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

令和2年度に引き続き遠隔での授業となったため少しでも分かりやすくなるよう教材を一部修正した。学生からの授業法と本授業に対する全体的な評価はおおむね良かったと思われる。次年度は対面での授業展開になるのではないかと思われるが、今後も学生の様子を見ながら改善に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育実習指導	90名





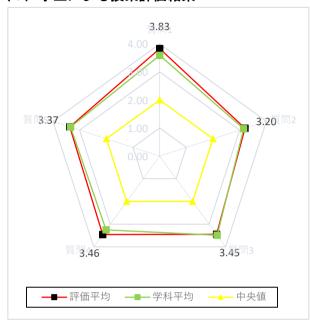
(2) 結果の分析と評価

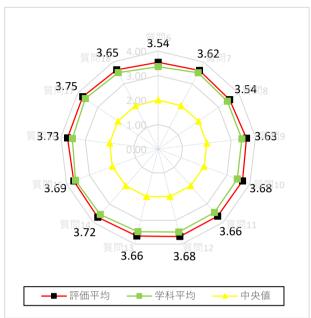
殆どの項目で学科平均を下回っているが、特に評価の低い項目はなく概ね及第点ではないかと思う。 この科目は2年間の通年科目であるため、なかなか評価も難しかったと思うが、自由記述の内容を見る と、授業を通して伝えたかったことや学んでほしかったことをしっかりと受け取ってくれていることが分か り安心した。特に、実習事後のグループワークに関して記述してくれた学生も多く、自身の実習経験だけで なく、学生同士の学び合いにより、保育現場の理解を深めることに繋がったことが分かる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降も、実習の重要性を説くだけでなく、自己課題を明確にして学び多い実習になるための指導を続けていきたい。今年度に好評であった事後指導でのグループワークや自己課題を明確に立てる時間などは、今後も継続する。また、学生の興味や意欲を引き出すような工夫を考えていきたい。Teamsなどを用いて双方向のやり取りをより活発に行い、学生のニーズを把握することが出来るよう、授業方法を改善していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習 II (保育所)	72名





(2) 結果の分析と評価

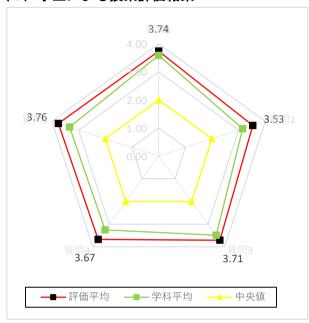
回答率は99%と高い数値となった。授業内での回答の呼びかけにより、高い回答率になったと考察する。 評価は概ね平均的である。

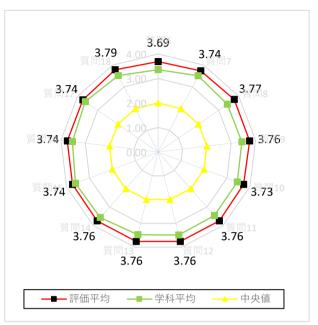
本科目は実習であるため、評価項目通りに回答することが困難な科目である。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も同様に、感染症対策をとりながら実習先と連携して実習を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育実習 I	74名





(2) 結果の分析と評価

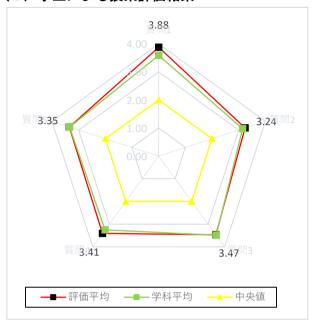
全体として学科平均よりも高い評価であった。自由記述の中でも、積極的に取り組めたというコメントが見られた。現場での実践であるということが学生の意欲を高め、頑張ったという実感を持てたために肯定的な評価となったと考えられる。

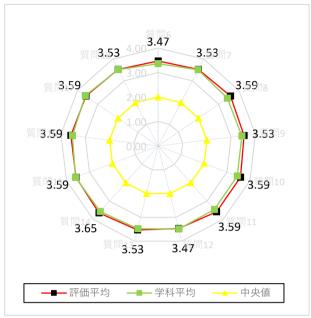
特に後期の実習では単元保育も経験し、学生にとっては将来に直結する学習であると感じられ、評価の高さ につながったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き学生が積極的に取り組み、成果を感じられる授業となるように、実習先と連携しながら取り組んでいく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導Ⅲ	17名





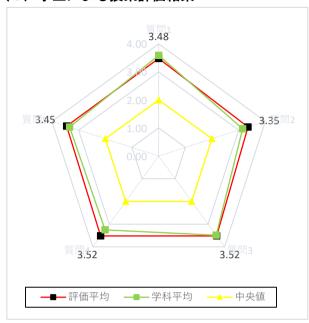
(2) 結果の分析と評価

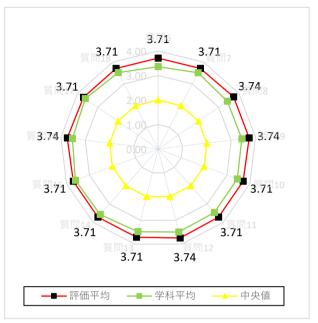
数値的な評価は平均的だった。自由記述では、「児童養護施設に実習に行く前に児童養護施設の役割などについて調べ学習があったことで、自分が行く施設はどんなところなのか学ぶことが出来たので良かったです。」「実習について振り返る時間があり、友達の意見を聞くこともできてよかった。」といった自由記述があり、事前の学習と振り返り学習に対する充実感が伝わってくるコメントだった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、自主学習をメインにおいて、深みのある実習ができるような準備を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		臨床栄養学実習	31名





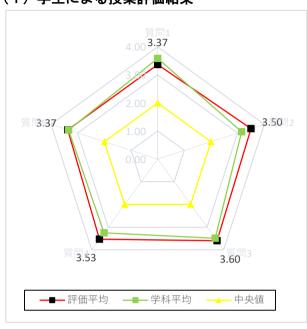
(2) 結果の分析と評価

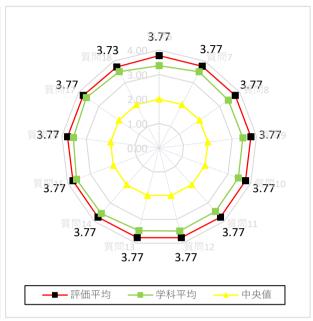
本授業は実習であるため学生の取り組み状況もよく、総合評価については3.71であった。学科平均と比較しても全項目において平均を上回っており本授業における教育指導法は概ねよかったと思われる。本授業は、令和元年度から調理の基礎の振り返りの回を2回程度設け、その後本来の授業内容へ進むようにしている。これについては、学生に非常に好評であるためこれからも継続したいと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生からの評価は3.71と概ね高評であった。常食の献立作成や常食から治療食への展開を苦手とする学生も多く、この点をいかにクリアしていくかがこれまでも課題であったが、令和2年度からは現場で行われている展開法をシンプルに伝えることにより少しは理解度が向上したように思う。令和2年度はコロナ禍において対面授業に制限がかかることも多かったが今年度はほぼ対面で実施することができた。今後も実習であっても遠隔での実施ができるような授業展開を検討しておく必要はあると思われることから引き続き授業内容と教材の検討を行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養学実習	31名





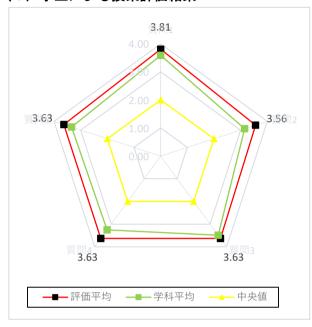
(2) 結果の分析と評価

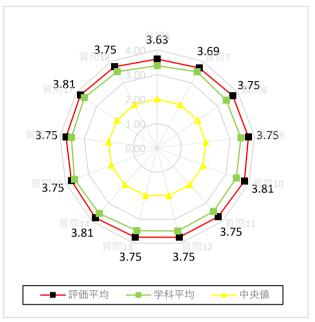
本授業は、複数科目間の垣根を越えた広義の実習を開講している。授業内容の構成としては主に食事摂取基準(2020年版)とその活用について、栄養ケアマネジメントについて、POSについて等他の授業内で教えることが出来なかった内容を組み合わせて展開した。学生の授業評価結果は3.73で、全項目について学科平均を上回っており高評であった。授業内容が栄養士というよりも管理栄養士が実務で行うような授業内容であるため学生には難しかったのかもしれないが、これからも実践に則した授業内容を心がけたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

毎年学生の反応を見ながら理解度に合わせて授業内容を修正し展開している。食事摂取基準(2020年版)とその活用については令和2年度から導入している。今年度は要点を絞り演習形式を多く取り入れて現場でどのように活用していくのかが分かる授業内容とした。その結果、学生からは「現場でどのように活用するのかが分かった」との評価であったため、引き続き現場に則した授業内容を心がけたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習皿(施設)	17名





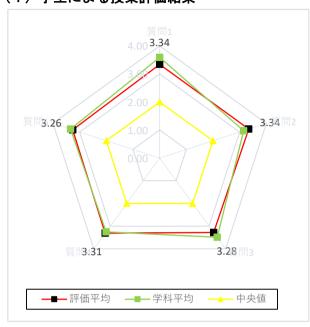
(2) 結果の分析と評価

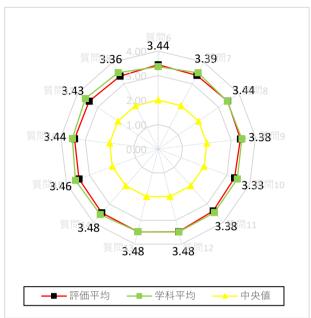
全体的に平均よりもやや高い評価となっている。本授業は実習である。その為に学生の評価は施設へ向けられたものとなり担当教員としてはコメントが難しい。学生の中には評価内容(自由記述)に確認すると学生は保育実習皿ではなく、保育実習指導皿に関するコメントを書いているように見受けられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、学生のニーズにあった施設選びと施設関係者との密な連絡を取っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援学(演習含 む)	80名





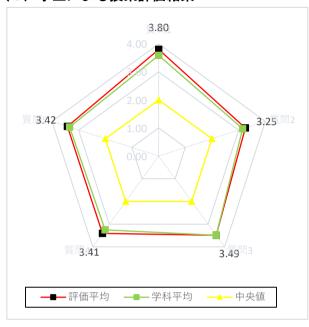
(2) 結果の分析と評価

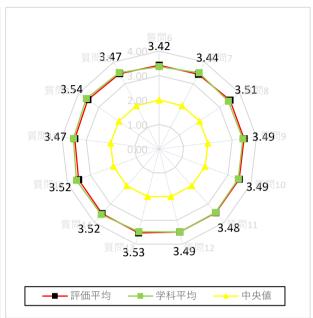
この科目は、「地域生活支援演習(卒業研究)」につながる基礎として、概して他(多)職種協働的志向性の醸成を図るための座学・演習を行っている。今年度からは、通年科目に変更実施しており、運用面では外部講師や日程等の調整に試行錯誤した。コースでは、各専門分野に向けた活動が行われるなか、各テーマの調査や可能な限りの実践的な演習活動に取組んだ。評価は平均と比較してやや低く、各ゼミ活動の試行錯誤の改善充実が図っており、コロナ禍にあって、自治体との連携での日程・計画等の変更も強いられてきたが、例年並みの評価を得ていると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

この科目は、地域生活支援学科の基幹科目として、3コース共通の科目として運用している。前期はコース全体、後期は各コース別の活動を展開し、最終回では報告会を実施している。前期では、この科目の学習の意義ねらいの理解促進と、講師講話からの学習のフィードバックについて、後期では各コース学生間で一層の情報共有と多様な意見交換が行われ、考え方の多様性への理解と協同志向性、そしてそれらへの対応力が醸成されるよう計画や働きかけについて検討し、改善充実を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育実習Ⅱ	90名





(2) 結果の分析と評価

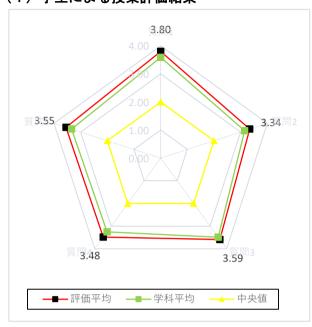
この授業は2年次10月に実施した教育実習に関する評価である。そのため、評価項目が内容と合致せず学生は評価が難しかったと思う。

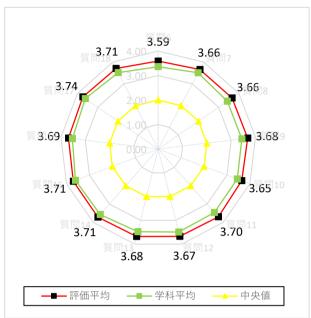
(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述からは、2年間の学びをこの実習で全て発揮することが出来た学生もいたようだ。コロナ禍ではあるが、できる限り現場での学びの機会を大切にし、保育現場で働くことの喜びややりがいを感じる契機としていきたい。

他の授業科目にはなるが、「教育実習指導」でこの実習の振り返りをしたことにより一層学びが深まったという記述もあり、実習が学生の将来にしっかりと結びついていることを改めて感じることができた。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		情報リテラシー I (実習を含む)	165名





(2) 結果の分析と評価

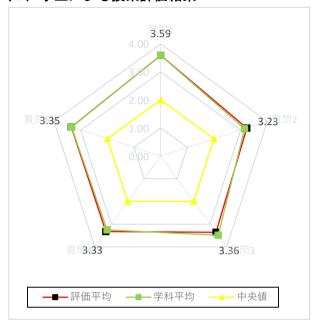
この科目は、コンピュータの基本的な知識の講義と使用方法の演習を行う講義である。 演習においては、比較的ゆっくり進めているため、質問13、質問12などについては、良好な結果が出ている と考えている。

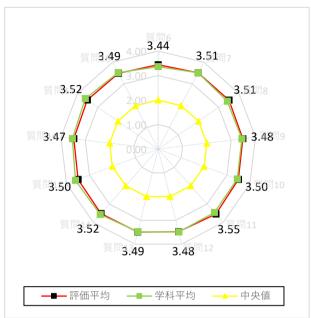
評価が低い項目としては、質問2と質問6の「シラバス」に関する項目である。

(3) 次年度に向けての取り組み

質問2と質問6の「シラバス」については、第1回目の講義で説明しているが、学生の記憶には残っていないと考えられる。これからは、講義内容の節目で再度シラバスを用いて、進捗内容を説明する必要があると考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育・教職実践演習 (幼)	91名





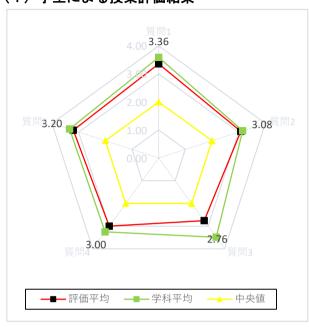
(2) 結果の分析と評価

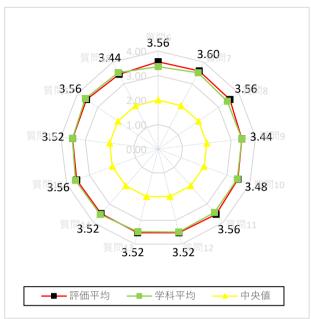
全体的な評価は学科平均よりもやや低めとなっている。対面型とオンデマンドを組み合わせた授業展開となったが、そのことについては学生から特にコメントはなかった。自由記述の中で最も多かったのは「外部講師による講話」であった。また、学科教員全員が関わる講義であり、毎回テーマが異なることで混乱することが予測されたが、反対に「毎回新鮮な気持ちで受講している」といったニュアンスの意見が多く、講義の構成を考えるうえで大変参考になった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後もオムニバスによる授業構成、そして外部講師の招聘を続けていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		認知症の理解Ⅱ	25名





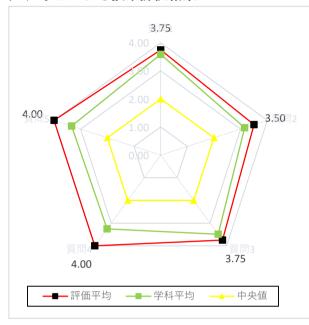
(2) 結果の分析と評価

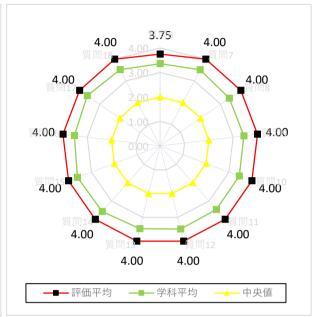
質問1から質問4は、学科平均より低い値となっており、学生自身が積極的に授業に取り組んだとは言えない結果である。特に、質問3の「授業中の居眠り・私語等をせず真剣に取り組んだか」については、学科平均が3.36であるのに対し2.76という低い値である。また、質問4の「授業を理解するために自分で何か工夫をしたか」は、学科平均の3.4に対し3と低い値となっている。実際、授業中の居眠りはほとんど見受けなかった一方私語は多く、学生(留学生)に注意することは少なくなかった。授業者のうち留学生が大多数を占め、教員の説明に対し、留学生が母国語で話し合うことも非常に多かったが、それは、日本語能力の高い留学生が母国語で教員の説明を翻訳していることもあり、私語と違いは把握できていなかったことも事実である。質問6から質問18は、学科平均値とほぼ同様の数値となっており、学生が授業そのものについて他の科目との大きな違いを感じていないことがうかがえる。

(3) 次年度に向けての取り組み

この科目は、認知症の方への具体的な対応について学ぶことを中心として内容である。。できるかぎり、わかりやすく授業を進めたつもりであったし、学生の反応自体はさほど悪いとは感じていなかった。しかし、今回の結果から、学生の主体的学びとなる方法を検討する必要性を感じている。介護福祉士国家試験にも大きく影響する科目であることから、小テストを複数回取り入れるなどし、学生自身が自分の理解度を確認できる取り組みを行いたい。また、授業中の留学性の母国語の使用についてもどのようにとらえるべきか再考したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	5名





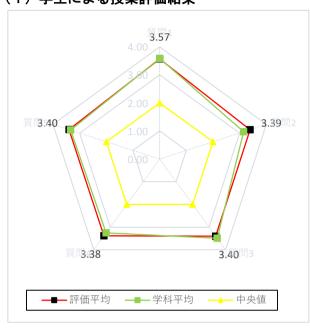
(2) 結果の分析と評価

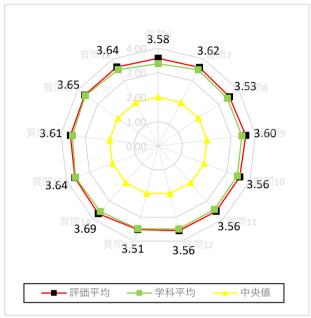
全体的に高い評価となっている。質問 6 についてシラバスを説明しているにも関わらずやや低くなっていることから、もう少しわかりやすい説明が必要と考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も評価を維持できるように授業を展開していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		情報リテラシーⅡ	110名





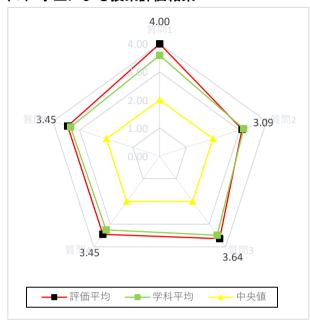
(2) 結果の分析と評価

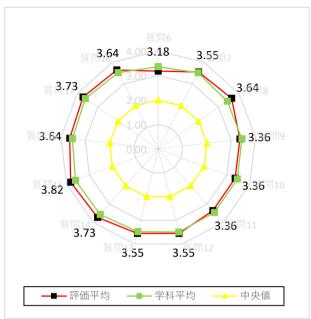
この講義は、PCを使い主に表計算ソフトの使い方について講義を行う授業である。 高評価としては、質問7、質問9、質問14などの項目が挙げられる。 主に、講義内容への工夫や学生への対応が評価されており、大変励みになる結果である。 低評価としては、質問8、質問13などの項目が挙げられる。 主に、講義の工夫の足りなさへの指摘を頂いていると感じる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度、高評価を得た項目については、今後も続けていきたいと考える。 低k評価の項目については、講義で使用する例題が、教科書に依存していた事が工夫が足りないと指摘され た要因と考える。次年度は、学生の専門分野に近い例題を準備し、学生の興味関心に沿うような講義内容に 出来るよう努力したいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	11名





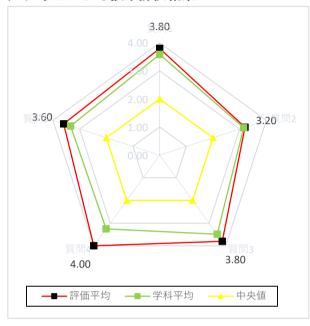
(2) 結果の分析と評価

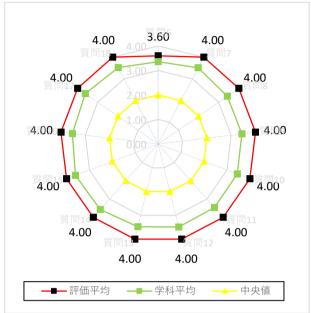
質問2. 質問6のシラバスに関する項目が低いが、これはシステムの関係上仕方のないことのように思われる。他の項目は学科平均を前後しており、特に点数の低い項目はないため、概ね問題ないと思われる。もともと、学生一人一人の意欲が高いことに加え、少人数での授業であるため、授業自体はとてもスムーズに行うことが出来たように思う。そのため、教員が指導や提案をするというよりは、学生が主体となって進め、活動が停滞した際に教員が助言をするということが多かった。その結果がこの評価にはっきりと表れているように感じる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生は教員の対応に満足できていたようで安心した。学生一人一人が自身の興味や関心に基づいて研究を進めることが出来るよう、今後もサポートしていきたい。また、この評価には表れていないが、授業を進める中で活動の方向性が何度か変更になっている。次年度以降は、なるべく早い段階で先を見通した計画を立て活動ができるようにしたい。そのためにも、初期の段階で学生のニーズをしっかりと引き出し、活動の方向性を打ち出せるよう指導をしたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	5名





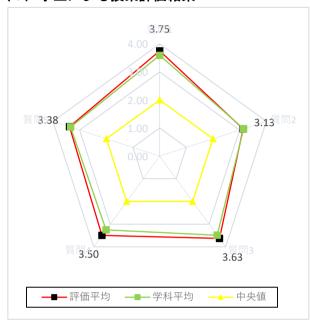
(2) 結果の分析と評価

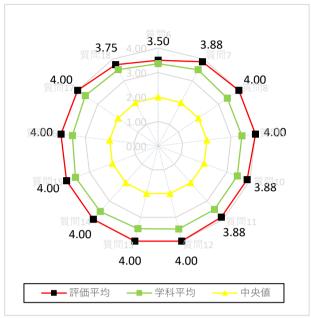
回答率100%となり、全ての項目で学科平均値以上の結果となった。 総合評価の点数から、学生の関心に沿った授業展開ができたのではないかと考察する。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き学生の問題関心を拾い上げながら、テーマ設定をしていきたい。 また、学生が意見を出しやすい雰囲気づくり、環境づくりに取り組んでいきたい。 感染症対策を続けながら、机上では学べない実践からの気付きや学びの機会を設けていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	9名





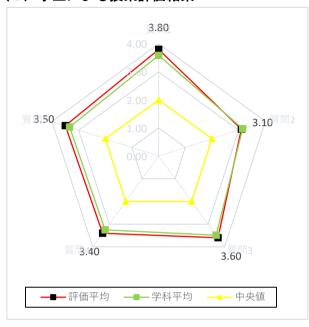
(2) 結果の分析と評価

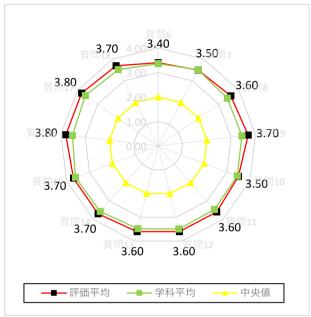
全体として学科平均と同程度かやや高い評価であった。 特に質問6以降については、シラバスの説明を除いて肯定的な評価を得た。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き、学生と双方向的なやりとりをしながら、学生自身が積極的に取り組めるよう促していく。 シラバスに関しては、ゼミごとに進行が異なるため説明が難しいものの、ゼミ内でのスケジュールや見通し を適宜共有していくことで代替する必要があると考えられる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	11名





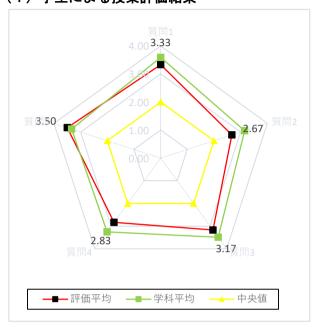
(2) 結果の分析と評価

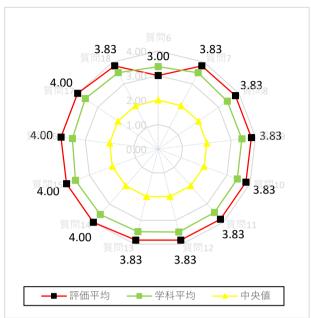
質問6「シラバスについて説明があったか」の設問に対して、若干数値が低いが、卒研はある程度学生の 自主性に任せた進行であり、発表会本番に合わせて流動的な動きになるため、シラバスに沿って進めている という実感が得にくいのではないかと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

初回だけでなく、シラバスに掲載されている目標やスケジュールはもちろんのこと、評価方法や内訳なども、逐一話題にし、受講者が意識できるようにする工夫が必要だと感じた。

I	学部	学科	担当者	科目名	履修者数
	短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	6名





(2) 結果の分析と評価

1. 学生の取り組み

対面でのゼミ実施となった。学生の取り組みは、学科平均を下回る項目もあり、 良好とはまでいえない結果となっている。

前期はテーマに関する技術習得が中心であり、

学生が主体となる活動が少なかったことが影響していると考えられる。

2. 教授方法・教員の対応

全体的に、シラバスの説明に関する1項目を除き、

学科平均を上回る評価となっており、良好の評価となっている。 シラバス(授業計画)に関する説明では、ワークショップの開催という最終目標は決まっていたが、

そこまでの具体的計画までは示さず、学生たちとともに計画することを大切にした。

そのような点は学生の視点で考えると、目標達成まで筋道が見えづらかったのかもしれない。 ゼミでは学生の主体性が重要であることを伝えながら、

学生たち自身が活動を計画し、それを実行していくプロセスを支援していくことが求められる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生主体のワークショップ開催を目指していく。

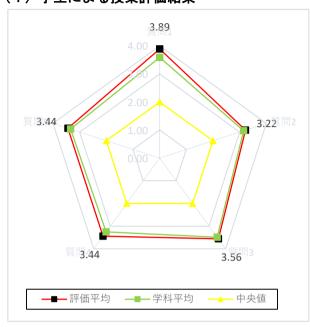
前年度ワークショップを開催し、プログラムの大枠は完成している。 その中で、上記でも述べたが、学生たちが主体的に前面に出て活動を進められるか、

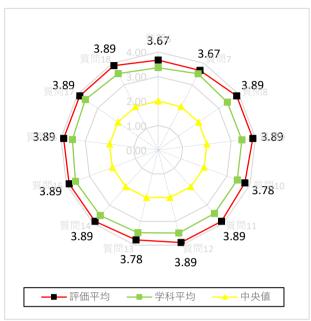
この点を大切にゼミを運営していきたい。

さらに、協定を結んでいる高校や地域の中学校との連携・協働をとおして、

ゼミにおいて高大連携や保育の魅力発信といった視点も新たに盛り込みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	10名





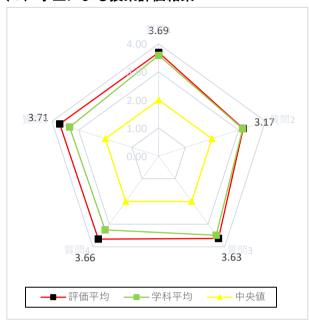
(2) 結果の分析と評価

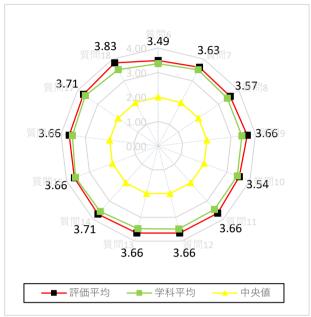
- ・ゼミのメンバーの学修に対する関心意欲は高く、質問1に見られるように、ほぼ欠席0という状況であった、また、質問2~5の回答も学科平均レベルであり、望ましい学びの姿勢であった。
- ・本年度のゼミのテーマは「保育現場に生かすクリニカルアート(臨床美術)の実践研究」であり、この実践研究は、対人援助職(保育士・幼稚園教諭・児童養護施設職員等)を目指す私達がクリニカルアート(臨床美術)に関する理論学習やワークショップ、模擬保育、保育現場での実践等を通して「指導・支援スキルの基礎」を身につけると共に「子ども達の自尊感情を育むような造形活動を展開する意識を高めること」を目的とした実践研究を行った。ゼミの学生たちは当初からクリニカルアートに対して高い関心を持っており、実技演習、模擬授業、そして後期に実施する保育現場でのワークショップ準備に主体的に、そして協働しながら取り組んだ。そのことが質問6~18における評価が全て学科平均よりも上回るという結果につながったと考えている。
- ・前期の授業の総合評価が「4.0」であることからも目標は達成できたととらえたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・1年間(前期~後期)にわたる授業であるため、総合的に記述する。
- ・次年度はゼミの数が増えることが予想され、本年度よりもゼミの学生が減ると思われる。そのような状況においてクリニカルアート(臨床美術)に関する研究実践を継続していくことになる。令和3年度に実施できた内容が、人数減のために変更やカットを余儀なくされる取り組みが出てくることが予想されるため以下のことを検討したい。
- ①クリニカルアート(臨床美術)のプログラムは少人数でも取り組みやすい物を選択する。
- ②保育現場でのワークショップや高等学校等に出向いてのワークショップに関しては、ゼミの学生の状況 (関心態度・能力等)に応じて内容を工夫する。
- ③佐賀市内の放課後児童クラブとタイアップしたクリニカルアートのワークショップに向けて、学生たちの「コミュニケーション能力の向上」を図るための模擬保育的な時間を確保する。
- ・ゼミの学びが、卒業後の学生たちの現場での実践に生かされるように幼児期の造形活動とリンクした題材 選びを工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	35名





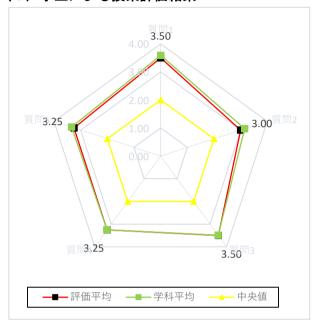
(2) 結果の分析と評価

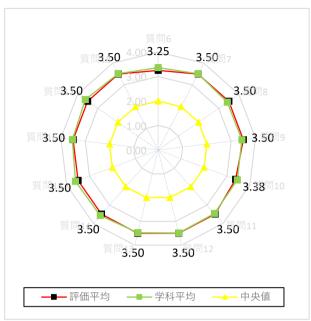
学生による本授業の評価は「シラバス」と「視聴覚教材の使用」に関する項目以外は、学科平均をやや上回っている。また質問18の総合評価は3.83の高評価である。卒業課題研究のシラバスは学科統一のものとなっている。表現・音楽コースの卒業課題研究は「表現フェスタ」に向けた取り組みの中で、日々現れる新たな課題を一つ一つ解決しながら進めていくため、シラバスの活用が難しい。学生自身の評価、教員の授業に対する評価の両方で「シラバスの活用」に対する評価が低いのはそのためである。しかし、それ以外の項目では、学生、教員に共通して学科平均を上回る結果となっている。これは「表現フェスタ」という目標に対して、学生自身が意欲をもって本授業に参加したことの表れであると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

表現・音楽コースの教員の体制が変わり「ミュージカル」「ミュージカル器楽」の両方を一人で担当した。両チームの学生に指導が行き届くよう正規の授業時間以外にコマを活用し、常に調整を行いながら指導にあたったが、どうしても指導に時間がかかる「ミュージカル」に偏ることが多かった。来年度は非常勤講師の力も借りながら、学生の達成度、満足度が下がらないよう工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	9名





(2) 結果の分析と評価

全体として学科平均よりやや低い評価であった。

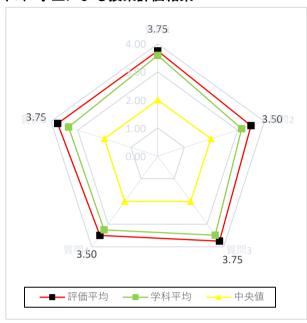
前期同様、シラバスの説明や活用に関する評価が特に低かった。

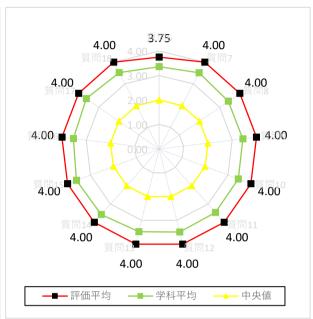
前期に比べて、調べたことをまとめる時間が長くなったが、その難しさを感じたというコメントが自由記述 の中に見られた。そうした部分への支援が不足していたと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの説明に関しては、ゼミ内でのスケジュールの見通しや目標を適宜共有する必要があると思われ る。 また、適切に調べたり、それをまとめたりする方法に関して、より丁寧な指導を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	5名





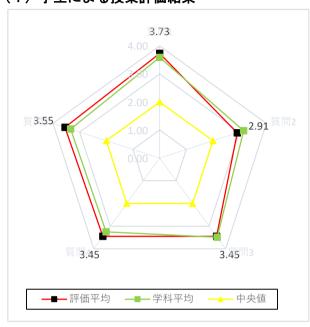
(2) 結果の分析と評価

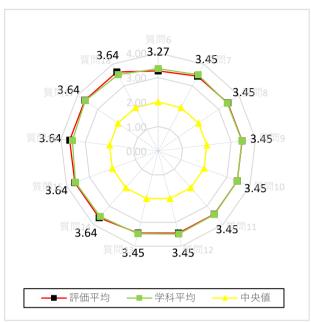
全体的に高い評価となっている。質問 6 についてシラバスを説明しているにも関わらずやや低くなっていることから、もう少しわかりやすい説明が必要と考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き高い評価を維持できるように丁寧に講義を進めていく。

I	学部	学科	担当者	科目名	履修者数
	短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	11名





(2) 結果の分析と評価

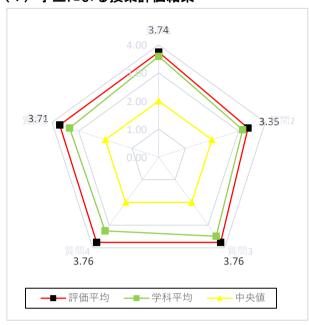
質問2と質問6のシラバスに関する項目は若干低い数値であるものの、概ね学科平均を前後しており特に問題はないと思われる。しかし、詳細なデータを見ると、この科目に満足できなかった学生がいたようである。おそらく同一学生だと思われるが、前期に比べ後期の方が評価が低くなっており、少人数ながら自身の思いを表出できずに終わってしまったことが推察される。そのような学生の存在に気付くことが出来ず、反省している。今後は、より一層コミュニケーションをとり、一人ひとりの思いをしっかりと受け止めることが出来るようにしていく必要があると思う。

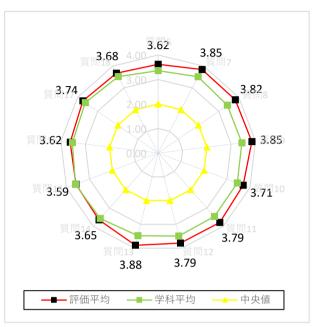
(3) 次年度に向けての取り組み

今年度のゼミ活動では、学生が主体となりしっかりと研究を進めることが出来たため、その点は良かったと思う。自身で研究テーマを見つけ、最後の発表まで工夫を凝らしたことは、今後の学生の自信となったであろう。

一方で、(2)に記述した通り、授業に対して不満を感じていた学生もいたようである。今後は、一人ひとりに目を配りながら、学生のニーズや思いに寄り添った指導を心掛けたい。

Ī	学部	学科	担当者	科目名	履修者数
	短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	35名





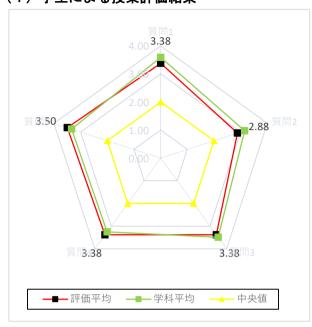
(2) 結果の分析と評価

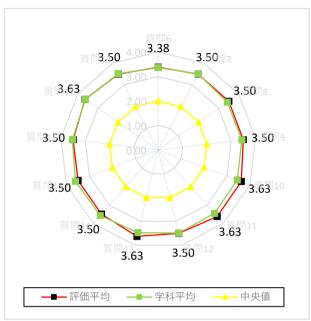
本授業は前期の卒業課題研究 I に引き続き、表現フェスタ(実技発表会)に向けて、ミュージカル「ジャックと豆の木」の演技、歌、ダンスを担当するミュージカルチームと、その劇中の音楽を約20曲を生演奏で担当するミュージカル器楽チームが、舞台での発表に向けてチームー丸となり準備を積み重ねる過程である。評価は概ね高評価であるが、本授業はミュージカルを作り上げ多くの観客の前で披露することを目標に、学生が主体的に取組むものであるため、教員の頑張り・努力というよりは、学生自身の達成感が評価に反映されたものであると思う。ただ、今年度はコロナウイルスの感染拡大により、予定された1月の表現フェスタが中止となり、3月に発表会を再設定した。本評価は3月の発表会の前にされたものであり、実際に発表会が開催できるかわからないといった状況で行われたものであるが、自由記述には「中止になって悔しい、3月の開催を信じて頑張りたい」「友達と切磋琢磨して一つのものを創り上げることの難しさや協調性を学んだ」など前向きかつ満足度の高さが感じられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

表現フェスタまでの到達目標や毎回の計画を、両チームのリーダーと一緒に立て明確な目標を提示できるようにする。両チームの指導のバランスについては、現在の発表会のあり方が変わるか指導教員の増員がない限り、学生には大変申し訳ないが今のスタイルで行うしかなく、補講や空き時間などに細やかに対応していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	9名





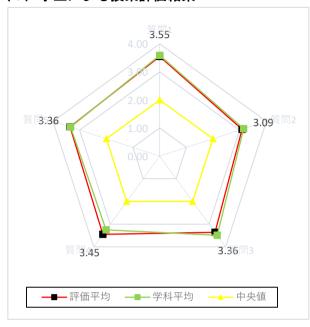
(2) 結果の分析と評価

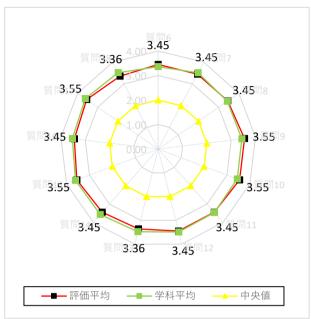
- ・後期もゼミのメンバーの学修に対する関心意欲は高かったが、コロナの影響や家庭の事情で欠席せざるを 得ない学生も発生し、質問1の値は若干低くなった。
- ・後期は主として、二つのメンバーに分かれての模擬保育、保育現場での実践が中心であったために、シラバス通りに進まないというグループもあった。そのために質問2の項目も若干値が低くなった。しかしこのことは、それぞれのグループが取り組んでいるプログラムの違いであったり、参考作品の再作に試行錯誤を繰り返した結果であり、デメリットであるとはとらえていない。
- ・質問6~18にかけては、前期よりも若干低くなったものの、ほぼ学科平均である。ここでも、教師の関わる時間よりも各グループでの主体的な取り組みが中心となったために、変化したものと思われる。
- ・それぞれのグループが行った協力園での実践は非常に積極的で、準備や事後の後片付けも自発的に行った。ワークショップや学生たちの園児に対するコミュニケーション(言葉かけ)等に対する評価はいずれも高く、卒業論文の作成、そしてオンデマンドによる発表態度も非常によく、目標は達成できたと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・1年間(前期~後期)にわたる授業であるため、総合的に記述する。
- ・次年度はゼミの数が増えることが予想され、本年度よりもゼミの学生が減ると思われる。そのような状況においてクリニカルアート(臨床美術)に関する研究実践を継続していくことになる。令和3年度に実施できた内容が、人数減のために変更やカットを余儀なくされる取り組みが出てくることが予想されるため以下のことを検討したい。
- ①クリニカルアート(臨床美術)のプログラムは少人数でも取り組みやすい物を選択する。
- ②保育現場でのワークショップや高等学校等に出向いてのワークショップに関しては、ゼミの学生の状況 (関心態度・能力等)に応じて内容を工夫する。
- ③佐賀市内の放課後児童クラブとタイアップしたクリニカルアートのワークショップに向けて、学生たちの「コミュニケーション能力の向上」を図るための模擬保育的な時間を確保する。
- ・ゼミの学びが、卒業後の学生たちの現場での実践に生かされるように幼児期の造形活動とリンクした題材 選びを工夫していきたい。

I	学部	学科	担当者	科目名	履修者数
	短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	11名





(2) 結果の分析と評価

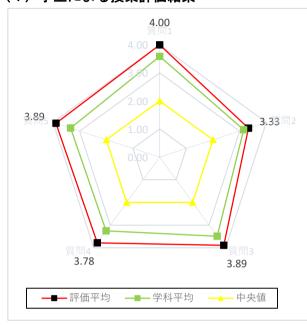
質問6「シラバスについての説明があったか」については I (前期) と同様、数値が低いが、その事情は ほぼ同じであると思われる。

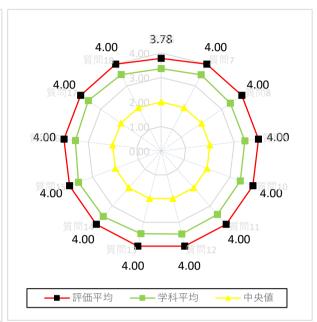
Ⅰ、Ⅱ共に自由記述はなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述がなかったため、受講者の細かい声を聞き取ることはここではできなかったが、その分卒研活動 の中で直接の対話をしてきたとも感じている。 次年度は自由記述でも拾い上げることができるよう、受講者に直接促すといったことも検討していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		レクリエーション概論	11名





(2) 結果の分析と評価

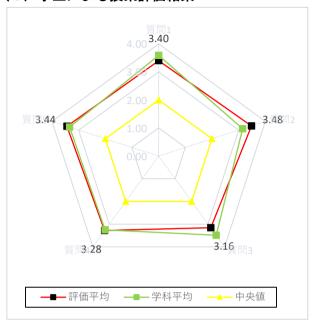
すべての項目について、平均を上回る結果となった。その要因としては、本科目は選択科目であり、受講生も9名と少人数であった。そのため、学生1人1人に時間をかけ対応しやすく、また、学生が能動的に参加しやすいように学生とのディスカッションに多くの時間を使った。その結果、このような評価となったと考える。

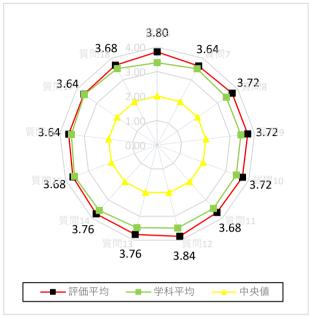
また、シラバスの活用については、平均を上回ったものの、やや評価は低い結果となった。授業の初回にはシラバスを活用したが、それ以降の授業ではシラバスの活用はあまり行わなかった。授業毎にシラバスを確認し、科目全体の流れやねらいについて確認していく必要があると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生が能動的に授業に参加できるようにディスカッションの時間を多くとるように心がける。また、授業毎にシラバスを確認する時間をつくり、学生が授業の流れを把握しやすいようにしていく。

ĺ	学部	学科	担当者	科目名	履修者数
	短期大学部	地域生活支援		障害の理解Ⅱ	25名





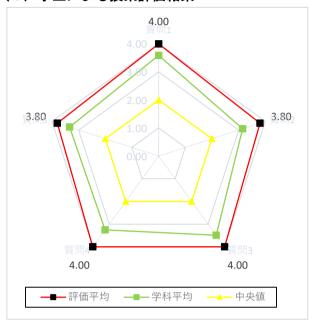
(2) 結果の分析と評価

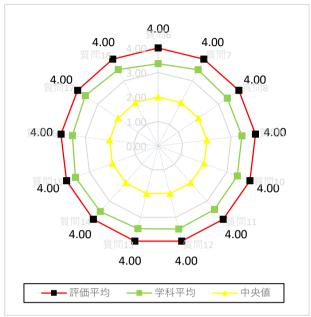
授業評価は全員行っていた。学生の自分の態度に関する評価は私語、居眠りが少々多かった。 授業内容についての評価は学科全体学科の平均よりは高かった。シラバスや声の大きさ明瞭さ話す速さは高 かった。以前は低かった項目であるので改善できたこととなる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、担当を変更するため、この評価の内容は別の教科に生かしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	5名





(2) 結果の分析と評価

回答率100%となり、全ての項目で学科平均値以上の結果となった。

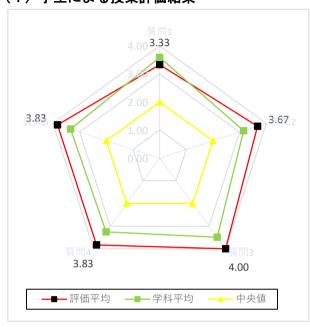
自由記述では「学生が興味あることを優先してくださったので思い思いに研究できた」、「話しやすく、ゼミの雰囲気が良かった」、「一つのテーマについてゼミのみんなで話し合うことで様々な意見なども聞くことができて勉強になった」、「施設の訪問を通して話を聞くことができてよかった」などの意見が見られた。

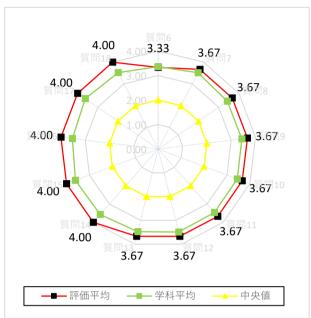
全体の評価を通して、学生の関心に沿った無理のない授業展開ができたのではないかと考察する。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き学生の問題関心を拾い上げながら、テーマ設定をしていきたい。 また、学生が意見を出しやすい雰囲気づくり、環境づくりに取り組んでいきたい。 学生の実習や就職活動等を踏まえながら、無理のないスケジュール設定をしていきたい。 感染症対策を続けながら、机上では学べない実践からの気付きや学びの機会を設けていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	6名





(2) 結果の分析と評価

1. 学生の取り組み

対面でのゼミ実施となった。学生の取り組みは、前期の評価から一転して 学科平均を上回り、良好な結果となっている。 後期は、前期のテーマに関する技術習得、ワークショップ見学を経て、 学生の活躍が期待されるワークショップ開催に向けた活動が中心となった。 このことが評価に大きく影響していると考えられる。

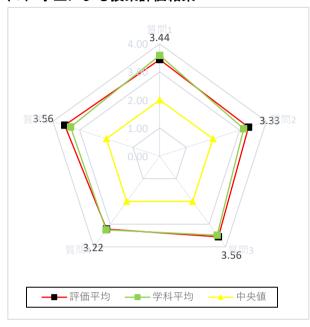
2. 教授方法・教員の対応

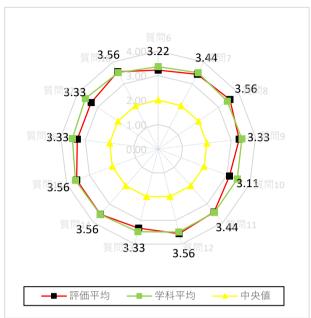
. 教技力法・教員の対応 後期も前期同様、シラバスの説明に関する1項目を除き、 学科平均を上回る評価となっており、良好の評価となっている。 シラバス(授業計画)に関する説明では、ワークショップの開催という最終目標は決まっていたが、 そこまでの具体的計画までは示さず、学生たちとともに計画することを大切にした。 そのような点は学生の視点で考えると、目標達成まで筋道が見えづらかったのかもしれない。 ゼミでは学生の主体性が重要であることを伝えながら、 学生たち自身が活動を計画し、それを実行していくプロセスを支援していくことが求められる。 そのため、後期は教員の主導性(質問7~13)を発揮するのを控え、対話やサポートを心がけた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生主体のワークショップ開催を目指していく。 前年度ワークショップを開催し、プログラムの大枠は完成している。 その中で、上記でも述べたが、学生たちが主体的に前面に出て活動を進められるか、 この点を大切にゼミを運営していきたい。 後期の評価結果が示すように、学生の取り組み状況の改善につながることが期待できる。 さらに、協定を結んでいる高校や地域の中学校との連携・協働をとおして、 ゼミにおいて高大連携や保育の魅力発信といった視点も新たに盛り込みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		レクリエーション実習	15名





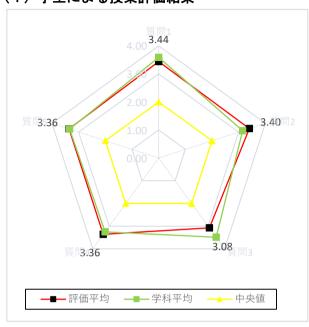
(2) 結果の分析と評価

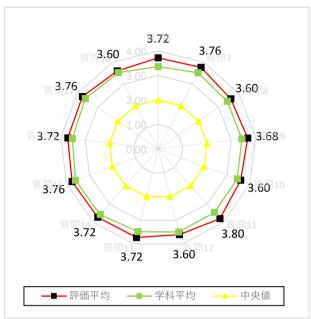
毎年質問のほとんどが学科平均を上回る評価結果だったので、担当している非常勤の先生はショックだったろうなと察する。 いつも、笑顔で楽しい授業を展開するスタイルは今まで通り続けてほしいと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、学科教員が指導することになりましたので良い結果になることを期待します。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみ Ⅲ	25名





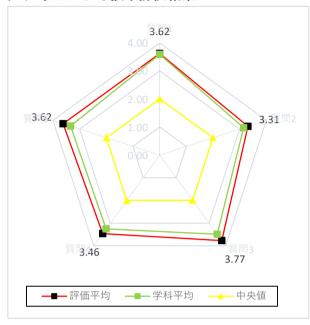
(2) 結果の分析と評価

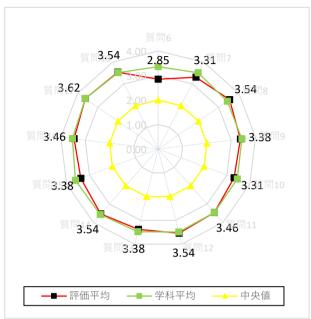
授業評価は全員行っていた。学生の自分の態度に関する評価は私語、居眠りが少々多かった。 授業内容についての評価は学科全体学科の平均よりは高かった。資料の配布や授業の進む速さ等が少々高 かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も全員が評価できるように声掛けや評価の時間を作ったりする。授業内容をさらにわかりやすいものにする。日本語レベルにもわかりやすい説明にしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの支援 I (基礎・ 実習)	14名





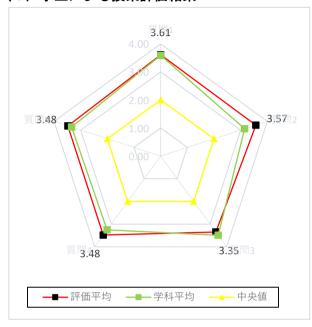
(2) 結果の分析と評価

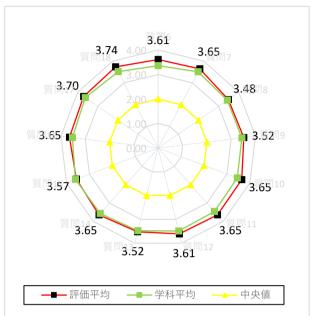
質問6のシラバスについて低得点となっているが、そもそもシラバスは授業開始時と終了時に確認することになっている為、日々の実践(基礎実習)では、確認することはない。 自由記述の中には、「実習でたくさんまなぶことができた」といったコメントもあり、実践活動を通して一 定度の学習成果はあったものと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けて、シラバスの説明というよりも活動の目的などを明確に伝えるようにして授業全体の目指す方向、実習にて達成すべき目標について学生個人レベルで考えることのできる時間を確保できるように工夫する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみ Ⅳ	25名





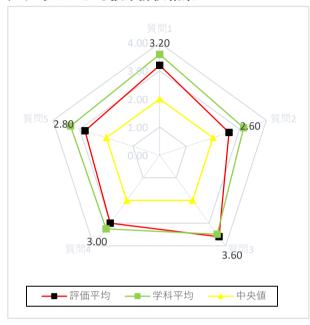
(2) 結果の分析と評価

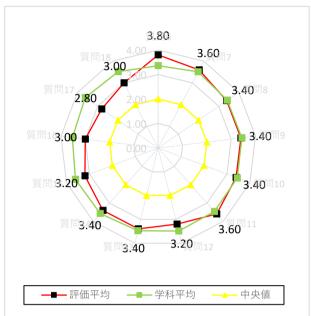
授業評価は全員行っていた。学生の自分の態度に関する評価は学科平均より少々高かった。対面授業であったためかほかの教科で見られた私語、居眠りは特に多くなかった。 授業内容についての評価も学科全体学科の平均より少々高かった。総合評価が少々高かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も全員が評価できるように声掛けや評価の時間を作ったりする。授業内容をさらにわかりやすいものにする。日本語レベルにもわかりやすい説明にしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		基礎英語	7名





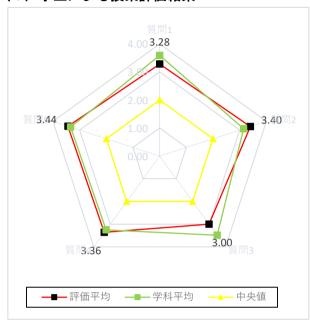
(2) 結果の分析と評価

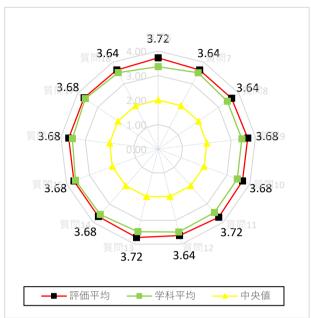
本授業では、基礎的な英文法の振り返りを行うとともに、TOEIC試験に向けた単語や文法の習得を図った。 受講者の基礎学力が高く授業態度がよかったため、授業計画を多少変更し、TOEIC関連の問題を増やした が、徐々に学力差が表れるようになった。文法を中心とした授業構成となったが、受講生の要望としてリス ニングやスピーキングがあったことから、授業内容の変更や学びやすさや面白さの工夫が必要すべきだっ た。

(3) 次年度に向けての取り組み

受講者それぞれのレベルや目的等に応じた授業構成や目的設定などを次年度以降取り組んでいきたい。

ĺ	学部	学科	担当者	科目名	履修者数
	短期大学部	地域生活支援		医療的ケア I	25名





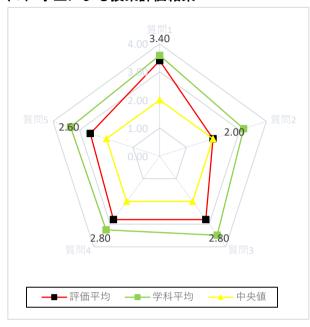
(2) 結果の分析と評価

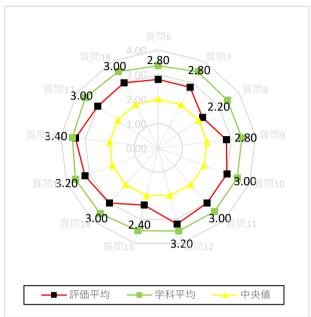
授業評価は全員行っていた。学生の自分の態度に関する評価は居眠りや私語がみられた。 授業内容についての評価は学科全体学科の平均より少々高かった。以前低かったシラバスについては授業の 初めに授業プリントに要約して印刷して渡すためか、説明があったことをよく自覚できていた。授業の進む スピードは教員としては遅かったが学生側は丁度いいという評価であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も全員が評価できるように声掛けや評価の時間を作ったりする。授業内容をさらにわかりやすいものにする。日本語レベルにもわかりやすい説明にしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		英語検定 I	5名





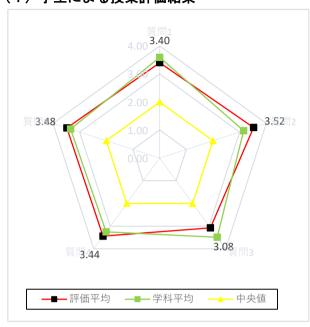
(2) 結果の分析と評価

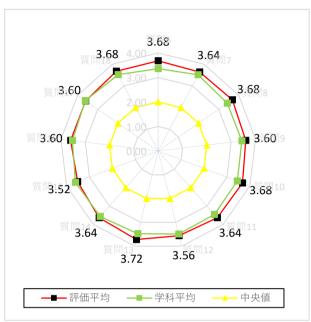
全体的に授業評価の結果は低く、特に「興味・関心が持てる工夫」「授業の進む速さ」の評価が低かったことを反省して、次年度に活かしたい。本授業ではTOEIC試験対策を主とし、毎回新しい単語を覚えるよう小テストを実施したが、受講生の意欲の差が顕著に表れる結果となってしまった。より多くの受講生が資格試験を受験するための工夫と意欲を高めるための取り組みをしなければならない。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の目的は資格試験としているが、最初の授業においてそれを明確にし、個々の学生のレベルに応じた課題や目標を設定する。受講生の学習意欲を高めるためにさまざまな媒体を用いた授業展開をしたり、授業方法を変えるなどの工夫をする。

学部	Ė	学科 担:	当者	科目名	履修者数
短期大学	全部 地域:	生活支援	<u>医</u>	療的ケアⅡ	25名





(2) 結果の分析と評価

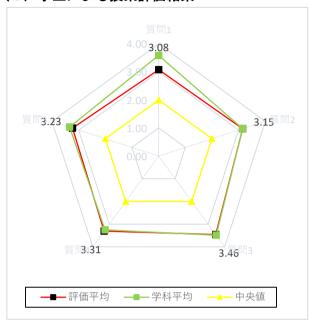
授業評価は全員行っていた。学生の自分の態度に関する評価は居眠りや私語がみられた。シラバスの活用と 総合自己評価は学科の平均より少々高かった。

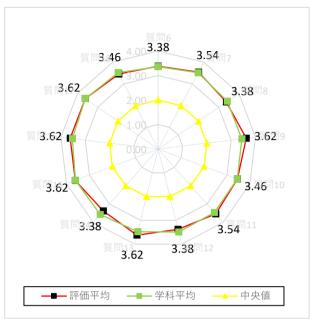
授業内容についての評価は学科全体学科の平均より少々高かった。授業の進むスピードもちょうどいいという評価だった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も全員が評価できるように声掛けや評価の時間を作ったりする。授業内容をさらにわかりやすいものにする。私語や居眠りがないような授業の工夫を行う。日本語レベルにもわかりやすい説明にしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		医療的ケアⅢ	25名





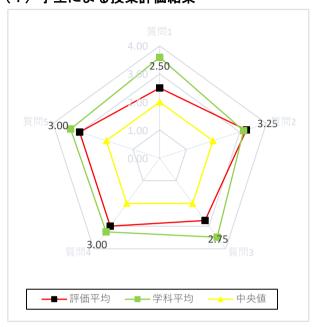
(2) 結果の分析と評価

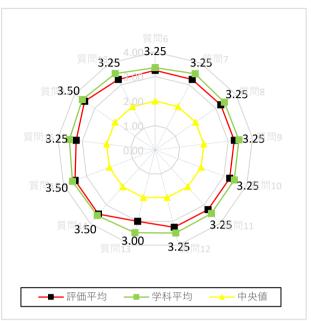
授業評価は、25名中13名しか行っていなかった。ほとんどが演習であり、シラバスの活用に至っていなかった。授業に対する評価は学科の平均とほぼ同じような感じではあったがシラバスの説明、誠実な対応についてが少々低かった。授業は現場で看護師と4人で行うが会議棟で専任教員が不在のことも多く把握できていない部分があったと思われる。興味関心も少々低かった。毎回演習で覚えることが多かったことも原因かもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答の時間を決めたり、回答していない学生に対し個別に回答を促す。日本語レベルが低い留学生が理解できるような工夫や理解を確認しながらの授業の進め方を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習 II (卒 業研究)	7名





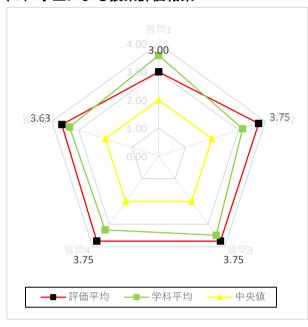
(2) 結果の分析と評価

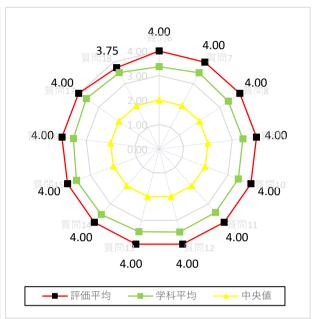
3名または4名しか回答していない。 質問項目が18項目しかないにも関わらず、25項目にチェックしている学生が3名いる。 したがって真面目に回答した学生は1名のみと考える。 評価が高かった質問項目は、「誠実な対応」「公平さ」「熱心さ」であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価が高かった質問項目は、「誠実な対応」「公平さ」「熱心さ」であった。 引きつづき高評価をいただけるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習 II (卒 業研究)	8名





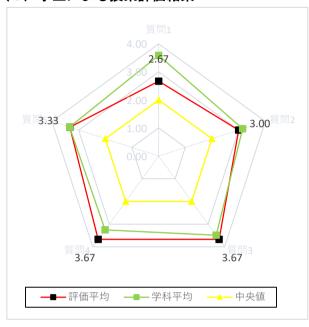
(2) 結果の分析と評価

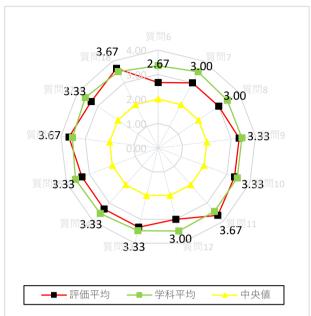
総合評価は3.75であった。すべての項目については概ね高評価であった。今年度の卒業研究は、コロナ禍で対面での活動が制限され何度も活動が中断した。その時々で臨機応変に対応しやりきることはできたが、学生が思い描いていたような内容では実施できなかったと思われる。しかしながら、困難な中でもできる方法を模索し卒業研究をやり遂げようとする学生の姿勢は素晴らしかった。やりきることができた達成感と満足感が評価の数値として表れたものと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

令和2年度に続き学生にとっては制限の多い1年だったように思う。しかしながら、自分達が興味関心をもつ内容で出来る方法を模索し研究を行い、やり遂げたことで達成感や満足感というものを感じることができたのではないだろうか。次年度も学生としっかり話し合い意見交換をして受動的ではなく能動的な卒業研究としたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習 II (卒 業研究)	6名





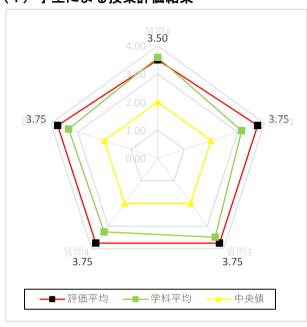
(2) 結果の分析と評価

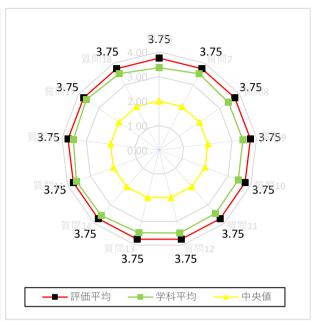
本科目では、6名の学生を担当したが、そのうち5名は留学生であった。質問1の値が2.67と極端に低いが、この授業が金曜日の5限に実施されており、アルバイトの時間の関係で欠席や早退をする学生が多かったことを表している。ただし、学生らは、その都度教員に事前相談し、また欠席や早退した分については、別の時間に個別指導を行うことで不足分を時間的に補うことはできたと考えている。質問6から質問8も、学科平均と比べると非常に低い値である。授業計画の説明や活用が不十分であったことや授業の進め方が学生の満足のいくものでなかったこと痛感している。また、特に留学生が卒業研究自体を「大変、難しい」と感じてしまい、研究そのものがなかなか進まず、モチベーションを向上させるまでに非常に時間を要したことも、今回の結果に影響していると考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

まず、卒業研究に対して「大変、難しい」という印象だけにならないようにしたい。卒業研究は、例年、卒業研究発表会が近づくにつれ焦りが見られ、研究グループ内での意見の相違やコミュニケーション不足が顕著になり、さらにスムーズに研究が進まないといった状況になることも少なくない。もちろん、最終的にはそのことさえも学生に気づきや学びとなるのだが、学生には、研究の面白さや探求心を持つことの意義を伝えたい。そのために、研究テーマを現実的で取り組みやすいものになるよう学生にアドバイスし、担当する学生間(ゼミ)での情報交換や意見交換を定期的に行い活発化する。学生同士で刺激し合いより多角的視点をもって思考・考察すること面白さと重要性を実感することで、卒業研究に前向きに取り組めるような雰囲気を作っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習 II (卒 業研究)	8名





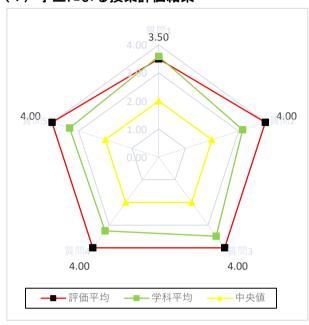
(2) 結果の分析と評価

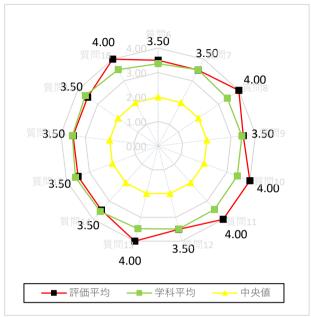
学生自身に対する質問及び授業・教員に対する質問についてはいずれも学科平均よりも高い評価であった。 学生の授業欠席回数に対する回答では、実際の欠席回数よりも多く入力している学生が1名いた。本科目で は学生が主体となって活動していくため教員は学生からの要望があった場合など必要に応じて資料とパソコ ンの用意や学生の意見の聞き取り、教員としての助言を行った。今年度も学生レストラン プティ・ラ・サ ンテ、市報さがのレシピ考案、学生チャレンジショップつむぎの3つ実践活動を行った。誰かに任せきりに せず学生同士が自分で考えて行動しやすいよう担当の割振りをしたことと、ほとんどの学生がそれに応えよ うとする姿勢も見られたこと、社会経験のある学生数名がリーダーシップを発揮していたことが今回の評価 につながったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き学生レストラン プティ・ラ・サンテ、市報さが、学生チャレンジショップつむぎを実施し、さらに地域生活支援学で実施した食育活動の延長として小学生以下を対象とした食育活動を計画している。学生は4名しかいないため少数でも活動できる内容を検討する。教員として学生が「何のため」に活動するのか「在学時と卒業後」にどう活用できるのかなどを理解・納得できるよう事前説明を行う。これまではファイルとUSBメモリを配布して資料の保管と進捗状況の記録を行ってきたが、次年度からはそれに加えてTeams上でのデータのやり取りも行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習 II (卒 業研究)	3名





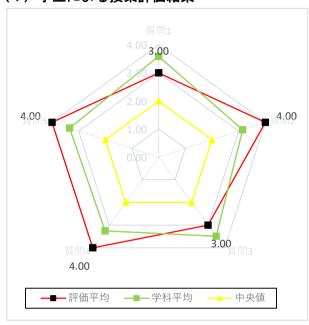
(2) 結果の分析と評価

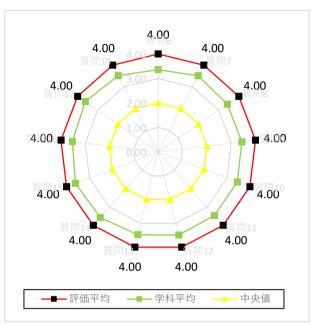
本授業では受講生それぞれの興味・関心を基に研究テーマを設定し、研究計画に沿って学習をした。事前の 予測とは大幅に内容が変わったが、無事に研究発表を終えることができた。受講生は皆留学生であり、意志 の疎通が難しいこともあったが、それぞれのペースで学びを深めた。研究の仕方や面白さを伝えるための工 夫が足りていなかったため、次年度に向けて工夫したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

受講生一人一人の興味関心を深め、それを発表することでよりよい研究につなげることができるため、円滑なコミュニケーションをとりながら受講生の関心を探る。テキストを中心とした研究課題を設定するのではなく、実戦的な学びを提供する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習 II (卒 業研究)	3名





(2) 結果の分析と評価

この科目は、卒業研究を実施する科目である。

概ね多くの項目において、高評価を頂いており、大変励みになる。

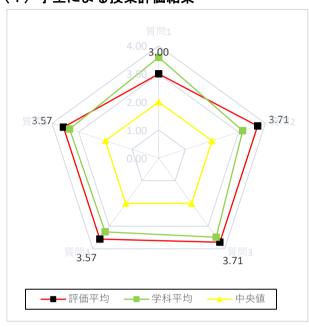
低評価としては、質問1及び質問3についてである。

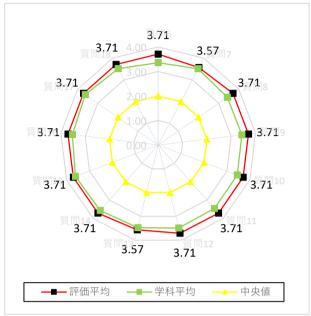
主に、授業への取り組み方に関する項目である。ただ、この講義は他の学生と議論しながら進めいていく講義であるため、質問3については「真剣」に取り組む必要はあるが、「私語」をマイナス要素とは考えていない。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、基本的に今年度と同様の進め方で行う予定である。 その中で、学生の議論が深まるような工夫を行うことができればと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習 II (卒 業研究)	8名





(2) 結果の分析と評価

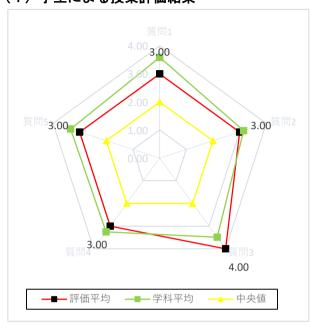
卒業研究の学生自身の総合評価は3.57で、教員側の総合評価は3.67であった。教員側の項目は授業の進む速さは3.57であったがその他は全て3.71、授業の評価も3.71で、総合評価は3.64であった。この授業の特徴は 学生自らテーマを設定し目標を立ていくため、グループ内でのコミュニケーションが重要になっている。引 き続き、満足いく授業を実施していきたい。

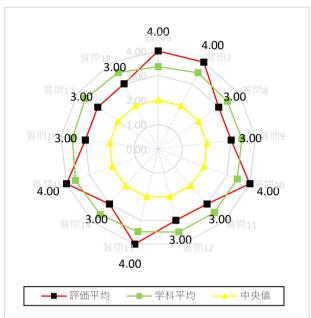
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みは次の通りである。

- ①評価が低かったシラバスの活用についてはしっかり確認し活用させる。 ②グループ活動では互いが意見を出し合い、ディスカッションできる環境をつくっていく。 ③机上・学内だけでなく地域との連携ができるような体制で実施し実践力を高めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習 II (卒 業研究)	4名





(2) 結果の分析と評価

4人中1人しか評価を行っておらず、極端な評価となった。

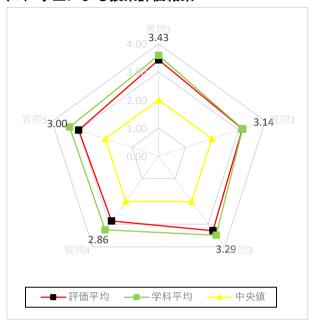
ほとんど一人での作業であるため私語や居眠りはなかったが他の評価は3であった。

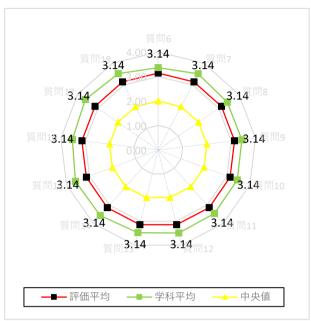
シラバス、到達目標の明確化、視聴覚教材の使用適切な使用、授業の進むスピード、公平な学生への対応は4の評価であった。ほかは3の評価であった。自由記述はなく、3の詳細な理由はわからなかった。途中経過の状態の報告に対する指導が主で、最終段階で本人が行ってきたことに対して多くの指導を行ったのでもう少し前の段階で多くの指導が必要だったのかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答の時間を決めたり、回答していない学生に対し個別に回答を促す。毎回細かい指導を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習 II (卒 業研究)	7名





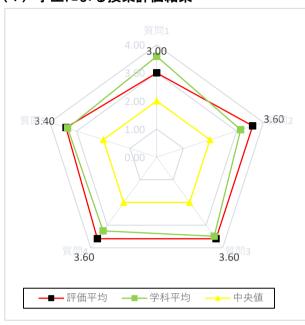
(2) 結果の分析と評価

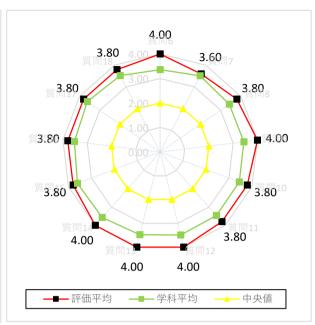
この科目は、「地域生活支援学」での座学・演習を経て、ゼミ/グループ/個別単位で実際の課題解決・実践活動に取組んでいる。各コースでは、総じてそれぞれの専門分野に向けた活動が行われるなか、コロナ禍の制限のなかで、各テーマの調査や可能な限りの実践活動に取組んだ。ゼミでは活動のなかで試行錯誤しながらの改善充実を図ったと言えるが、評価は総じて学科平均と比較して高いことが分かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

総じて卒業研究では、各コースの専門資格の取得や就職活動と並行して、より効果的な学習が進められるよう、活動の意味付けや主体性を醸成する働きかけが必要と考えられる。教員一同がファシリテーションスキルを改めて振り返るなど、学生の一層の達成感や学習成果の獲得に向けた改善充実に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習 II (卒 業研究)	8名





(2) 結果の分析と評価

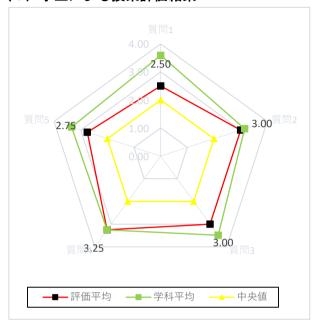
多くの項目で平均を上回る結果となった。要因としては、1人ひとりのテーマや進捗状況に合わせ、指導方法等を工夫した結果であると考える。

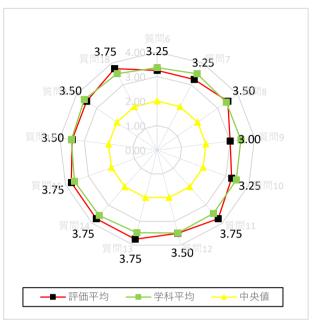
授業の欠席についての項目では、平均値を下回る結果となった。授業は金曜日の5限目であり、受講学生は留学生がほとんどで、遠方の学生とうも多かった。そのため、欠席することもあった。必要性に応じ、オンデマンド等での実施も検討する。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けては、平均を下回った欠席の項目については、学生の状況に応じては、オンデマンドでの実施等の検討もしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語皿	14名





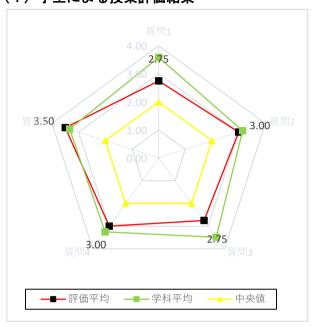
(2) 結果の分析と評価

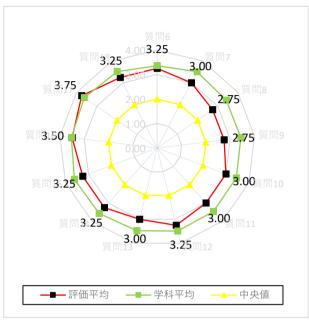
本授業は留学生を対象とした授業であり、15回すべてオンライン形式で実施した。資格試験の過去問と中級レベルのテキストを使用し、文法と読解を中心に取り組んだ。オンラインへの接続環境により、毎回全員が参加することができなかったため、オンデマンド型での対応が必要であったが、その対応ができなかったことは反省すべき点であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続きオンラインで授業を行う予定であるため、時差やwifi環境に配慮し、すべての受講生がオンライン型・オンデマンド型で受講できるよう資料の提供と連絡をする。また、授業計画や目標を毎回の授業で明確に説明し、受講生の目的意識を高める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支	援	日本語検定I	4名





(2) 結果の分析と評価

1. 学生の取り組み

対面授業ではあったが、学生の取り組みは、

学科平均に比べて低く、良好な結果とはいえない。

特に授業への欠席(質問1)の評価が低くなっており、

学生たちの欠席が多かった。

コース独自の時間割編成により、開講当日の他の授業がすべて遠隔授業に切り替わったていたり、 前後の授業が遠隔授業になるなど、学生が対面授業に参加できない状況が続いた。

2. 教授方法・教員の対応

全体的に、学科平均等より低い評価となっており、良好な結果とはいえない。 そのようななかでも、双方向的なやり取り(質問16)、

熱意(質問17)を評価してもらえた点、さらにN3受験者が合格をすることができた点は、 救いである。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は対面授業が基本となることが決まっている。

しかし、受講対象である留学生は来学できないことも考えられる。

これまで対面授業でおこなってきた留学生の日本語教育を

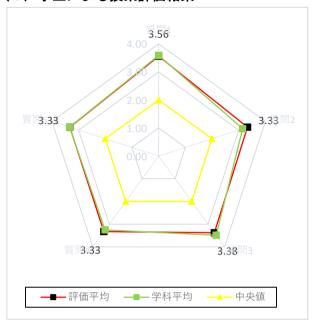
遠隔授業でどう行うのか試行錯誤の年度になることが予想される。

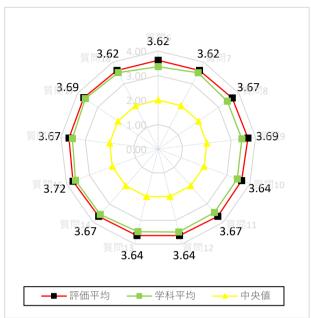
その際、幼児保育学科で開講していた「国語(遠隔授業)」の授業方法は参考になる。

日本人学生に好評であった「国語」の授業をベースに、

留学生の実態に応じた遠隔授業を設計していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		情報リテラシー皿	41名





(2) 結果の分析と評価

この科目は、主にプレゼンテーション資料の作成方法、特にプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使い方を講義する科目である。

高評価としては、質問8、質問9、質問12、質問13等が挙げられる。

学生の中では、人前で話すことが苦手な学生も多く、そのような学生に少しでも苦手意識を無くしてもらうために工夫したことが評価されたと考えられる。 大変励みになる。

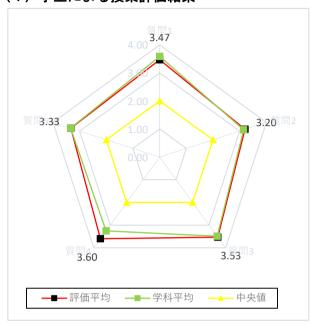
低評価としては、質問4が挙げられる。

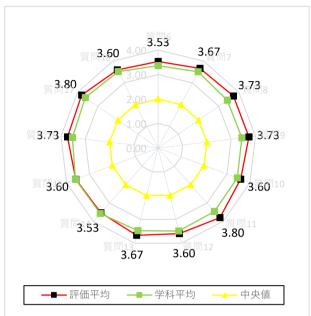
この科目の例題が教科書に依存した内容であったため、少し退屈な内容になったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度は、この科目は廃止される。 この科目で頂いた意見を今後に活かしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語応用(方言と介 護)	34名





(2) 結果の分析と評価

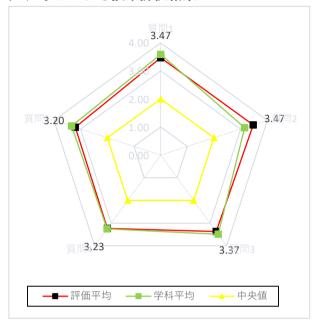
34名中15名しか評価を行っていなかった。学生の自己評価は質問2のシラバスの活用以外は学科の平均より少々高かった。

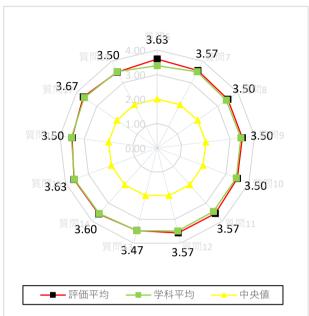
授業に対する評価は学科の平均よりほぼ高かった。すべて遠隔授業であったが、興味がある方言についての 演習が主であったため特に難しくはなかったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価を全員行うように声掛け等を行っていく。日本語レベルを上げるための内容を追加したり、国試の読み解きのための内容を追加したりしていく。

ĺ	学部	学科	担当者	科目名	履修者数
	短期大学部	地域生活支援		栄養指導論 I	31名





(2) 結果の分析と評価

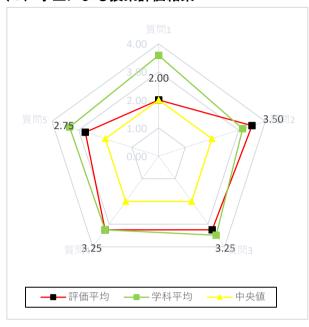
栄養指導論 I は、栄養士の専門科目で、人々の健康・維持増進をはかるために正しい食生活を確立させるための実践的に取り組みやすい学問である。コロナ禍で遠隔授業での展開となった。評価の結果は学生自身のQ4「授業を理解するための工夫をしたか」3.23と低く、総合自己評価は3.20であった。授業内容・方法においてはQ17「熱心に授業に組んでいた」3.67で、低い値は、Q13「授業の進む速さは適切であったか」3.47であった。この総合評価は3.50である。全てZoomでの遠隔授業であったが、学生を指名して順に資料を読み上げやコメントをさせるなど双方的なやり方で満足度を高めるよう努力をした。

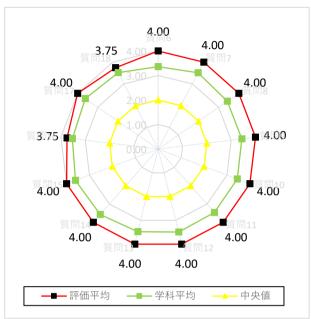
学生のコメントは、「毎回スライドを分かりやすく作っていたので、とても良かったです。」 「スライド・資料の配布がありわかりやすかったです。」「対面でしたかったです。」等で概ね理解しやす い授業であったことが言える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は評価が低かった学生の自己評価で「授業を理解するための工夫」について、興味・関心をもたせ自ら学ぶ力を習得させていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		情報リテラシーⅣ	8名





(2) 結果の分析と評価

この科目は、主に統計分析を体験する授業として設定している。その中でグラフの利用方法など、データの 可視化についても扱った。

ほぼ高評価を頂いており、大変励みになる。

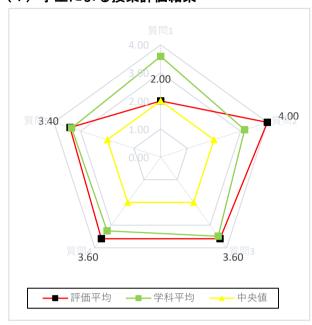
低評価としては、項目1、項目5があると考える。

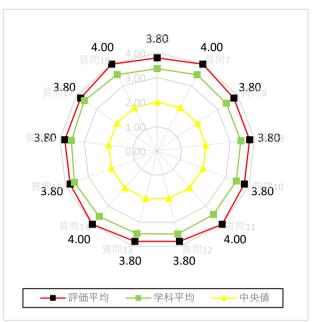
この2つの低評価から、学生がこの科目で達成感を得られなかったのではないかと危惧している。内容が数 学的になりすぎて、難しかったではないかと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

この科目は、来年度は廃止される。 この科目で感じた反省点を、来年度の科目に活かしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食文化コミュニケーション	7名





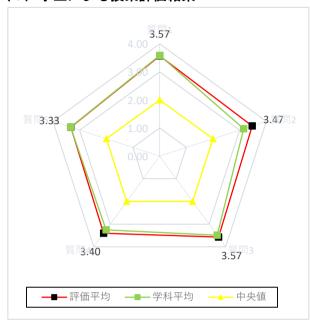
(2) 結果の分析と評価

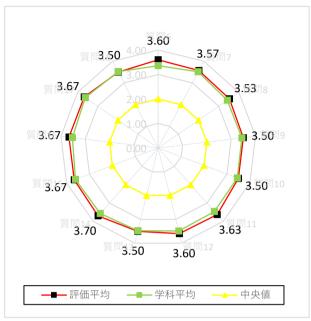
令和3年度は多文化コースのみの受講であった。受講者7名中5名より回答を得た(回答率71.4%)。 授業評価結果のうち学生自身の授業参加態度を問う項目では、おおよそ学科平均より高い評価を得た。教 員への評価では全項目において学科平均よりも高い評価であり、2や1の評価をしている者はいなかった。本 授業のねらいでもある「様々な国・地域の食や食文化について、受講者同士が紹介しあい理解を深める。食 文化の共有を通して異文化交流のきっかけを作り、コミュニケーションの幅を広げる。」を達成するため、 教員からの講義だけでなく、学生同士のディスカッションや発表、調理実習を多く取り入れており、うまく 機能することができたものと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業方法については概ねこれまで通りのやり方を踏襲する予定である。ただ欠席回数が4~5回に及ぶ学生が数名いることから、学生自身の意欲を高めるための工夫について考えたい。また、本来は学科共通科目であるにもかかわらず多文化コース在籍生の履修のみに留まっていることから、履修登録時の積極的な呼びかけも行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論実習 I	31名





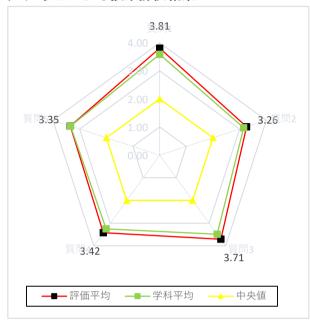
(2) 結果の分析と評価

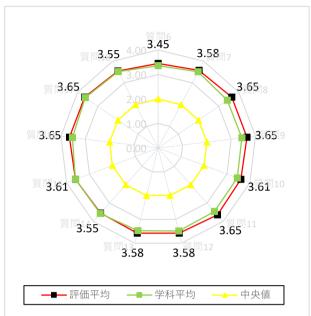
この授業は栄養士の専門科目である栄養指導論で習得した知識を実地または実物について実際に学ぶ、そして将来現場での栄養指導で役立てるように学んでいく授業である。評価の結果は学生自身の総合評価3.33であった。教員側の評価は3.50であった。その中で高い項目はQ14学生の質問等に誠実に対応しているが3.70であった。低かったのはQ9分かりやすく工夫はなされている、Q10視聴覚機器の用い方、Q13公平さが3.50であった。興味関心が持てるが3.35、Q12話すスピードが3.39であった。学生コメントには「自分たちで実際にやることもあったので、覚えやすかった。」「媒体を作って発表したのが楽しかった。」「計算が難しかったです。」「栄養指導が楽しかったです。」との記述があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後の取り組みとして、実習は実践的要素が含まれているので理解しやすい科目である。今後も興味・関心が持てるように分かりやすい内容で授業を展開し、予習・復習を習慣化させ積極的に学ぶ力を修得させたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理学	31名





(2) 結果の分析と評価

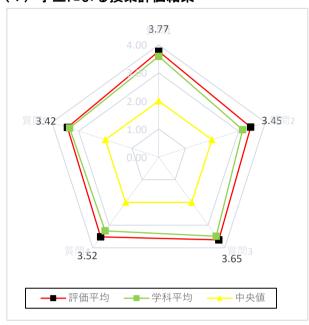
調理学は日常的な調理操作の基礎を科学的に学んでいく科目であるため、調理実習に結びつけることができるような内容で授業を進めていった。コロナ禍でオンライン授業14回と対面授業1回で実施し、わからないことは対面授業の調理実習で補った。学生の評価で、特に高い値はQ1「授業の参加度」3.81とQ3「授業態度」3.71、低い値はQ2「シラバスの活用」3.26であった。総合自己評価3.35である。教員側の評価では高い値はQ9「授業は分かりやすく工夫されていた」、Q16「双方的なやり方で行っていた」、Q17「熱心に授業に組んでいた」は3.65で、低い値は時にみられなかった。総合評価は3.55である。

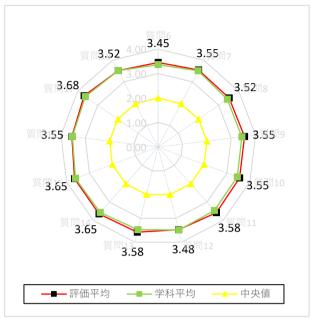
学生からのコメントは「毎回配布される資料はとても分かりやすくてそれ通りに授業を進められるので良かったです。」「資料がとても分かりやすい。」「いつも説明が丁寧でわかりやすかったです!」等で概ね 理解しやすい授業であったことが言える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は評価が低かったシラバスの活用について全員が活用できるように工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習(日本料理)	32名





(2) 結果の分析と評価

この授業は栄養士として即戦力を高めるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。初回は調理と栄養計算の目的や算出方法の理解から展開していった。実習では、技術を習得させるために、材料の特殊な切り方や調理操作が理解で出来るように出来る限りデモストレーションをおこないながら授業を進めていった。結果は学生自身のQ1「授業参加態度」3.77、Q3「授業の取り組み」3.65と高く、総合自己評価は3.42であった。授業内容・方法においてはQ17「熱心に授業に組んでいた」3.68で、低い値は特にみられなかった。総合評価は3.52である。学生からのコメントは「料理を始める前の説明が分かりやすかった。」「一つ一つ丁寧に説明してくださる。生徒との距離が近く、話しやすい。」「いろいろな切り方や調理のしかたなど、デモンストレーションしてくださるのでわかりやすかったです。」と肯定のコメントと一方では「調理で使うレシピは今にあったものにしてほしいです。」「古くて載っていない言葉があったのでそこのところはその意味を書いてほしい。」「授業の最初の話のときは動いてないのでクーラーが当たりまくって寒かったです。」のコ

(3) 次年度に向けての取り組み

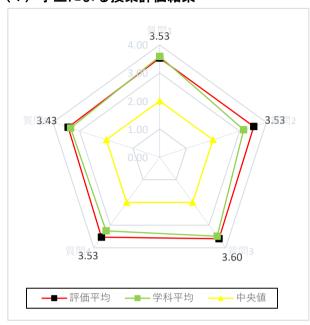
次年度は学生の声を聴いて工夫しながら魅力ある授業にしたい。レシピについては永原学園調理カードは基礎調理とし基礎を学ぶためのレシピとして重要であることから、学生には古いではなく基礎をマスターして応用に展開していくなどレシピの意味合いをしっかり理解させる。また、カード中の「ことば」の調べについては図書館を利用するなど検索する手法は教えていたが掲載されていないことばについては、意味を教えるなど積極的に学べるようにしていきたい。クーラーについては今後、着座の位置を変えるなどの工夫をしていく。

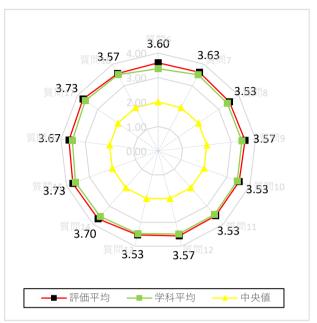
引き続き、これまでと同様に下記の内容を中心に実習を展開していく。

①授業の理解のための自己工夫としてこれまでと同様に実習カードを事前に配布し予習させ、実習後は家庭で必ず再実習を行なうなど、実習前後は、家庭学習が出来るよう指導する。②学生の学習意欲、技術能力、生活環境により個人差が大きいため、技術能力を習得させるだけでなく、グループ実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせる。また、人間形成の場と して互いに学びあいながら、実践実習が出来るよう、指導していく。

③包丁扱いなど調理技術の向上努

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習(西洋料理)	31名





(2) 結果の分析と評価

R3-西洋料理

この授業は栄養士として即戦力を高めるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。技術を習得 させるために、材料の特殊な切り方や調理操作が理解で出来るような説明をイメージさせながら、特殊操作 についてはデモストレーションと併用しながら授業を進めていった。結果は学生自身のQ3「授業の取り組 み」3.60と高く、総合自己評価は3.43であった。授業内容・方法においてはQ15「公平な対応」、Q17「熱心に授業に組んでいた」3.73で、低い値は特にみられなかった。総合評価は3.57である。

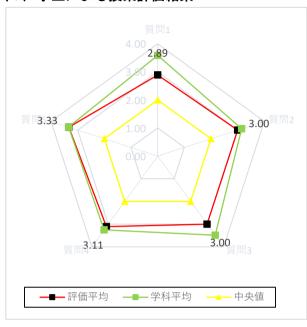
学生からのコメントは「たくさんのものを作れたので楽しかったです。」「料理を始める前に毎回やり方を 教えてくれるから、分かりやすかった。」「西洋料理をよく学べた。料理の基礎を学べた。」「楽しく調理 実習ができました 食事のマナーを学ぶことができました。」「西洋料理とケーキコンテスト頑張った。」 等で概ね理解しやすい授業であったことが言える。

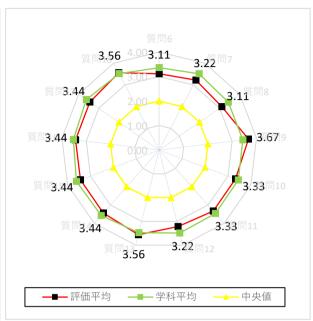
(3) 次年度に向けての取り組み

今回の授業評価では概ね良好であったことから、これまでと同様に下記の内容を中心に実習を展開してい

- ①自分で調理操作と出来上がりがイメージできるように、家庭でも調理をする機会を増やすように促す。 ②授業の理解のための自己工夫としてこれまでと同様に実習カードを事前に配布し予習させ、実習後は家庭 で必ず再実習を行なうなど、実習前後は、家庭学習が出来るよう指導する。しかし、過去の経験で実習時にカードを"忘れる""紛失する"といったことから、カード管理も十分にで
- きるよう指導する。
- ③学生の学習意欲、技術能力、生活環境により個人差が大きいため、技術能力を習得させるだけでなく、グ ループ実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせる。また、人間形成の場と して互 いに学びあいながら、実践実習が出来るよう、指導していく。
- ④包丁扱いなど調理技術の向上努めると同時に大量調理へスムーズに展開できるように訓練していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		応用プレゼンテーション 演習	10名





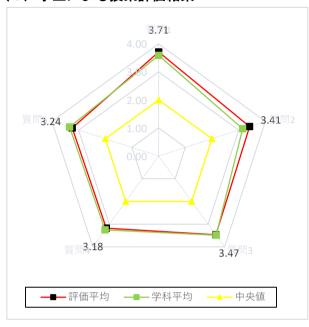
(2) 結果の分析と評価

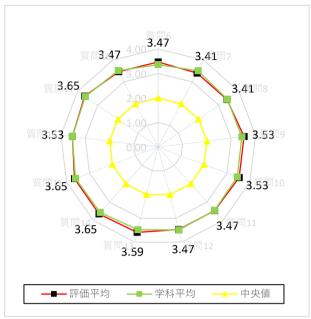
本授業では企画書・報告書・レポート・説明資料等の作成を行い、実践的なプレゼンテーション力を身に付けることを目的として実施している。シラバスの活用や授業の到達目標に関する評価が特に低い結果となった。

(3) 次年度に向けての取り組み

資料作成にあたり、到達目標を明確にすることやプレゼンテーションの技術がどのように社会で役立つかを 毎回の授業で周知し、達成感や意欲の向上につなげる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		実践食育	17名





(2) 結果の分析と評価

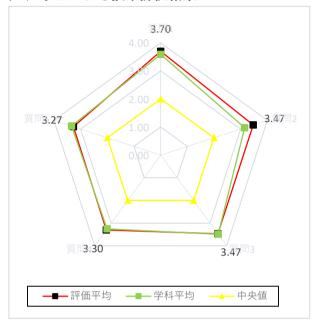
本科目は食育アドバイザー認定を目指す学生には必須であり、2年前期に開講される「食育演習」と対をなす科目である。食健康コースに在籍する35名中17名が受講しており、その全員から回答を得た(回答率100%)。

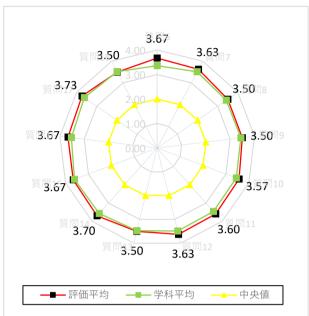
学生自身の授業参加態度を問う項目において、おおよそ学科平均より高い評価であったものの、質問4の「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか?」においてはやや低い評価であった。 どちらかというと受け身の状態で授業に臨んでいたことがわかった。教員に対する評価では学科平均とほぼ同じであったものの、評価基準2であった者がどの質問項目においても1名ずつ確認された。授業の概要として主に「子どもの食育」について取り上げていたものの、実際に参加する食育活動が成人対象のイベントであったりと、授業の全体像をイメージすることが難しかったのかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

基本的には教員による講義が中心となる科目ではあるが、学生の主体的な学びを引き出せるよう、その一部を演習やディスカッションにおきかえるなど工夫が必要であると感じる。また、食育アドバイザー認定を目指す学生が食健康コース在籍生のおよそ5割に留まることから、食育アドバイザーという資格の周知であったり、学生が取得しやすい時間割展開であったりと、履修者数を増加させるための方法についても検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		給食経営管理論	31名





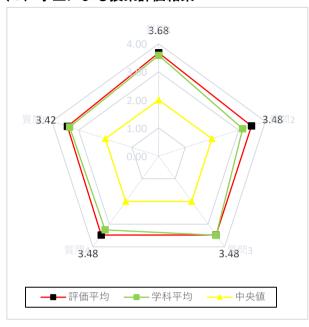
(2) 結果の分析と評価

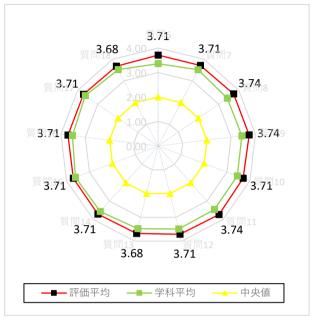
総合評価は3.50であった。令和2年度はzoomを活用した授業展開で今年度は対面での実施となった。昨年度に遠隔対応をするため要点が分かりやすい教材へと作り替えをしていたため、学生からは教材が見やすいとの評価であった。定期的に知識の定着をみる小テストを組み入れ、今、自分がどの点を理解できていないのかを知る機会を設けるようにしている。

(3) 次年度に向けての取り組み

令和2年度に遠隔対応で教材の作り替えを行った。その際、学生の意見として「パワーポイントに要点がまとまっていて分かりやすかった」「小テストが途中であるので大事なところが分かった」「集中できた」など肯定的な意見が多かったため、今年度は教材の大幅な修正は行わなかった。学生の理解度は年度で異なるため学生の状況を見ながら授業内容や実施方法の改善に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		給食管理実習 I	31名





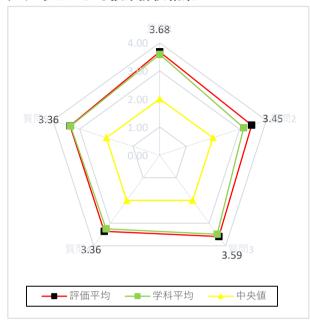
(2) 結果の分析と評価

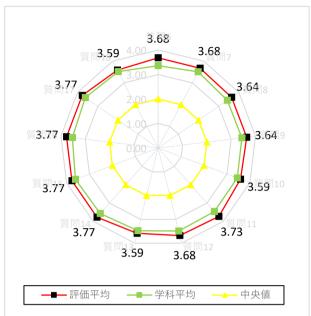
本授業は、栄養士の実務である給食の運営を実践体得することを目的としており、1年後期から2年前期の1年間に渡って行うものである。1年後期には給食の運営に関連する演習形式の座学と附属の幼稚園での見学実践実習をし、2年前期には1年次に学んだことを基礎として学食を使って給食の運営(大量調理、学内給食)を実践する。総合評価は3.68であった。今年度はコロナの影響で学内給食本番直前で対面授業が中止となり、学内給食自体の実施が危ぶまれたが日程変更と関係部署との調整をすることで何とか例年とさほど変わらない形で実施することができた。通常ではありえないような状況下であったことを考慮すると、今回の評価結果は高評であったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

本授業は2年後期の学外実習の基礎としての位置づけもあるため、学外実習へスムーズに入っていけるように給食の運営に関する座学(演習)→西九州大学附属幼稚園見学実践実習→学食での給食の運営(学内給食)という流れを大事にしている。今年度は令和2年度に引き続き、感染予防対策を講じての実施となった。具体的には、1年生の幼稚園見学実践実習は実習前2週間と実習中の健康観察記録を課し、佐賀県下の感染者数の状況を見ながら必要な時は抗原検査もプラスで実施し実習に送り出した。2年生の学内給食は配食をトレイ方式とテイクアウト方式を選択できるようにして行った。例年と異なる部分が生じたが大きな混乱もなく実施することができた。評価結果から、全体としては学生からの肯定的な意見が多く、授業そのものはおおむね上手く展開できているのではないかと思われた。次年度も状況に合わせて臨機応変に取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		スイーツクリエイト基礎 理論	23名





(2) 結果の分析と評価

学生自身に対する質問では、特に「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか」という質問は学科平均よりも高い評価であった。また、授業及び教員に対する質問では、全ての質問が学科平均よりも高い評価を得られ、特に「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか」では学科平均よりも0.19ポイント高かった。これは参加している学生全員に1回の授業あたり1回または2回ほど学生の発表(資料の読み上げ、確認テストの回答含む)の機会を与えたり、学生からの質問を受け付ける時間を設けたことが、学生自身が授業に参加しやすいと感じることにつながったのかもしれない。

自由記述では「スライド(資料)が分かりやすくて理解しやすい」とのコメントが数件見受けられた。本科目には教科書はなく教員の用意した資料のみを使用している。資料作成時には見るだけになってしまわないよう学生が書き込むスペースを設けること、字が見やすい大きさであること、できるだけ紹介する食品のカラー写真を掲載するといったことを心がけている。

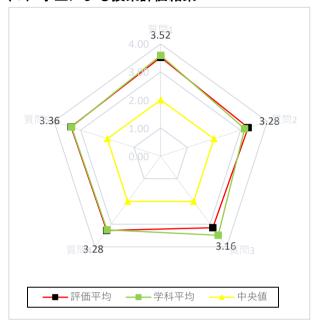
(3) 次年度に向けての取り組み

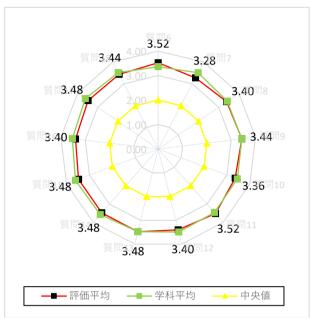
次年度から対面授業で行う予定であるが、資料の取り扱いについてはこれまで同様Teamsのファイルに資料を保存し、学生がいつでも閲覧や印刷ができるようにする。また、授業終わりに行う確認テストも引き続きFormsで行い学生のPCをできるだけ活用した授業を実施する。

質問13「授業の進む速さは適切でしたか」については授業及び教員に対する質問全体の中で低い評価であったことと、遠隔授業は対面授業と比べて授業の進むスピードが速くなりがちと実感しているので、時間配分について見直す予定である。

対面と遠隔にかかわらず配布資料のペーパーレス化について学生の意見を参考にしつつ検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		社会の理解 I	43名





(2) 結果の分析と評価

コース方針により遠隔授業にて講義を行った。

授業評価は、学科平均とほぼ変わらなかった。制度論を扱う科目であり、日本の学生と留学生にどう授業内 容をかみ砕いて伝えていくかに苦慮した。

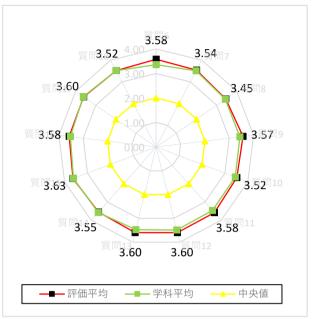
自由記述においては、留学生の学ぶ意欲が高い学生もおり遠隔授業なりの工夫ができたと思われた。ただ し、どうしても理解度の差があると思われるため、授業に参加する学生が理解しやすいようにより工夫を 図っていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、対面か遠隔授業であるかは未定である。 社会保障を中心とした制度論であるため、特に留学生にとっては難しく感じると思われる。そのため、なる べくわかりやすくかみ砕いて理解が容易になるように留意していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合講座	95名





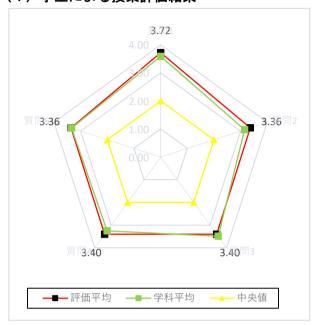
(2) 結果の分析と評価

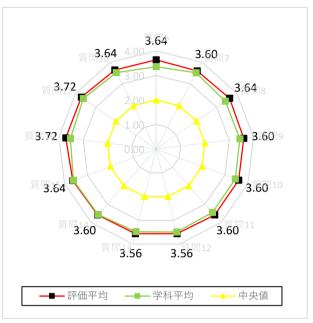
1年生は43名中25名、2年生は26名中14名しか回答していなかった。評価は自己評価や授業に対する評価も学科の平均とほぼ同じであった。自由記述では一つの問題の意味などを詳しく学んで勉強になったとのことであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価を行うように声掛け等を行っていく。さらにわかりやすい説明等を行い100%合格に向けて努力を行う。

Ī	学部	学科	担当者	科目名	履修者数
	短期大学部	地域生活支援		介護の基本 I A	44名





(2) 結果の分析と評価

科目履修者44名中25名から回答が得られた。問19~25の質問がない項目においても25名中5名が回答していた。

学生の授業参加態度および授業内容・方法、対応すべての項目において学科平均を上回っていた。 授業の出席率は高かったため、授業参加度の評価は高い。

教員の対応について、特に評価が高かった項目は、「双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていたか」「熱心に授業に取り組んでいたか」であった。

自由記述には、「シラバスの説明がわかりやすかった」「時々、オンラインがよかった」「制度などが難しかった」などの回答があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度は、時差や通信料金を考慮し、オンデマンドの授業を行った。

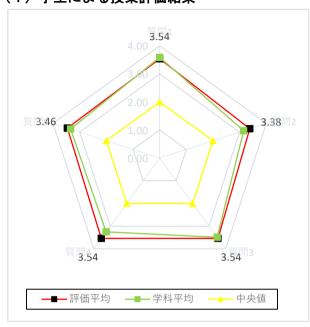
海外の学生は、テキストがない状況であったため、わかりやすい授業資料の作成と進行に心がけ授業を行った。

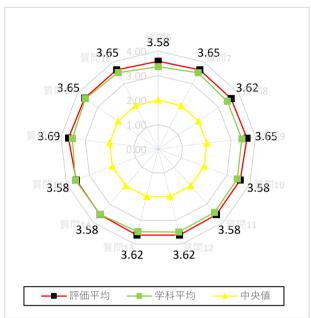
授業のために努力したことは、学生に伝わっていることが感じ取れた。

評価が高かった項目「双方向的なやり取り」「熱心さ」においては、引きつづき高評価をいただけるよう努めたい。

オンライン授業については、時間割を検討し、ハイブリット型の授業を考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本 I B	45名





(2) 結果の分析と評価

科目履修者45名中26名から回答が得られた。

問19~25の質問がない項目においても26名中5名が回答していた。

学生の授業参加態度の項目においては、すべて学科平均を上回っていた。

授業内容・方法、対応については、「誠実さ」「公平さ」2項目において学科の平均をわずかに下回っていた。

教員の対応について、特に評価が高かった項目は、「双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていたか」「到達目標を明確にして、授業を展開していたか」であった。

自由記述には、「シラバスの説明がわかりやすかった」「時々、オンラインがよかった」「丁寧な説明でわかりやすかった」などの回答があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度は、時差や通信料金を考慮し、オンデマンドの授業を行った。

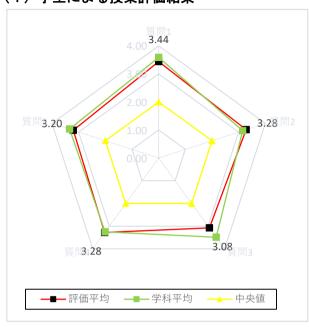
海外の学生は、テキストがない状況であったため、わかりやすい授業資料の作成と進行に心がけ授業を行った。

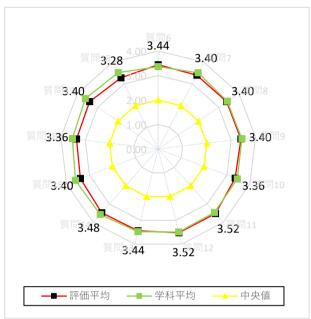
授業のために努力したことは、学生に伝わっていることが感じ取れた。これまでの授業においても授業開始時に授業の学習目標を示していたが、今年度の授業評価で初めて「到達目標を明確にして、授業を展開していたか」の評価が高かった。

今年度の評価が高かった項目「双方向的なやり取り」「到達目標を明確にして、授業を展開していたか」に おいては、引きつづき高評価をいただけるよう努めたい。

オンライン授業については、時間割を検討し、ハイブリット型の授業を考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅡA	43名





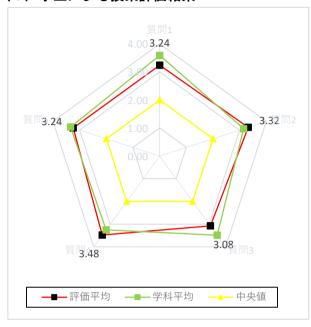
(2) 結果の分析と評価

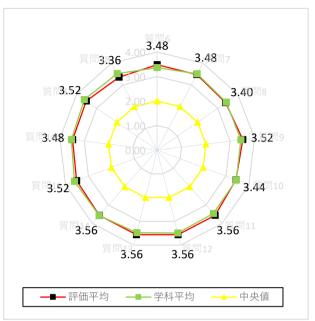
本科目は、対面授業と海外の留学生への遠隔授業を同時に行うというスタイルで授業を行った。海外の留学生委は、手元に教科書のない状態での受講であったこともあり、授業準備には非常に多くの時間を要した。同時に授業をするたびに2パターンで同時に授業を行うことの困難さを痛感した。授業評価の結果は、ほとんどの項目で学科平均を下回るものではあったが、それでも予想以上に良い数値であった。遠隔授業を受けている留学生はもちろん、対面授業をうけている学生の中にも留学生がおり、その留学生の様子を見ながら話すスピードをゆっくりしたり、身振り手振りを多くしたり、YouTube動画を活用したりして授業を進めた。その点は、ある程度評価されたのではないかと考えている。また、自由記述の中に、わかりやす説明だったと肯定的なコメントがあったが、留学生がわかりやすいと感じるためには、ある程度の日本語能力が必要である。日本語能力の低い留学生に対して、どのように講義をすべきなのか再考すべきだと感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

これまで同様、学生に伝わりやすい言葉の選択、聞き取りやすい話すスピードなどに気をつけて、留学生にも配慮した授業にする。また、動画の活用も効果的であるため、留学生にとっても日本人の学生にとっても理解しやすいものを慎重に選んで授業に活用したい。さらに、遠隔授業であっても、可能な限り教員と海外の留学生との双方向のやり取りを取り入れた授業とし、対面で受講している学生との交流ももっと積極的に行いたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅡB	43名





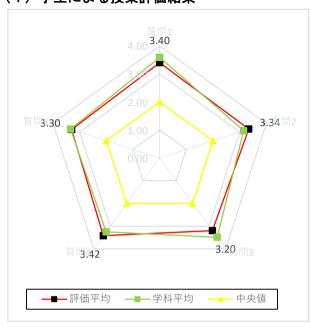
(2) 結果の分析と評価

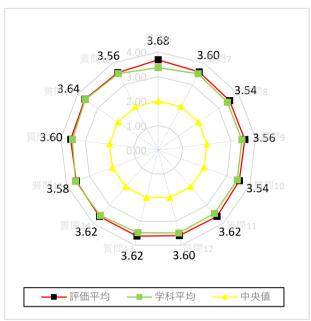
本科目は、介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解するものである。、特に、生活の多様性や社会とのかかわりを理解し、さらに、介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援方法を理解することをねらいとしているが、受講生の半数以上は留学生であり、日本の介護保険制度における支援の在り方を伝えることは非常に困難であった。質問3「授業中、私語や居眠りをせず真剣に取り組んだか」の数値は、学科平均よりやや低いが、私語が多かった印象はない。ただし、授業の中でわからない言葉が出てきたときに周囲の者同士で話したり、教員からの問いかけに学生が一斉に答えるなどの場面もあり、そこから雑談につながることも少なくなかった。また、遠隔で受講する場合、データ容量や通信環境の関係を考慮し顔出しは強制していなかったが、画面の向こうでは居眠りする学生がいたことも十分考えられる。だが、今回の評価からは、学生がおおむね肯定的に本授業の評価しているととらえることだできるだろう。

(3) 次年度に向けての取り組み

遠隔授業の場合、データ容量や学生の通信環境を考慮し、顔出しの強制はしていないが、そのことが、授業への参加意欲の低下につながる可能性もあると考えられる。顔出しについての学生の意思は尊重しつつ、授業の参加度を向上させるため、授業中何度かは顔を出すよう促していこうと考えている。また、さらにそこから対面授業を受けている学生との意見交換やグループワークにつなげていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅢA	68名





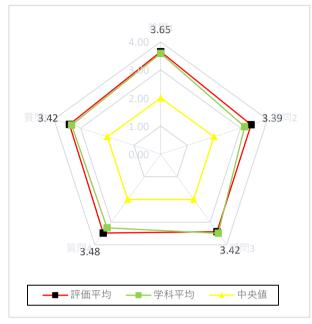
(2) 結果の分析と評価

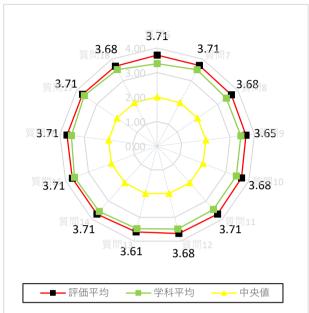
この科目を履修したのは、前期25名、後期43名。前期受講した学生には対面授業を行い、後期受講した学生には、対面授業と海外への遠隔授業を同時進行で行った。評価結果は、学科平均とほぼ同様の結果であった。この科目の内容は、介護現場におけるリスクマネジメントを中心としたものであったが、感染症対策も含めていたため、ある程度学生も関心をもって授業に臨んだのではないかと考えている。また、前期受講した学生は介護実習を控えていたこともあり、介護現場での実践をイメージしやすい内容であったことも今回の評価結果に影響したのではないだろうか。ただ、後期受講した学生には、wifi環境や機器の不具合などで非常に迷惑をかけた。自由記述の中に、「声のトーンも映像もよかったが、復習した時にもわかるように、説明をもっと簡単にしてほしい」というコメントがあり、遠隔授業の際の留学生への説明とその理解度の確認が不十分だったことが理解できた。

(3) 次年度に向けての取り組み

介護福祉士の専門性や国家試験の内容に直接的に関係する授業は、シラバスの到達目標と学生の理解度を確認しながら授業を進めていくようにしたい。具体的には、①授業で新しい項目に入る際、学生に授業(その項目)の到達目標を伝え、授業内容と目標の関連を学生に意識させる、②タイミングを見て、授業の到達目標に対する到達度を学生自身に確認させる、③国家試験の過去問等を活用し、学んだことが習得できているか確認する(学生教員ともに)、などを実施予定である。また、海外の留学生への遠隔授業では、わかりやすい説明、言葉の選択に気をつけたうえで、理解度の確認方法について検討したいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論Ⅱ	31名





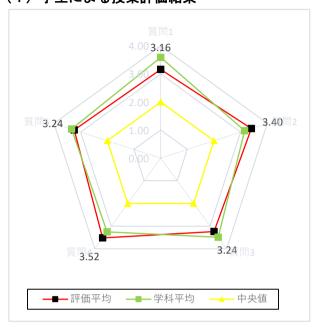
(2) 結果の分析と評価

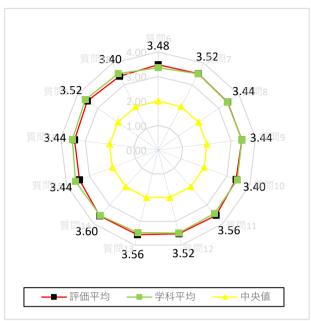
栄養指導論IIの科目は栄養士資格必修科目である。栄養指導論Iの授業内容を踏まえてライフステージ別に日常生活に即した内容である。コロナ禍でオンライン授業14回と対面授業1回で実施し、わからないことは対面授業日に補習といった形で個別対応で補った。評価の結果は学生の総合自己評価3.42と授業に対する教員側の総合評価は3.68であった。教員側で高い値はQ6シラバスの説明、Q7到達目標の説明、Q11教科書・資料の活用とQ14学生の質問、Q15公平さ、Q16双方的なやり取り、Q17教員の熱心さで3.71であった。学生コメントは「小さな質問も丁寧に対応していただき、安心して勉強することができました。」の肯定的意見と一方では「説明が回りくどく、結果何を言っているのかわからないことがある。」の意見があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度はコメントにあったように「説明が回りくどく、結果何を言っているのかわからないことがある。」 を改善し簡潔・明瞭に説明できるように工夫をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		コミュニケーション技術 A	43名





(2) 結果の分析と評価

科目履修者43名中25名からの回答が得られた。

問19~25の質問がない項目においても25名中9名が回答していた。

学生の授業参加態度については、「出席状況」「私語・居眠り」「総合自己評価」の質問において、学科平 均を下回っていた。

授業内容・方法、対応すべての項目においては、学科平均を下回っている項目が多かった。

教員の対応について、特に評価が高かった項目は、「誠実な対応」であった。

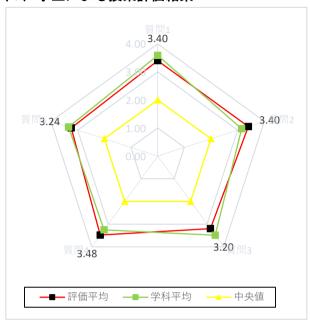
自由記述には、「将来の仕事に役立つ内容だった」「最終テストで理解度を確認できた」「後期の中で一 番身についた授業だった」「声のトーンも映像もわかりやすかった」などの回答があった。

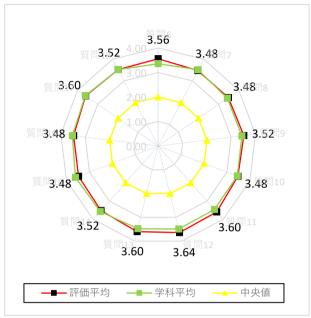
(3) 次年度に向けての取り組み

この授業は、遠隔授業の日に予定された授業であったため、唯一全員オンデマンドの授業となった。 授業の参加度の評価が低く示された理由としては、日本人の学生がTeamsに添付されたレコーディング資料を対面授業のように真面目に受けることができなかったのではないかと推測される。

教員の対応についても評価しにくい部分もあったと思うが、「誠実さ」を評価していただいた。 自由記述の中にあった「将来の仕事に役立つ内容だった」「最終テストで理解度を確認できた」「後期の 中で一番身についた授業だった」のコメントから、授業の到達目標に沿った授業が行えたと考える。引き続 きよい評価を頂けるよう努力したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		コミュニケーション技術 B	43名





(2) 結果の分析と評価

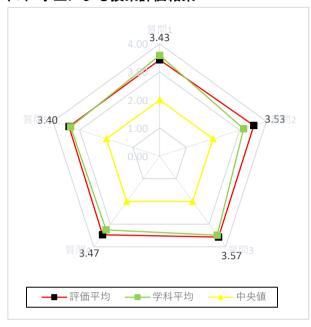
全体的に平均同等または少し下回る傾向となった。要因としては、この科目は、専任教員と外部講師の2名で、前半と後半にわけ行う形態の授業であった。授業前に十分な話し合いが出来ずに、全体としてやや統一性がかけていたことも影響していると考える。

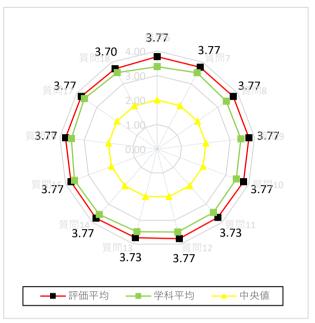
平均を上回った項目については、資料が役に立ったか?話す速さなどは適切か?などの項目であった。授業前に、教員間で留学生が多いクラスであることなどの情報共有を行い、資料作成や授業の進め方などをお互いに工夫した。そのため、平均より上回る結果となったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向け、授業前に教員間で話し合いを行い、統一性のある授業展開を行っていく。また、次年度以降も受講学生に合わせた資料作成や授業の進め方の工夫を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論実習Ⅱ	31名





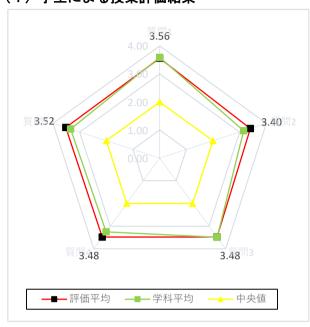
(2) 結果の分析と評価

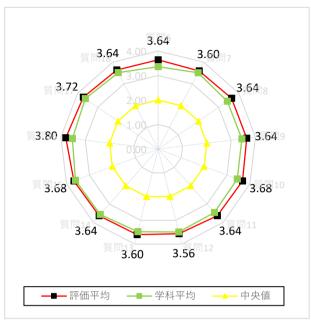
総合評価は3.77であった。今回の結果はほとんどの項目が学科平均より高かった。令和2年度から学生が苦手とする統計処理などの項目についてはPCを活用した演習形式に変更し、特に10~14回目の授業についてはより栄養と関わりのあるデータを活用した内容で実施した。そのため、学生は興味をもって授業に取り組めたようで、「PCは難しかったが社会に出て必要なことを勉強できてよかった」との評価であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

全体の評価としては概ね良いと考えられる。毎年改善を重ね配布資料等もより分かりやすくする工夫をしている。栄養教育・調査に必要な統計処理の項目については、令和2年度からPCを活用した内容へと変更し学習内容が実際の現場でどのように活かされるのかがイメージできるような授業展開とした。また、扱うデータも栄養の分野に関わりあるものとしたため学生は興味を持って取り組めていたようである。次年度もこの形式を継続していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術A	45名





(2) 結果の分析と評価

科目履修者45名中25名から回答が得られた。問19~25の質問がない項目においても25名中4名が回答していた。

学生の授業参加態度および授業内容・方法、対応すべての項目において学科平均を上回っていた。 授業の出席率は高かったため、「授業参加度」と「総合自己評価」の評価は高い。

教員の対応について、特に評価が高かった項目は、「双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていたか」「熱心に授業に取り組んでいたか」であった。

自由記述には、「シラバスの説明がわかりやすかった」「わかりやすく、ていねい。」「おもしろかった。 オンラインでも受けたい。」「技術と知識を勉強できた」などの回答があった。

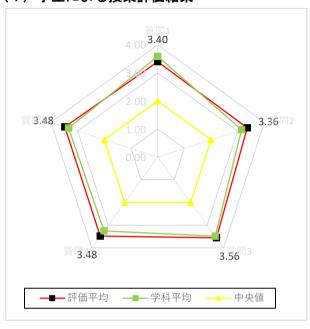
(3) 次年度に向けての取り組み

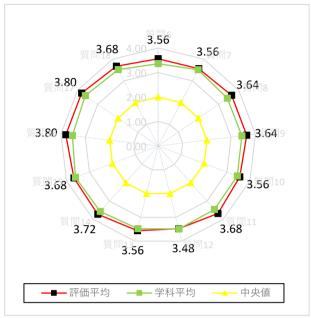
この授業は、前期の授業で唯一の全員オンデマンドの授業であった。対面授業で実技を行う「生活支援技術B」の授業の進行に合わせて行っている。

実技に入る前の様々な知識・介護の手順・留意点などを意識して授業を行った。また、テキストを持っていない海外の学生にもわかりやすい資料作成を心掛けた。

教員の対応について、評価が高かった「双方向的なやり取り」「熱心さ」、また自由記述にコメントがあった「シラバスの説明がわかりやすさ」「ていねいさ」「おもしろさ」については、引きつづき高評価をいただけるよう努めたいと考える。海外の学生からのオンライン授業に関しては、時間割を検討し、ハイブリット型の授業を検討したいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術B	45名





(2) 結果の分析と評価

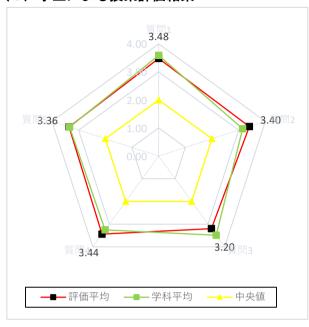
全体的に平均を上回る項目が多かった。要因としては、学生の実技の理解度、進捗状況にあわせ、説明や 実技指導を行った。また、海外の受講生に関しては、動画の作成等、動画を活用し、理解度向上に向けた取 り組みを行った。

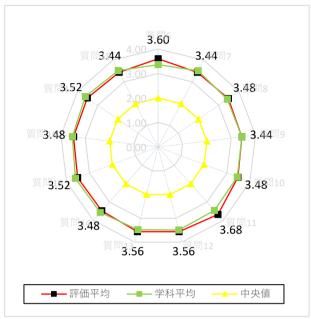
平均を下回った項目については、話す大きさや速さなどの項目であった。学生の理解度に合わせ、伝え方を 工夫していく必要性があると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けて、学生の理解度に合わせ、声の大きさ、スピード等を工夫していく。また、コロナで入国が送れている留学生については、入国後に実技の補講を行い、理解度向上に努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術C	43名





(2) 結果の分析と評価

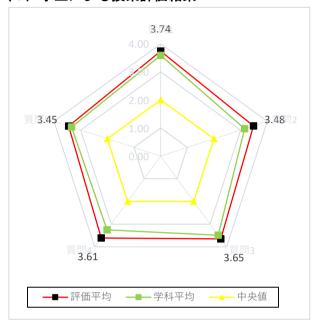
全体的に平均同等または平均をやや下回る結果となった。特に、低かった項目としては、学生の質問に誠実に対応したか、教員は双方向的なやり取りで授業を行ったかの項目であった。この科目は実技がメインの授業である。

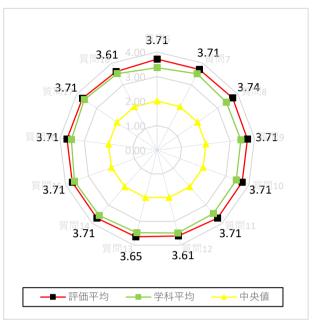
授業のはじめにその日に行う実技の動画や教員の行う実技をみて学生が実際に授業を行う流れである。1人1人実技のレベルや進み具合が違うため、学生の実技中、それぞれのベッドを回り、実技指導を行うが、実技が上手くいっていないグループに時間をとられ、学生1人1人に十分に指導を行う時間が取れなかったことが平均を下回った要因ではないかと考える。次年度以降は、学生1人1人十分に指導できるように工夫していく必要があると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降は、学生1人1人に十分に指導ができるように、授業の中で実技指導の時間をより多くとるように工夫していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習(中国料理)	31名





(2) 結果の分析と評価

この授業は2年後期に開講される。栄養士として即戦力を高めるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。既に1年次に日本料理と西洋料理を修得している。初回の授業では中国料理の特徴と特殊素材、特殊器具の説明を行った。技術を習得させるために、材料の特殊な切り方や調理操作が理解で出来るように出来る限りデモストレーションをおこないながら授業を進めていった。結果は学生自身のQ3「授業の取り組み」3.74と高く、総合自己評価は3.45であった。授業内容・方法においては全ての項目で3.65~3.71で、授業の総合評価は3.66であったことから、概ね満足している授業であったことが伺えた。学生のコメントは「遠隔になり実習が進まない不安もありましたが、先生の調理説明では大切なことをお話しいただきポイントを押さえながら調理することができました。」、一方「献立の説明がながい。」「師範が少し長く感じた。」等で改善を要するコメントもあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

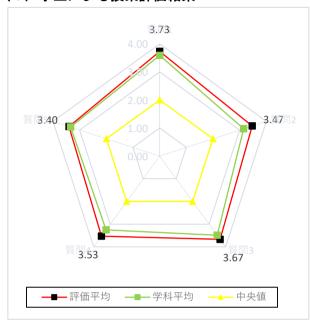
今回の授業評価では概ね良好であったことから、これまでと同様に下記の内容を中心に実習を展開していく。

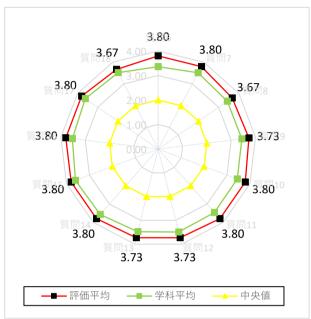
①授業の理解のための自己工夫としてこれまでと同様に実習カードを事前に配布し予習させ、実習後は家庭で必ず再実習を行なうなど、実習前後は、家庭学習が出来るよう指導する。 ②学生の学習意欲、技術能力、生活環境により個人差が大きいため、技術能力を習得させるだけでなく、グ

②字生の字省意欲、技術能力、生活環境により個人差が大きいため、技術能力を省得させるだけでなく、ク ループ実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせる。また、人間形成の場と して互 いに学びあいながら、実践実習が出来るよう、指導していく。

③包丁扱いなど調理技術の向上努めると同時に大量調理へスムーズに展開できるように訓練していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食育演習	15名





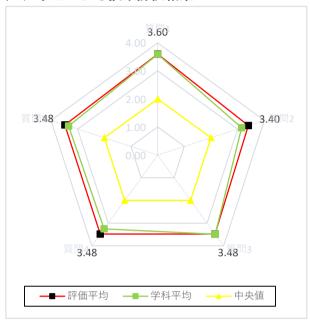
(2) 結果の分析と評価

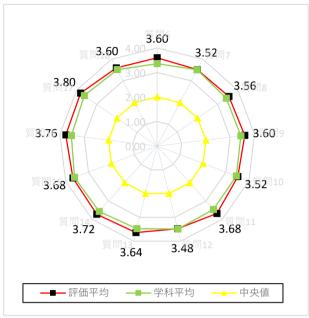
学生自身及び授業・教員に対するすべての質問で学科平均よりも高い評価が得られた。また、自由記述では「食育に関して実践的な内容を考えていただきありがとうございました」というコメントもあった。本科目は実際に行われている食育(味噌づくり、梅のシロップ漬け等)を体験する時間と授業の中で紹介した食育や学生が調べた食育を参考にして自分ならではの食育計画を立てる時間、さらにSDGs(異文化理解)を意識した活動の時間を設けていたため、学生自らが考えて行動しやすい授業として捉えられたのではないかと考える。また、通常の実習よりも少人数(2~4名)のグループで行っていたことが動きやすさに繋がったのかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は担当者が変更となるが、新型コロナウイルス感染に留意して三光幼稚園とのコラボイベント「親子 クッキング」の再開を目指したい。また学生が在学時及び卒業後に行う食育活動につなげることができるよ う、保育所や小学校・中学校、市町村など場所や対象者の違いによる食育を幅広く授業に取り入れたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程I	45名





(2) 結果の分析と評価

科目履修者45名中25名から回答が得られた。問19~25の質問がない項目においても25名中4名が回答していた。

学生の授業参加態度においては、すべての項目において学科平均を上回っていた。

授業内容・方法、および対応は、2項目において、わずかに学科平均を下回っていた。評価が低かった項目は、「到達目標」「声の大きさ・明瞭さ・話す速さ」であった。学科平均を上回っていた項目で評価が高かった項目は、「熱心に授業に取り組んでいたか」「双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていたか」であった。

自由記述には、「シラバスの説明がわかりやすかった」「どんな介護が必要なのかを考えて、実践することが大切だと気づいた」「おもしろかった」などの回答があった。

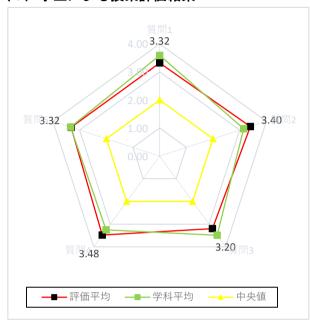
(3) 次年度に向けての取り組み

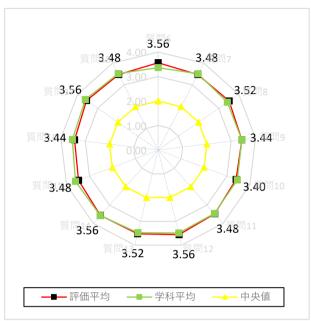
介護の思考過程を対面授業とオンライン授業で進めることは、難しかった。

授業の方法において、「声の大きさ・明瞭さ・話す速さ」の評価が低かったのは、海外の学生の中にスピードが速いと感じた学生がいたのかもしれない。双方向のやり取りにおいては評価が高かったが、理解度の確認まで確実に行えるようにしていきたい。また、他の科目同様に授業開始時に学習目標も示しているが、評価が低かったため、もっと明確にしていきたいと考える。

自由記述のコメントから、介護は、技術だけでなく知識も重要であり、根拠のある介護の継続的な実践が必要であることを伝えられ、また介護の面白さつながっていることは、大変喜ばしいと感じる。

ĺ	学部	学科	担当者	科目名	履修者数
	短期大学部	地域生活支援		介護過程Ⅱ	43名





(2) 結果の分析と評価

科目履修者43名中25名から回答が得られた問19~25の質問がない項目においても25名中9名が回答してい

学生の授業参加態度については、「出席」「居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」の項目 が、学科平均を下回っていた。

授業内容・方法、および対応については、9項目において学科平均を下回っていた。評価が一番低かった 項目は、「視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。」であった。特に評価が高かった項目は、「シラバ ス(授業計画)について説明」「声の大きさ・明瞭さ・話す速さ」「質問等に誠実に対応」「熱心に授業に 取り組んでいましたか。」であった。

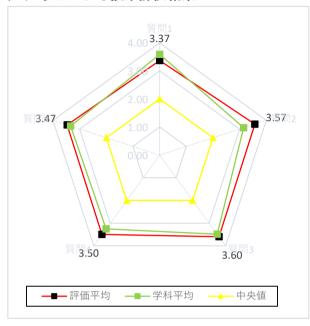
自由記述には、「将来の仕事に役に立つ」「具体的な例を出してくれるので、わかりやすい」「とてもお もしろい」「スライドもくわしくて、役に立つ」などの回答があった。

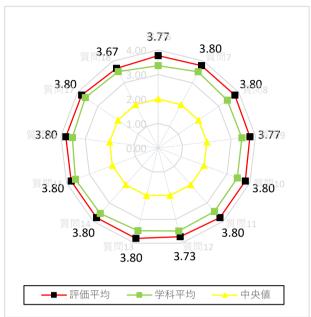
(3) 次年度に向けての取り組み

他の授業と比べ、特に欠席が多いこともなく、私語や居眠りも多くなかった。3限目の授業であったこと

が参加度の評価に影響しているとも考えられる。 授業内容・方法、および対応について、評価が一番低かった項目は「視聴覚機器や板書の用い方」であっ たが、対面授業とオンライン授業であったため、スライドを用いた授業を行ったため、板書はほとんどしていない。内容によっては、板書で説明を加えることを検討する。評価が高かった項目は、「シラバス(授業 計画)について説明」「声の大きさ・明瞭さ・話す速さ」「質問等に誠実に対応」「熱心に授業」であっ た。また自由記述のコメントには、「将来の仕事に役に立つ」「具体的な例を出してくれるので、わかりや すい」「とてもおもしろい」「スライドもくわしくて、役に立つ」などあった。これらについては、引き続 き高評価となるよう努めていきたい。

	学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短	期大学部	地域生活支援		給食管理実習Ⅱ	31名





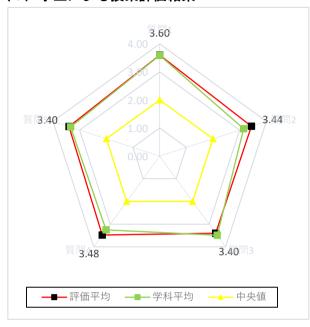
(2) 結果の分析と評価

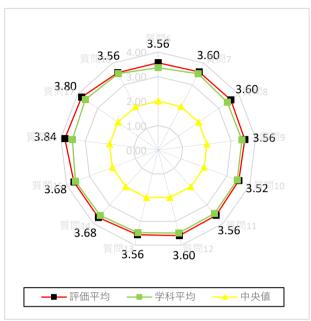
給食管理実習Ⅱは学外実習で行う実習で特定給食施設における給食管理の実際を体得すると共に特定給食における栄養管理のあり方を習得する科目である。学生自身の総合評価は3.47で、教員側の総合評価は3.67であった。教員側の項目はほとんどが3.73~3.80と高い値でこの授業の総合評価は3.70であった。学生のコメントは「学外実習はとても充実した内容になりました。」「他の生徒のパワーポイントの内容も参考になりました。」といった意見があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の授業評価では概ね良好であった。引く続き、学外の実習施設に出向き実践的な実習内容でこれまでに習得した専門的知識と技術をもって、実習先での課題発見や問題解決へ発展させる力を身につけさせる。また、栄養士業務のスキルアップにつなげる。また、実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせるなど人間形成の場としていきたい。実習後は学生同士の学びとしてパワーポイントを活用して発表することで情報共有も行っていく。

ĺ	学部	学科	担当者	科目名	履修者数
	短期大学部	地域生活支援		介護総合演習 I	45名





(2) 結果の分析と評価

この科目は、介護実習の準備を含んだ教科であるため、入国できていない海外の学生にとっては、理解しにくい部分もあったと考える。

科目履修者45名中25名から回答が得られた。問19~25の質問がない項目においても25名中4名が回答していた。

学生の授業参加態度すべての項目においては、すべて学科平均を上回っていた。授業の出席率は高かった ため、授業参加度の評価は高い。

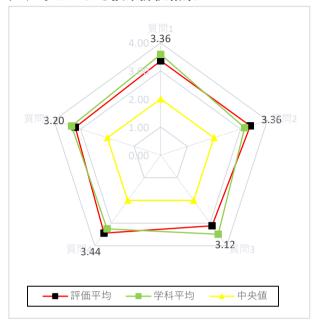
授業内容・方法、対応においては、1項目「教科書・配布資料等は役に立ちましたか。」のみ学科平均を下回っていた。特に高かった項目は「双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていたか」であった。 自由記述には、「おもしろかった。オンラインを受けたい」「わかりやすく説明してくれる」「たくさんの施設の種類があることを学べた」などの回答があった。

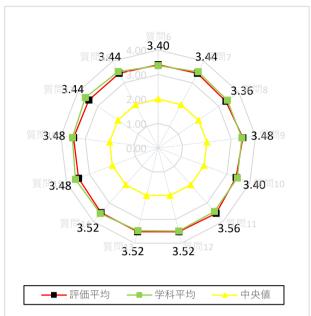
(3) 次年度に向けての取り組み

今年度は、午後の授業であったため、対面授業、オンライン、欠席者にはオンデマンドの授業を行った。 海外の学生は、テキストがない状況であったため、わかりやすい授業資料の作成と進行に心がけ授業を行った。 た。

授業内容・方法、対応において、唯一学科平均を下回っていた「教科書・配布資料等は役に立ちましたか。」については、実習の指導要綱をメインに授業を進めたため、他の教科と比べて、教科書の使用頻度が少なく感じたのかもしれない。特に高かった項目「双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていたか」、また自由記述のコメントに「おもしい」「わかりやすい」などについては、継続して高評価がいただけるよう努めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習Ⅱ	43名





(2) 結果の分析と評価

科目履修者43名中25名から回答が得られた。問19~25の質問がない項目においても25名中9名が回答していた。

学生の授業参加態度は「出席」「居眠り・私語」の項目が学科平均を下回っていた。 授業内容・方法、対応においては、ほとんどの項目が学科平均を下回っていた。

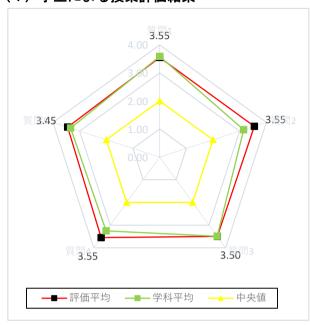
(3) 次年度に向けての取り組み

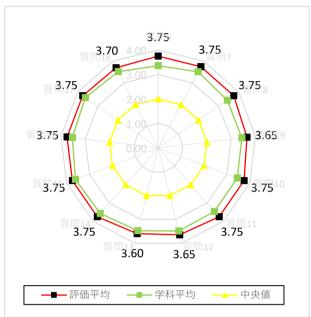
この科目は、介護実習の反省を含んだ教科であるため、入国できていない海外の学生にとっては、理解しにくい部分もあったと考える。

学生の授業参加態度は「出席」「居眠り・私語」の項目が学科平均を下回っていた。この結果は、実習の 反省を行う際、日本人と留学生の能力の差が顕著に表れ、早く終わった学生が時間をもてあそぶ形にになっ たためと考える。次年度からは、学生の能力に応じた授業展開に努める。

授業内容・方法、対応においては、ほとんどの項目が学科平均を下回っていた。実習事業所や施設ごとに 反省と発表に時間を使いすぎず、次の実習に向けて意欲を引き出せる受業を検討する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		スイーツクリエイト基礎 実習	20名





(2) 結果の分析と評価

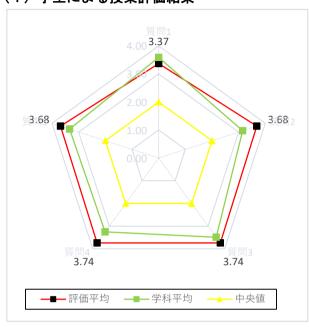
学生自身に対する質問及び授業・教員に対する質問では、すべての回答が学科平均よりも高い評価を得られた。しかし、質問13「授業の進む速さは適切でしたか」についての評価は学科平均よりも僅かに高いくらいだったことと自由記述に「授業時間をオーバーすることが多かったので時間内に終わらせてほしいです」とのコメントがあったため時間配分の再考を要すると思われた。基本の菓子には焼成時間が30分以上のものや焼き上げ後に処理が必要なものがあるため、学生が次の授業を受けている間に冷却時間をとって放課後に配布することが2度あった。製菓の性質上、この方法をとらざるを得ないことを十分に説明しなければならないと共に作業が遅れているグループへの介入を増やすかレシピ変更の検討を行うべきかもしれない。

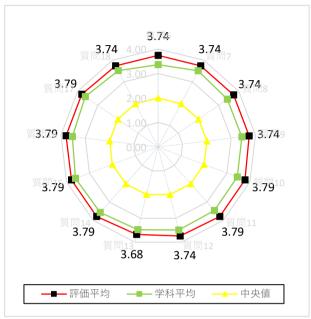
(3) 次年度に向けての取り組み

1年後期で学んだスイーツクリエイト基礎理論の資料を用いて本科目で行う実習のつながりを紹介し、実際に起こる食品の変化などの事象の説明ができるようにする。授業の開始時と終了時に何を学んだのか、何のために作業をしたのかの振り返りを行う。

事前に下準備から出来上がりまでに要する時間を説明し、作り上げた菓子の配布が授業時間外になることの 了承を得る。時間がかかるレシピで前もって準備ができるものについては教員側が行う。飾りつけなど学生 が時間をかけがちな作業の時間を制限し次に進められるようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		スイーツクリエイト応用 実習	19名





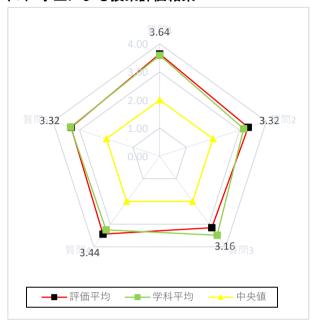
(2) 結果の分析と評価

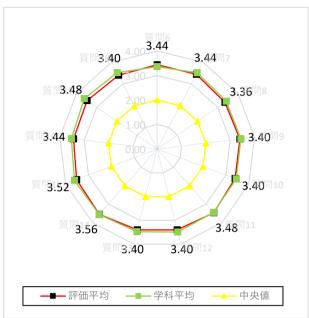
学生自身に対する質問では、授業の欠席に関する評価だけ学科平均よりも低かったものの、それ以外の項目では学科平均よりも高い評価であった。教員及び授業・教員に対する質問では、履修者のほとんどが4または3と評価していたものの質問13「授業の進む速さは適切でしたか」を2と評価した学生が1名いた。本科目は栄養士の専門科目ではないものの保育所や福祉施設など栄養士の活躍する現場で実際に活用されているスイーツを紹介し実習していたため、お菓子作りを楽しむだけでなく学習したことを将来の仕事にどう生かすのかを意識してもらえたかもしれない。授業の進む速度については、グループにより作業の進み具合に差がでていたため作業内容を検討したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

時間配分を再検討し、レシピもできるだけ複雑な作業よりも簡易な方法を取り入れて時短に努める。留学生も履修する可能性があるので、そうなった場合は配布資料に振り仮名をふり、食材も実際に見せながら説明を行う。また、海外の行事食や保育現場で提供されるスイーツを実習に取り入れる。本年度実施予定だったワークシート(何を目的に作った菓子なのか、材料、作る手順、味、出来栄えなどを学生自身が評価・反省)をTeamsで導入し、フィードバックを行う。配布資料を眺めるだけの学生がいたので、空白部分を増やし教員の説明を理解しながら学生自身が記入できるようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間の尊厳と自立	43名





(2) 結果の分析と評価

コース方針により遠隔授業にて講義を行った。

授業評価は、学科平均とほぼ変わらなかった。倫理を扱う科目であり、日本の学生と留学生にどう授業内容 をかみ砕いて伝えていくかに苦慮した。

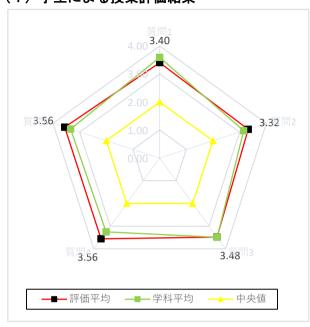
自由記述においては、勉強になったとのコメントもあったため、遠隔授業なりの工夫ができたと思われた。

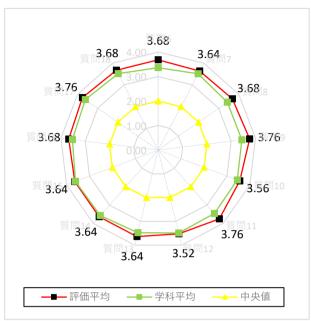
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においては、対面か遠隔授業であるかはまだ未定である。

日本の学生と留学生の双方において、理解しやすい授業となるようしていきたい。また、具体的なケーススタディをとおして倫理を学べるように授業展開を工夫するようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間関係とコミュニケー ション I	45名





(2) 結果の分析と評価

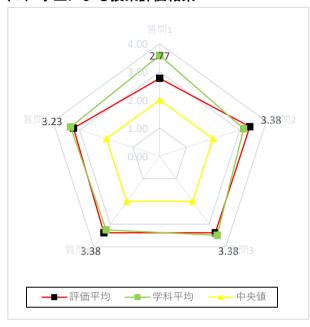
全体的に、平均を上回る結果となった。特に、授業がわかりやすかったか?や資料が活用できたか?の項目が高かった。授業後も授業内容を振り返れるように資料には細かいポイントを記載した。また、毎回の授業のレコーディングを行い、何度でも見返し理解しやすいように工夫した。

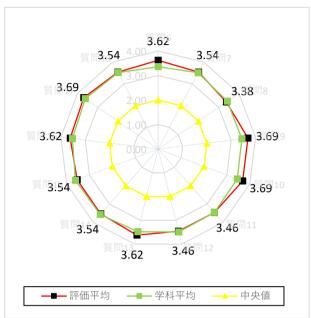
話す大きさ・明瞭さ・速さについては、やや平均を下回る結果となった。留学生受講生も多い科目であるため、もっとゆっくり話していく必要があったのではないかと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けて、わかりやすい資料の工夫を継続しつつ、話す大きさや速さなど、学生のレベルに合わせ 工夫していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅢB	25名





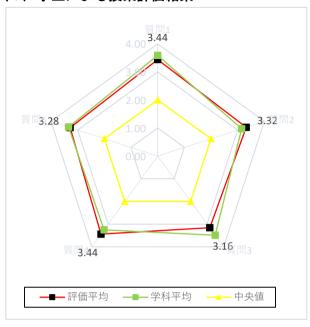
(2) 結果の分析と評価

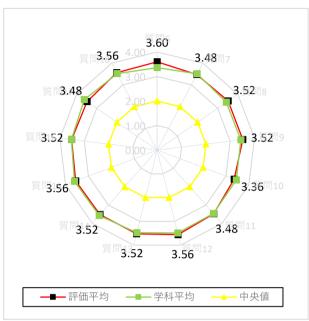
授業は興味関心が持てる工夫がなされていたか?配布資料は役に立ったか?等の項目で平均値より下回る結果となった。この授業は座学で、ポイントを伝えるために資料の量や文字数も多くなった。そのこともあり、平均を下回る結果となったと考える。 学生が興味関心を持てるように、グループワークや視聴覚教材を多く活用していく必要があると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降は、学生が興味をもち、能動的に授業に参加できるように、グループワークや視聴覚教材の導入を検討していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間関係とコミュニケー ションⅡ	43名





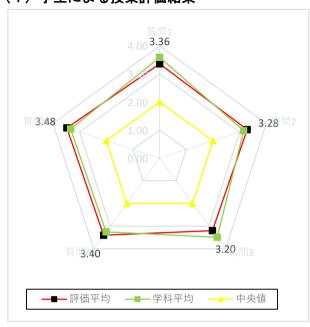
(2) 結果の分析と評価

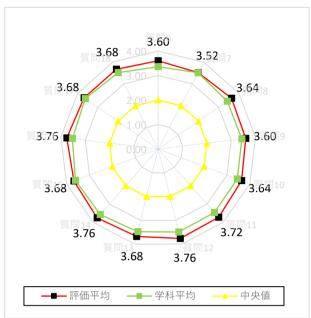
全体的に平均と同等または、平均を下回る結果となった。特に、視聴覚機器や板書の用い方は適切か?や 教員は熱心に授業に取り組んでいたか?の項目で平均を下回る結果となった。要因としては、スライトドで の説明が多く、細かく説明しようと文字量も多くなった。視聴覚教材についても動画等はあまり活用しな かったため、このような結果になったのではないかと考える。 もっと理解しやすいように、文字だけでなくイラストや動画等を書く用紙、理解度向上につとめていく。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向け、わかりやすい資料作成、動画等の活用を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術D	25名





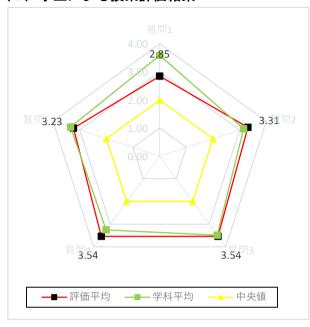
(2) 結果の分析と評価

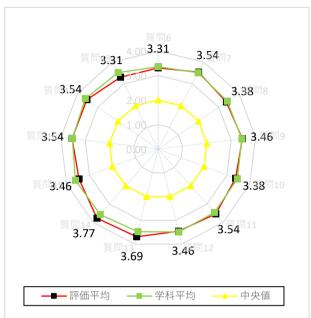
学生自身に対する質問では、学生自身の総合評価以外は学科平均よりも低い評価であった。授業及び教員に対する質問では質問7「授業の到達目標を明確にして、授業を展開していたか」が学科平均よりも低い評価であった。本科目は履修者25名中21名が留学生である。介護の校外実習の日程に併せて数回土曜日に開講したが、留学生の出席率は平日授業よりも低かった。授業中に留学生同士が話しているのを私語なのか授業内容の確認をしているのか判断しづらかった。通常の授業方法(口頭、資料での説明)だけでは、なかなか伝えきれなかったので母国語が日本語ではない学生を意識した授業方法の検討が必要と実感した。またZoomによる遠隔授業を実施したが、通信環境が不安定な学生はなおさら受講しにくかったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

本年度も実施していたものもあるが、次年度の履修者予定者の8割以上が留学生であるため、可能な範囲で 資料には振り仮名をふる、発声はゆっくりとはっきり発音する、板書する際は文字を省略しない、食材や器 具を一つひとつ実物を見せながら紹介する等、日本語に不慣れな留学生でも授業を理解しやすいようにす る。調理実習のグループは日本人学生と留学生に偏りなくコミュニケーションがとりやすいよう編成する。 宗教等の理由により食べられない、または調理できない食材がある場合はレシピを変更する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術F	25名





(2) 結果の分析と評価

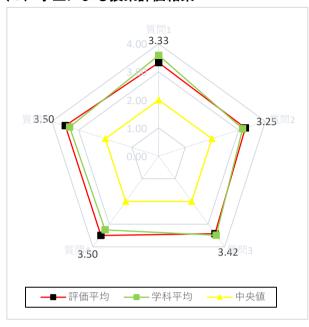
科目履修者25名中13名から回答が得られた。問19~25の質問がない項目においても25名中6名が回答していた。

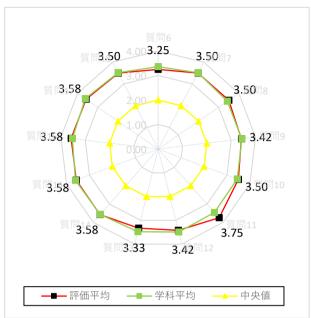
学生の授業参加態度すべての項目においては、授業の欠席において学科平均を大きく下回っている。 授業内容・方法、対応は、ほとんどの項目において学科平均を下回っていた。学科平均を上回った項目 は、「授業の進む速さは適切か。」「質問等に誠実に対応したか」であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

2年後期の1限目の授業であったため、国家試験の勉強疲れも相成って、遅刻や欠席が目立つ教科だった。 評価に関しては、13名中6名が質問のないところで回答しており、真面目に回答した学生は7名程度だと推 測できる。その中でも遅刻や欠席が目立っていたため、シラバスや到達目標の開示がなかったと考える学生 は多数いるものと考える。評価の高かった項目については、引き続き高評価がいただけるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術G	25名





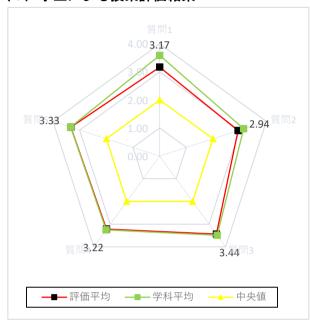
(2) 結果の分析と評価

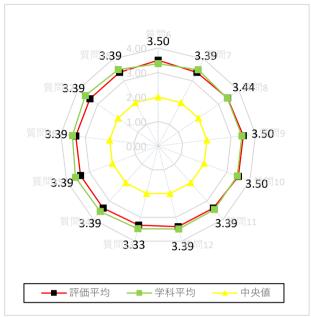
授業評価は25名中12名しか行っていなかった。自己評価は学科の平均とほぼ同じであった、授業に対する評価も学科の平均とほぼ同じであったが、シラバスの説明と授業のスピードについては少々低かった。教科書は日赤の専門の教科書であったためか配布の適切さは少々高かった。自由記述は特になかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価の実施の促しを行う。シラバスの説明を配布する。授業のスピードはこれ以上遅くはできないので 演習と講義の時間のバランスを工夫する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本文化事情(演習含 む)	24名





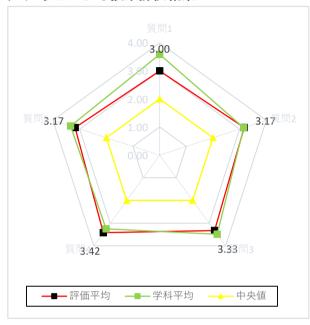
(2) 結果の分析と評価

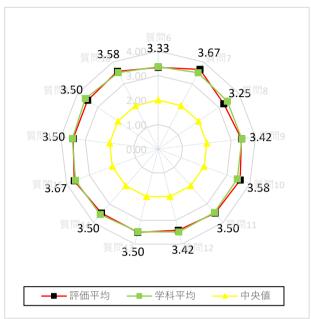
- ・学生による授業に向かう姿勢の自己評価については、欠席回数やシラバスの活用に関する数値が学科平均よりも低い。この原因として考えられるのは①「日本において対面授業を受ける学生」と②「海外からオンラインやオンデマンドで授業を受ける学生」の2グループに分けて授業を展開したことがあげられる。海外で受講している学生は、対面で受ける学生が行う実習には参加できず、異なった課題やオンデマンドの資料で学ぶため、シラバスと一部異なった学びになってしまった。
- ・教員による授業内容や授業スタイル等に対する評価に関しても、上にあげたことが原因で、どうしても海外から受けている学生については、対面の授業を受けている学生のようにきめ細かな指導・支援ができなかったことが悔やまれる。
- ・海外から受講する学生の中には、Wi-Fi環境が劣悪であったり、国の情勢の影響で授業の途中Wi-Fiを切らざるを得ない学生もいた。コロナ禍の状況が続く中、臨機応変な対応が必要であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・次年度も①「日本において対面授業を受ける学生」と②「海外からオンラインやオンデマンドで授業を受ける学生」の2グループに分けて授業を展開せざるを得ないと思われる。理由は海外で受講している留学生は、国内で対面授業を受ける学生が取り組む実習的な内容のプログラムには参加できないからである。
- ・国内で対面で学ぶ学生(日本人学生・留学生の一部)も全てオンライン授業にしてしまうことは不可能ではないが、やはり異文化理解やコミュニケーション能力を育むことも本授業の目的の一つであることを考えれば、国内で受講する学生たちには可能な限り対面の授業を実施したいと考えている。
- ・令和4年度も、令和3年度同様に、海外から受講する学生の中には、Wi-Fi環境が劣悪であったり、国の情勢の影響で授業の途中Wi-Fiを切らざるを得ない学生もいることが予想される。そのような場合には、課題の提出をもって出席扱いにするなど、個々の学生の置かれている状況(環境)に配慮した柔軟な学習方法や評価方法を工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程Ⅲ	25名





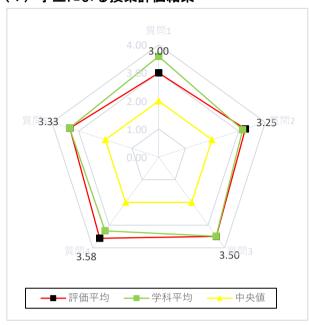
(2) 結果の分析と評価

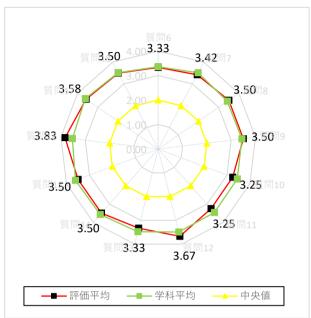
本科目は通年開講科目で、前期は一人の専任教員が授業を行い、後期は五人の非常勤講師がオムニバス形式で授業を行っている。そのため、それぞれの教員の授業についての分析は難しい。しかし、今回の評価結果からは、学生はおおむね肯定的な評価をしたものと受け取ることができる。介護過程自体が介護現場で必ず必要とされる知識であることから、学生が関心を持ちやすい授業だったのではないだろうか。ただ、複数の教員が授業を行うため、それぞれの担当者(専任教員、非常勤講師)の授業評価の詳細はわからない。また、質問1の平均値は、学科平均値よりかなり低い値となっている。欠席した学生は、それほど多くないという印象だったが、授業評価を提出した学生の中で、欠席回数の多かった者の割合がやや高かったと推測される。そもそも本科目の履修者は25名だが、授業評価を行ったのは半数以下の12名だった。学生への授業評価の依頼は度々行ったもののこのような結果になったことは、評価の時期や方法について、まずは早急に検討すべきだと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

まずは、履修した学生全員が授業評価を実施することを徹底したい。学生への評価依頼の声かけでなく、評価の時間を設けることを考えたい。本科目は通年開講科目で、しかも多数の教員が授業を担当することから、学生からは、「いつのことを評価したらよいのか?」という質問を受けたことがある。また、教員によって授業の進め方や使用機器、教材等も異なるため、学生も評価の難しさを感じることも考えられる。今後は、複数の教員で担当するオムニバス形式の授業の評価方法の検討を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程Ⅳ	25名





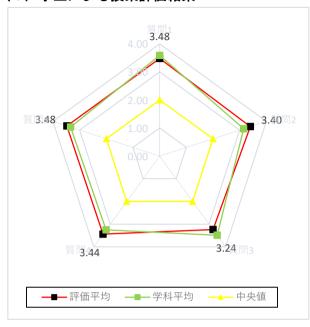
(2) 結果の分析と評価

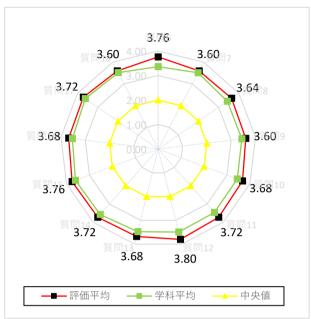
本科目の履修者は25名だが、授業評価を行った学生は12名。評価実施者が履修登録者の半数以下であることからすべての学生の評価とは言えないが、いくつかの課題が明確になった。まず、質問1の欠席回数であるが、これは、授業評価を行った学生のうち少数の学生の意見であると推測する。質問2から質問4の評価からは、学生自身がある程度主体的に授業を受けていたことがうかがえる。しかし、質問6「シラバスの説明の有無」、質問10「視聴覚機器や板書の使い方が適切か」、質問11「教科書・配布資料等は役に立ったか」の質問の評価が学科平均より特に低い。シラバスの説明は必ず行っているが、確かに本科目では1回目の授業でしかシラバスを活用していなかった。また、視聴覚機器・配布資料も必要に応じて使用したが、留学生が大多数を占めたクラスでは、留学生に分かりやすくするという視点がもっと必要だったと反省している。さらに、質問13や質問16の評価からも、留学生の理解度を丁寧に確認しながら授業を進めるなどの配慮が不足していたことを実感した。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回、授業評価を行った学生は半数以下であった。今後は、最後の授業時に、学生が自身の学習態度の振り返りを行う意味でも授業評価を実施できるよう時間を設定し全員そろって授業評価を行うようにする。また、シラバスは、1回目の授業(オリエンテーション)の時の説明に使うだけではなく、授業の節目節目で活用する。そして、授業資料や視聴覚機器・教材については、留学生が本当に理解できる内容か否かを十分に検討したうえで使用していくが、その際は、留学生だけへの配慮に偏らないよう日本人学生とのことも十分考えたうえで準備・使用するようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習Ⅲ	25名





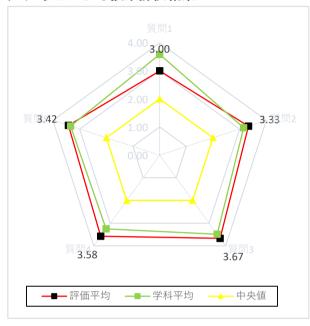
(2) 結果の分析と評価

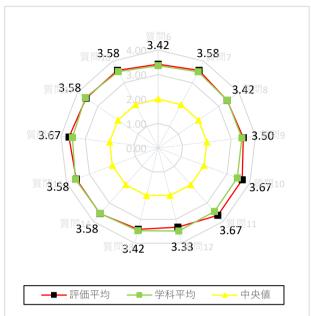
質問1から質問5は、学科平均とほぼ同様の数値。学生自身の自己評価も良い。この科目は、介護実習の事前準備としての要素が強く、学生の主体的学習や書類準備が必要となる授業であることが今回の数値結果につながったのではないだろうか。質問6から質問18もすべての項目で学科平均を上回っているが、これも、介護実習を行うにあたり学生主体で行うこと多かったため必然的に双方向のやりとりが増え、それによって、学生が求める資料配布や視聴覚教材などを使用する結果となったことの評価であろう。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後も、学生主体の学習方法を基本とし、学生の理解度や要望に応じた資料作成や視聴覚教材を活用した授業を行う。特に、本科目では、学生が介護実習を強く意識する傾向にあることから、介護現場での具体的な実習事例を多く提示し、それに対する学生(実習生)としての対応方法を考える内容を増やしたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習Ⅳ	25名





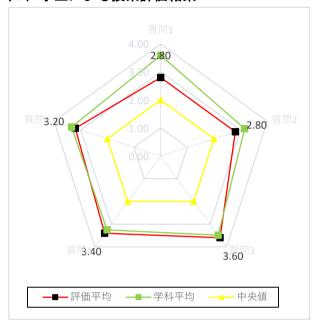
(2) 結果の分析と評価

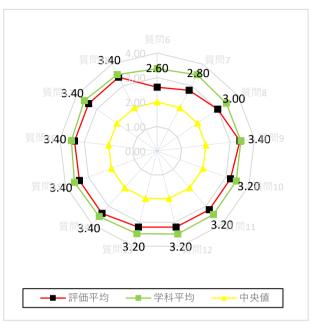
科目履修者は25名だが、授業評価の実施者は12名と半数以下だったためすべての学生の評価ではない。しかし、全体的に、本科科目については、ほぼ肯定的な評価と捉えられる。特に、質問3「真剣に取り組んだか」質問4「自分で工夫したか」の値から、学生自身が積極的に授業を受けていたことがうかがえる。本科目は、介護実習を終えた学生が、実習を振り返り、課題を明確にし今後の改善につなげるものである。その方法として、介護実習で取り組んだ各自の介護過程の展開事例をまとめ、最終的にプレゼンテーションするのだが、ほとんどの学生は、そのまとめやプレゼンテーションの練習に熱心に取り組んでいた。それが主体的な学びとなり、自分自身の課題の発見にもつながったと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の評価から、学生が自分自身で学んだことを振り返り、そこまら今後の課題を見つけ出す作業がいかに大切かを実感した。その際、教員の指導は最小限にし、できる限り学生自身で考えることを重視した。結果的には、そのことが学生の主体的な学習につながったと考えられることから、今後も今年度同様の授業スタイルを実施したいと考えている。また、そまでに学んだすべての授業が、介護実習(介護福祉士としての専門性)に結び付くことを学生自身が実感できるような授業の進め方を検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		国際コミュニケーション I (留学)	5名





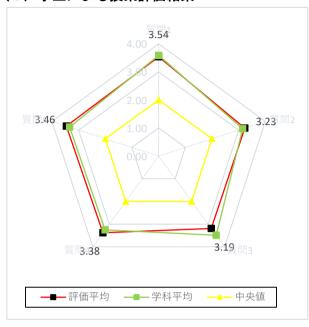
(2) 結果の分析と評価

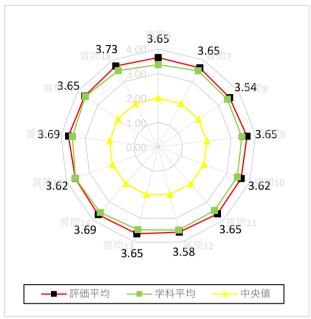
本授業は海外での体験を通じてグローカル人材となるための汎用的なスキルを獲得するものであるが、海外留学を実現することができなかったため、オンラインでの海外との交流をするのみとなった。受講生の期待と実際の活動に差があったことが残念であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

本来の授業の目的を達成するために、オンラインでの海外交流を念頭に準備を進める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護実習Ⅱ	26名





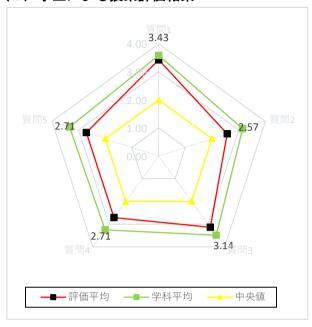
(2) 結果の分析と評価

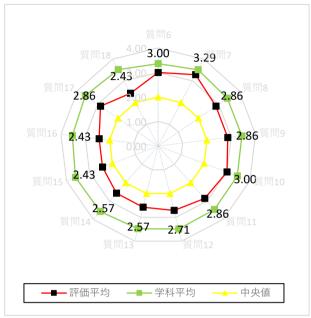
今回の評価結果は、自己評価・教員評価ともに、おおむね高い評価であった。介護実習は、欠席した場合は必ず補習実習を行うことになっていることもあり、学生の欠席は元々少ない。また、実習態度そのものが評価につながるためか、学生の実習に取り組む態度も積極的な学生が多い。質問3「授業に真剣に取り組んだか」の評価は学科平均値より若干低いが、居眠りをする学生がいたとは考えにくく、私語ができる環境でもないのだが、今回、コロナ禍での介護実習が中断・中止になった学生は学内実習となり、その中で多少私語があったことは確かである。また、質問6~18の教員に対する評価結果からは、学生は肯定的な評価をしていることがわかる。介護実習中は、必然的に学生と教員とのやり取り・個別対応が増えることも高評価につながっているのではないだろうか。しかし、介護実習は、実習施設ごとに指導者が異なり教員の巡回指導は1週間に1度巡回指導を行うだけである。それ以外は、それぞれの施設の実習指導者が中心となって指導するため、学生が教員のことを評価しているのか、または各実習施設の指導者を評価しているのかが明確ではない。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目(介護実習 II)は、個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護過程を展開することが大きな目標の一つである。また、教員は、他科目で学習した知識や技術を総合し具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する実習となるよう側面的に指導することとなっている。今後も、細やかな学生への指導と実習施設の実習指導者との連携・情報共有を十分に行い、学生が充実した介護実習を行うことをサポートしていきたい。同時に、介護実習の授業評価については、実習指導教員に対する評価なのか施設の実習指導者に対する評価なのかを明確にし、学生に伝える必要がある。他学科・他コースの状況を参考にして、早急に検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		プレゼンテーション概論	9名





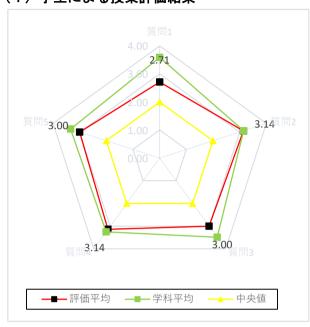
(2) 結果の分析と評価

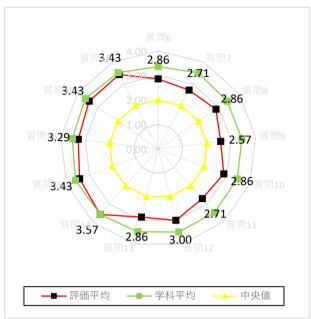
当該科目は、プレゼンテーション実務士資格の初歩として、演習を含めた座学を実施するものである。対面 授業を中心に授業を展開したが、コロナ禍や開講時間割等を含めて履修者の欠席が目立っていた。この状況 のなかで、学生の学習は断続的断片的なものとなっていたものと考えられるところであり、履修者も少ない ことから、評価の結果に対するコメントは控えたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の出席が楽しくなうよう、より興味や関心を与えるよう工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		プレゼンテーション演習	8名





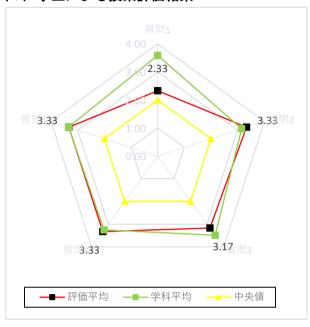
(2) 結果の分析と評価

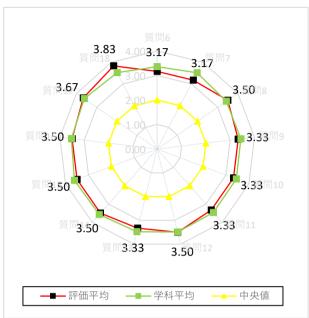
当該科目は、プレゼンテーション実務士資格の科目として、パワーポイント作成の初歩を主として、テキストに沿った演習を実施するものである。対面授業を中心に授業を展開したが、コロナ禍や開講時間割等を含めて履修者の欠席が目立っていた。この状況のなかで、学生の学習は断続的断片的なものとなっていたものと考えられるところであり、履修者も少ない。

(3) 次年度に向けての取り組み

テキストをより効果的に活用できるよう、より興味関心がある演習課題を検討し、スキルアップにつなげたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化理解Ⅱ	10名





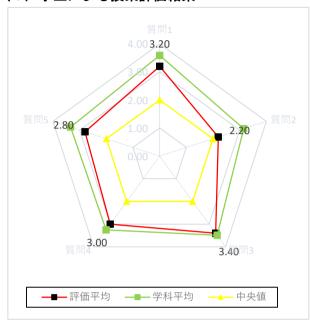
(2) 結果の分析と評価

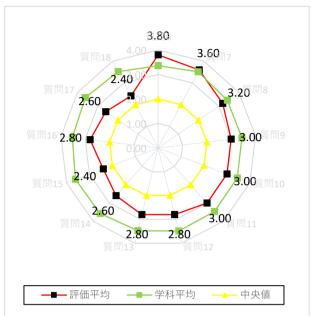
概ね平均値に近い授業評価結果であったが、「授業の出席」「シラバスの説明」「到達目標の説明」に関する評価が低かった。本授業では毎回、海外のニュースを紹介し、それについて意見を求めていたが、意欲を 高めるための工夫が必要だと感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

パワーポイント資料を毎回印刷して配布していたが、教材の作成方法や使用する媒体について検討する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化ゼミナール I	7名





(2) 結果の分析と評価

この科目は、在学中の2年間で学生自身が高めたい能力について、具体的な資格を目指すことで高める科目となっている。

具体的には、観光、語学、情報の3つの分野について、講義を行った。この科目では、学生が1年生という 事もあり、分野を限定せず3つの分野を均等に受講してもらった。

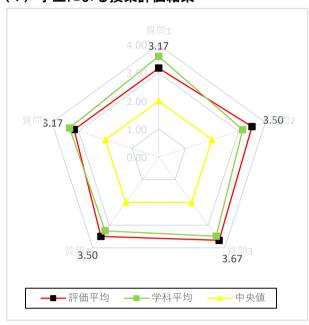
ほとんどの項目において低評価であったことは、大変残念である。

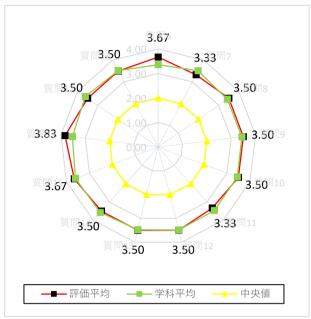
主な要因としては、学生の分野を限定せずに3つの分野の授業を受講してもらった事が考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度は、上位学年が受講している「多文化ゼミナールIII」の様子を受動的に受講してもらうことで、各分野の概要や魅力について、把握できるように工夫を行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		リラクゼーション(演習 を含む)	11名





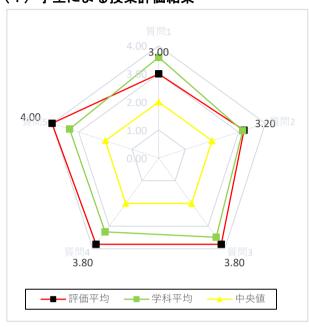
(2) 結果の分析と評価

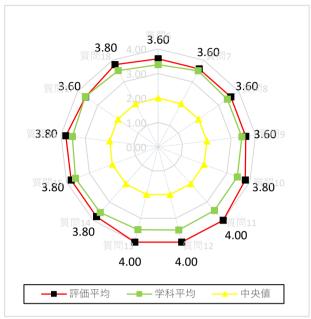
本科目の履修者は11名だったが、授業評価実施者は6名のみ。その6名の自己評価は、特に質問3「授業に真剣に取り組んだか」の値が高くなっている。また、質問4「自分で何かを工夫したか」の評価値も高い。このことから、学生が積極的に授業に取り組んだことが推測される。質問6~質問18の評価結果からも、学生は、授業に対してほぼ肯定的に評価してるといえる。質問7「授業の到達度を明確にして授業を展開していたか」、質問11「教科書・資料配布は役立ったか」の値が若干低くはあるが、学科平均との差はわずかであるが、実際、本科目では、科目の特性から、音楽や写真を教材に使用したり、学外授業で森林に出かけるなどの体験学習を多く取り入れ、特定の教科書は使用していない。また、授業の到達目標は時折授業の中で伝えてはいたものの、学生には明確に伝わっていなかったことが理解できた。なお、この科目は、履修者が11名と非常に少数だったため、授業の中での学生とのやり取りは非常に多かった。そのことが質問16の高い評価値に表れているものと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目では、可能な限りリラクゼーションを実体験しながら学びを深めたいと考えている。2年次の地域生活支援学科で後期開講される科目であるが、介護福祉コースの学生は国家試験のため後期の時間割は変則時間割となり、授業時間の設定が難しく、介護福祉コース以外の履修者に授業時間の変更で迷惑をかけることになってしまった。今回、自由記述にそのことについてコメントしている学生はいなかったが、今後は、開講時期の検討が必要だと考えている。また、毎回授業のテーマを表示することで到達目標を明確にしたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化ゼミナールⅡ	5名





(2) 結果の分析と評価

この科目は、在学している2年間で目標としている資格に合格するための学習を進める科目である。具体的には、観光、語学、情報の3つの分野で学習を進めている。

多文化ゼミナールIの評価がかなり低評価であったため、この科目の評価を心配していたが、概ね高評価が多く安心した。

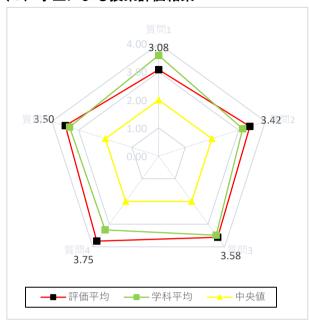
これは、多文化ゼミナール I が強制的に 3 つの分野を受講したことと違い、学生が自分の興味のある分野での学習を行い、達成感を得る事が出来たためと考える。

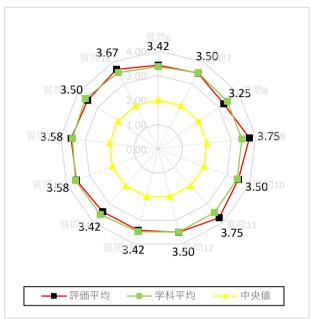
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も同様の形態で実施予定である。

3つの分野で実施しているが、学生の希望により学習する分野の変更なども柔軟に対応したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護予防支援学	25名





(2) 結果の分析と評価

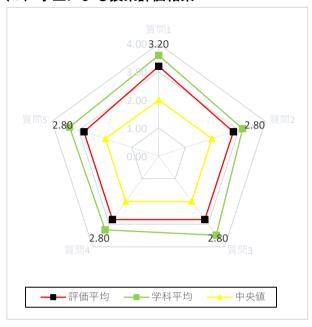
授業評価は25名中12名しか行っていなかった。シラバスは別に配布もしていたが活用には至っていなかった。自己評価は学科の平均よりシラバスの活用以外は高かった。講義と演習の組み合わせでもあり、興味をもって取り組めていた。授業評価では興味関心を持てる工夫と質問への誠実な対応以外は学科の平均とほぼ同じであった。授業への工夫は少々高かった。

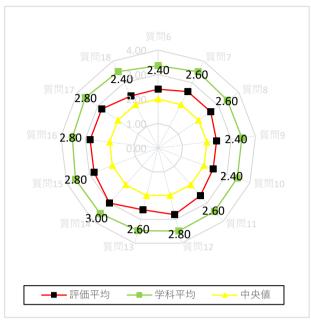
(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価の実施の促しを行う。興味関心への工夫は各講師で十分していただいて項目によっては高い評価も あるのでこのまま様子見とする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		インターンシップ I	5名

(1) 学生による授業評価結果





(2) 結果の分析と評価

この科目は、職業体験を通して学生の卒業後の進路選択の一助とするための科目である。今年度は、佐賀市観光協会へのインターンシップに参加した。

多くの項目が低評価となっているのは、インターンシップの内容が体力的に少し大変だったためと考えられる。夏休み期間に屋外での観光ガイド業務がメインの体験内容となってしまい、学生にとっては大変な体験となったことが一要因と考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度も佐賀市観光協会の協力を得ながら、科目を実施したいと考えている。 ただ、今年度の反省点を活かし、観光ガイド業務だけではなく、多様な職業体験が出来るように工夫を行っ ていきたい。

西九州大学短期大学部 令和3年度 学生による授業評価アンケート調査結果報告 (学科別集計結果)

令和4年7月1日 IR室

西九州大学短期大学部

令和3年度 前期·後期:全科目Web調査

質問事項

1	授業は何回欠席しましたか。
	【評価4⇒0回、3⇒1回、2⇒2~3回、1⇒4回以上】
2	シラバス(授業計画)を活用しましたか。
3	授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。
4	あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。
	【評価4⇒そう思う、3⇒だいたいそう思う、2⇒あまりそう思わない、1⇒そう思わない】
5	あなた自身の総合自己評価
	【評価4⇒良い、3⇒やや良い、2⇒やや悪い、1⇒悪い】
6	シラバス(授業計画)について説明がありましたか。
7	教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。
8	授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。
9	授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。
10	視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。
11	教科書・配布資料等は役に立ちましたか。
12	声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。
13	授業の進む速さは適切でしたか。
	【評価4⇒+分、3⇒だいたい+分、2⇒やや不十分、1⇒不十分】
14	学生の質問等に誠実に対応しましたか。
15	公平に学生に対応しましたか。
16	教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。
17	教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。
	【評価4⇒そう思う、3⇒だいたいそう思う、2⇒あまりそう思わない、1⇒そう思わない】
18	この授業を総合評価して下さい。
	【評価4⇒良い、3⇒やや良い、2⇒やや悪い、1⇒悪い】

- 1~4 自身の振返り
 - 5 総合自己評価
- 6~11 授業計画・教材・教授法・展開方法等 12~17 科目担当者のパフォーマンス
- - 18 授業総合評価

令和3(2021)年度授業評価アンケート回答結果 (共通教育科目、専門教育科目別)

【回答者数が両学科合算となっている科目を含む(緑色部分)】

	前期開講科目(通年科目は含まない)											
	開講科目数		開講科目数		開講科目数 履修者数		アンケート 回答科目数		アンケート 回答者数		アンケート 回答率	
	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門		
地域生活支援 学科	5	61	198	1711	5	61	306	1381	154.5%	80.7%		
幼児保育 学科	5	54	320	2013	5	54	346	1847	108.1%	91.8%		
西九州大学 短期大学部	10	115	518	3724	10	115	652	3228	125.9%	86.7%		

	後期及び通年開講科目											
	開講科目数		開講科目数		履修	者数	アンク 回答科		アン <i>!</i> 回答		アンク 回答	
	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門		
地域生活支援 学科	16	87	409	1937	11	85	404	1393	98.8%	71.9%		
幼児保育 学科	9	54	467	2472	8	54	525	2354	112.4%	95.2%		
西九州大学 短期大学部	25	141	876	4409	19	139	929	3747	106.1%	85.0%		

令和3(2021)年度授業評価アンケート回答結果 (共通教育科目、専門教育科目別)

【回答者数が両学科合算となっている科目を除く】

		前期開講科目(通年科目は含まない)								
	開講科目数		履修	者数	アンク 回答科		アン <i>!</i> 回答		アンケ 回答	
	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門
地域生活支援 学科	3	61	113	1711	3	61	100	1381	88.5%	80.7%
幼児保育 学科	3	54	160	2013	3	54	140	1847	87.5%	91.8%
西九州大学 短期大学部	6	115	273	3724	6	115	240	3228	87.9%	86.7%

	後期及び通年開講科目											
	開講科目数		開講科目数		履修	者数	アンク 回答科		アン <i>た</i> 回答		アンケ 回答	
	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門		
地域生活支援 学科	13	87	236	1937	8	85	110	1393	46.6%	71.9%		
幼児保育 学科	6	54	313	2472	5	54	231	2354	73.8%	95.2%		
西九州大学 短期大学部	19	141	549	4409	13	139	341	3747	62.1%	85.0%		

質問番号別の学生回答による評価平均値 (共通教育科目・学科専門科目別)

前期

11

12

13

14

15

16

17

18

3.44

3.47

3.44

3.55

3.6

3.48

3.65

3.49

0.71

0.68

0.7

0.67

0.66

0.7

0.61

0.64

新田采 旦	共通教	育科目	地域生活	支援学科	幼児保育学科		
質問番号	平均值	標準偏差	平均值	標準偏差	平均値	標準偏差	
1	3.75	0.7	3.52	0.86	3.75	0.59	
2	3.05	0.92	3.29	0.75	3.23	0.75	
3	3.56	0.74	3.37	0.74	3.51	0.59	
4	3.28	0.8	3.4	0.7	3.48	0.61	
5	3.34	0.71	3.34	0.62	3.43	0.56	
6	3.28	0.87	3.55	0.62	3.55	0.64	
7	3.48	0.75	3.58	0.61	3.64	0.55	
8	3.36	0.8	3.57	0.59	3.61	0.56	
9	3.37	0.81	3.57	0.61	3.64	0.55	
10	3.43	0.8	3.56	0.61	3.63	0.57	
11	3.45	0.8	3.62	0.6	3.66	0.54	
12	3.43	0.8	3.54	0.63	3.65	0.55	
13	3.42	0.78	3.54	0.63	3.64	0.55	
14	3.51	0.76	3.61	0.63	3.69	0.53	
15	3.58	0.72	3.6	0.64	3.7	0.54	
16	3.48	0.77	3.61	0.62	3.68	0.53	
17	3.62	0.67	3.65	0.61	3.75	0.47	
18	3.5	0.69	3.56	0.63	3.65	0.53	
後期(通年科	目含む)						

1 1	0.40	0.0	5.02	0.0	3.00	0.54	
12	3.43	0.8	3.54	0.63	3.65	0.55	
13	3.42	0.78	3.54	0.63	3.64	0.55	
14	3.51	0.76	3.61	0.63	3.69	0.53	
15	3.58	0.72	3.6	0.64	3.7	0.54	
16	3.48	0.77	3.61	0.62	3.68	0.53	
17	3.62	0.67	3.65	0.61	3.75	0.47	
18	3.5	0.69	3.56	0.63	3.65	0.53	
_{既即亚} 共通教育科目					幼児保育学科		
	+ 活 # :	李 4 日	地战火江	丰 拉曼到	41日7日	李 学到	
質問番号			地域生活				
質問番号	共通教 平均値	標準偏差	平均值	支援学科 標準偏差	幼児保 平均値	育学科 標準偏差	
質問番号						標準偏差	
	平均值	標準偏差	平均值	標準偏差	平均值	標準偏差 0.75	
1	平均値 3.67	標準偏差 0.72	平均値 3.5	標準偏差 0.85	平均値 3.66		
1 2	平均値 3.67 2.97	標準偏差 0.72 0.91	平均値 3.5 3.31	標準偏差 0.85 0.76	平均値 3.66 3.07	標準偏差 0.75 0.85	
1 2 3	平均値 3.67 2.97 3.46	標準偏差 0.72 0.91 0.69	平均値 3.5 3.31 3.41	標準偏差 0.85 0.76 0.76	平均値 3.66 3.07 3.49	標準偏差 0.75 0.85 0.63	
1 2 3 4	平均値 3.67 2.97 3.46 3.21	標準偏差 0.72 0.91 0.69 0.76	平均値 3.5 3.31 3.41 3.37	標準偏差 0.85 0.76 0.76 0.68	平均値 3.66 3.07 3.49 3.33	標準偏差 0.75 0.85 0.63 0.66	
1 2 3 4 5	平均値 3.67 2.97 3.46 3.21 3.3	標準偏差 0.72 0.91 0.69 0.76 0.63	平均値 3.5 3.31 3.41 3.37 3.37	標準偏差 0.85 0.76 0.76 0.68 0.65	平均値 3.66 3.07 3.49 3.33 3.34	標準偏差 0.75 0.85 0.63 0.66 0.6	
1 2 3 4 5 6	平均値 3.67 2.97 3.46 3.21 3.3 3.21	標準偏差 0.72 0.91 0.69 0.76 0.63 0.84	平均値 3.5 3.31 3.41 3.37 3.37 3.52	標準偏差 0.85 0.76 0.76 0.68 0.65 0.65	平均値 3.66 3.07 3.49 3.33 3.34 3.33	標準偏差 0.75 0.85 0.63 0.66 0.6 0.75	
1 2 3 4 5 6 7	平均値 3.67 2.97 3.46 3.21 3.3 3.21 3.41	標準偏差 0.72 0.91 0.69 0.76 0.63 0.84 0.7	平均値 3.5 3.31 3.41 3.37 3.37 3.52 3.53	標準偏差 0.85 0.76 0.76 0.68 0.65 0.65 0.63	平均値 3.66 3.07 3.49 3.33 3.34 3.33 3.52	標準偏差 0.75 0.85 0.63 0.66 0.6 0.75	

3.54

3.54

3.52

3.61

3.6

3.57

3.63

3.56

184

0.63

0.63

0.64

0.63

0.61

0.63

0.61

0.62

0.62

0.65

0.63

0.61

0.61

0.64

0.56

0.6

3.55

3.52

3.52

3.59

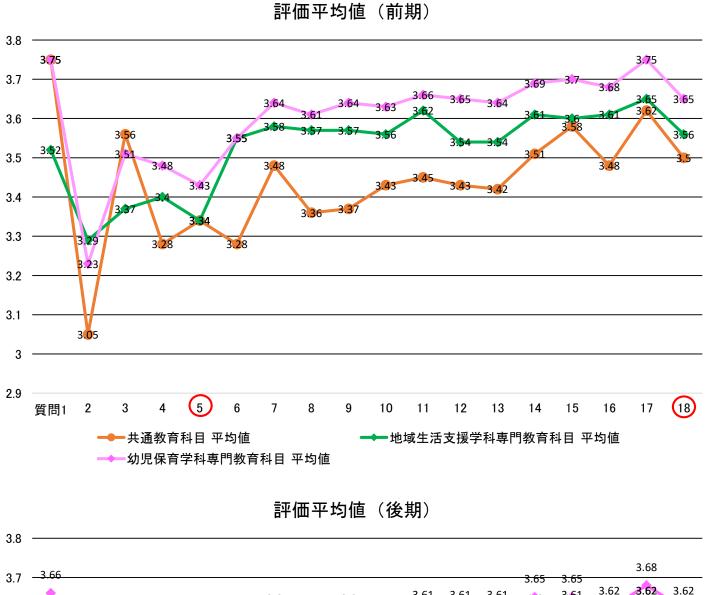
3.59

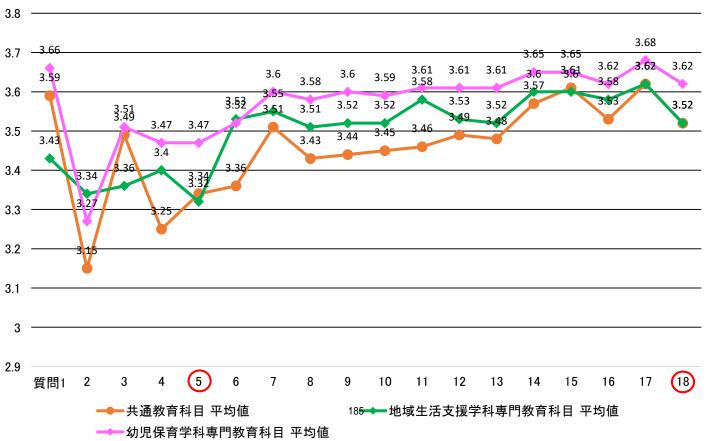
3.53

3.65

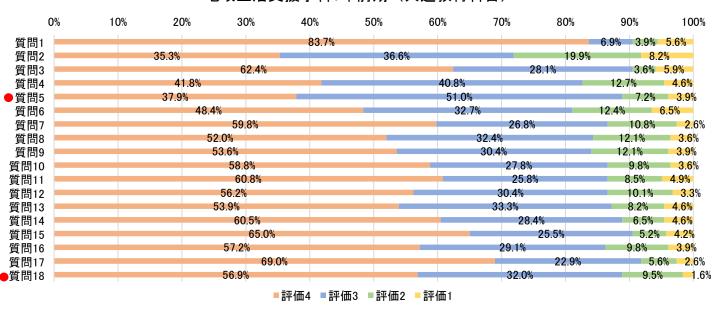
3.54

学生回答評価平均值(共通教育科目・学科専門科目別)





地域生活支援学科1年前期(共通教育科目)

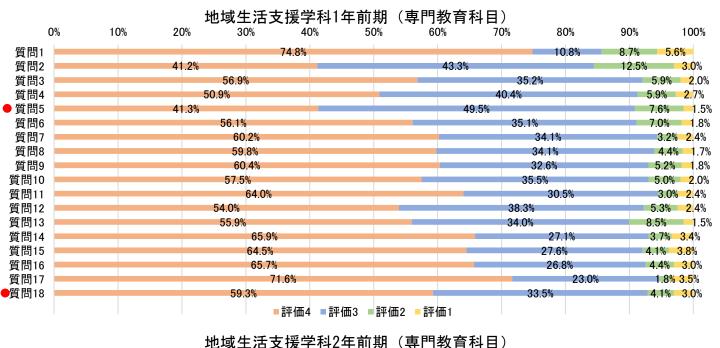


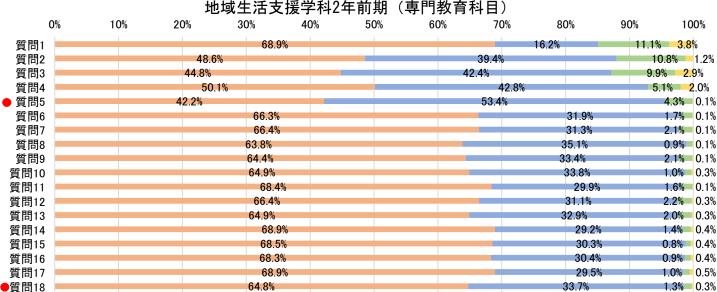
地域生活支援学科2年前期(共通教育科目)

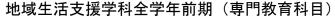
開講なし

地域生活支援学科全学年前期 (共通教育科目)

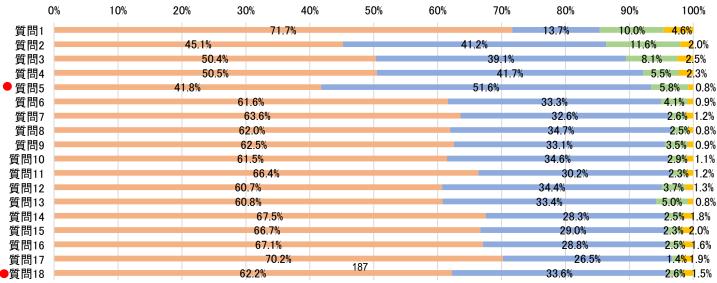
1年前期に同じ



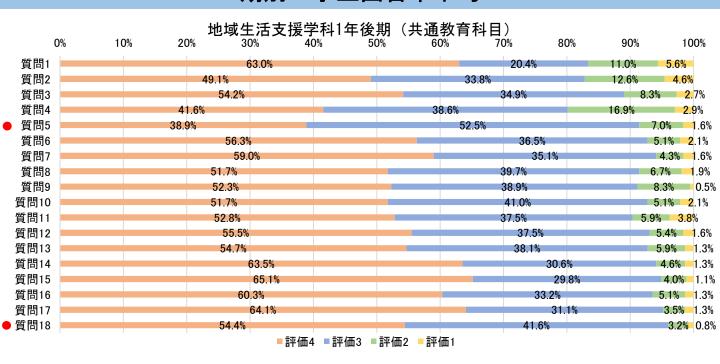




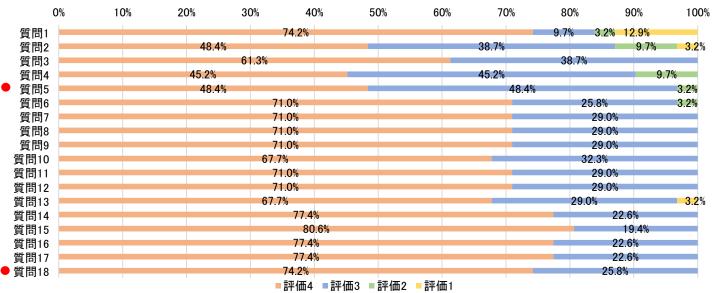
■評価4 ■評価3 ■評価2 ■評価1



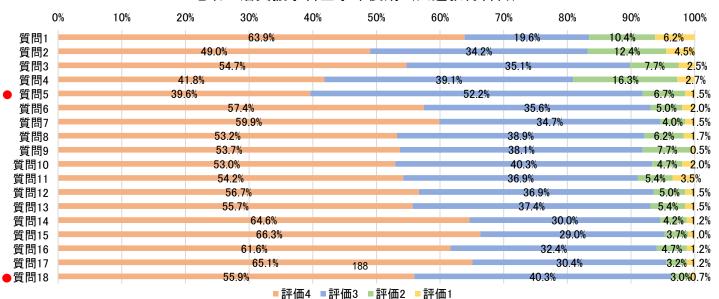
■評価4 ■評価3 ■評価2 ■評価1



地域生活支援学科2年後期(共通教育科目)

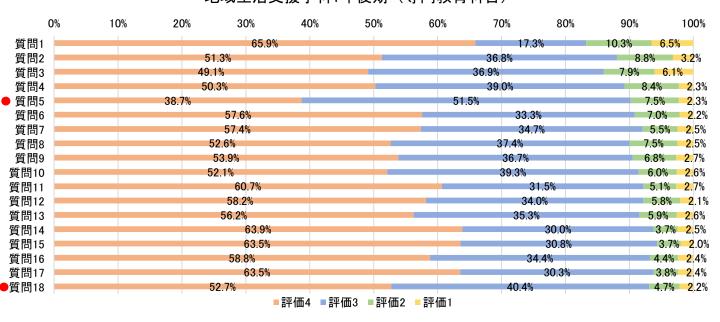


地域生活支援学科全学年後期(共通教育科目)

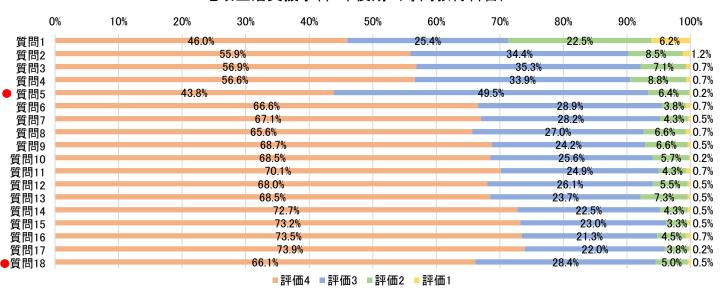


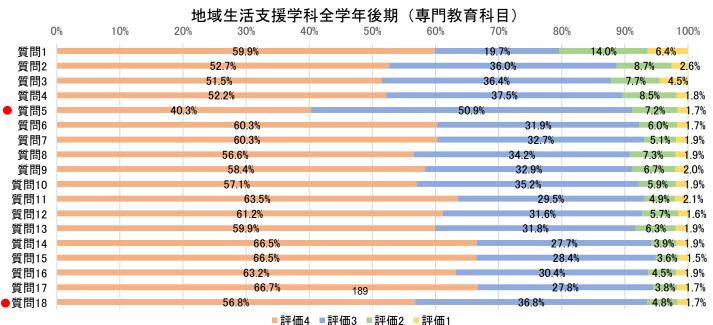
学生回答率平均 期別

地域生活支援学科1年後期(専門教育科目)

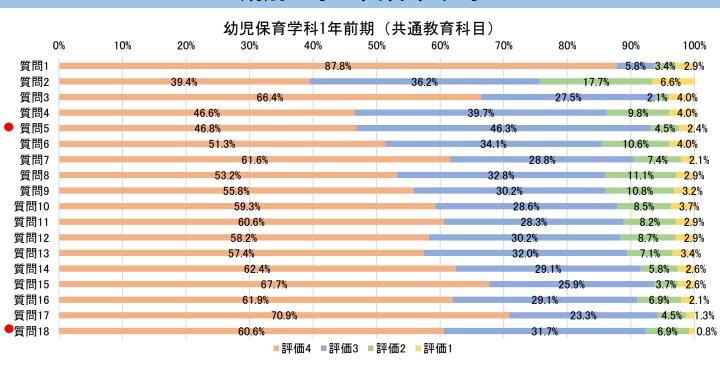


地域生活支援学科2年後期(専門教育科目)





■評価4 ■評価3 ■評価2

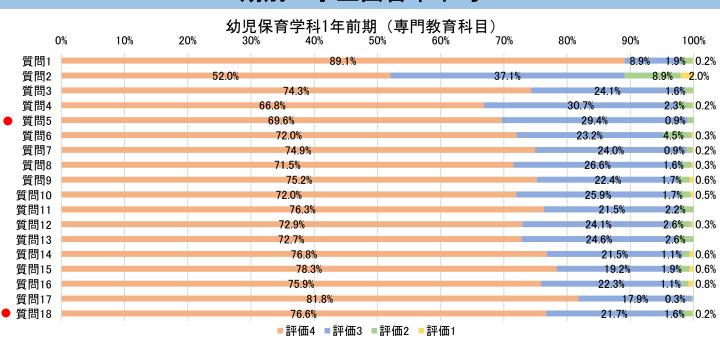


幼児保育学科2年前期(共通教育科目)

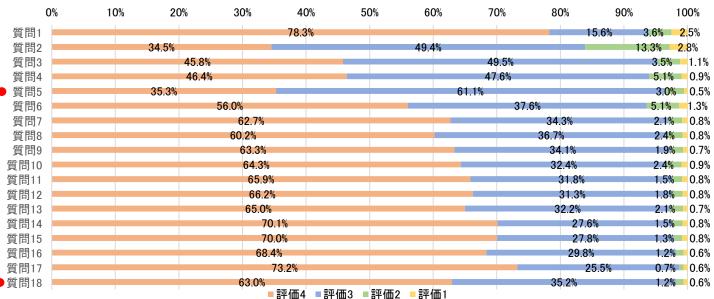
開講なし

幼児保育学科全学年前期 (共通教育科目)

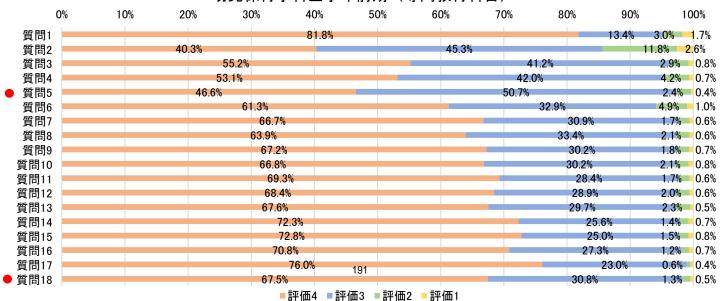
1年前期に同じ



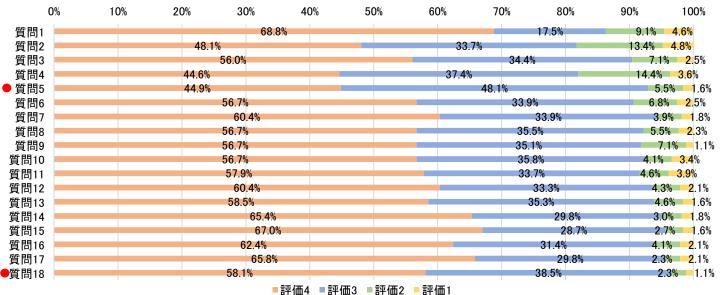
幼児保育学科2年前期(専門教育科目)



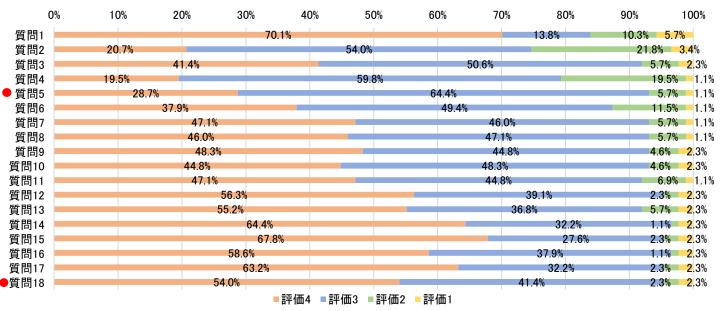
幼児保育学科全学年前期(専門教育科目)



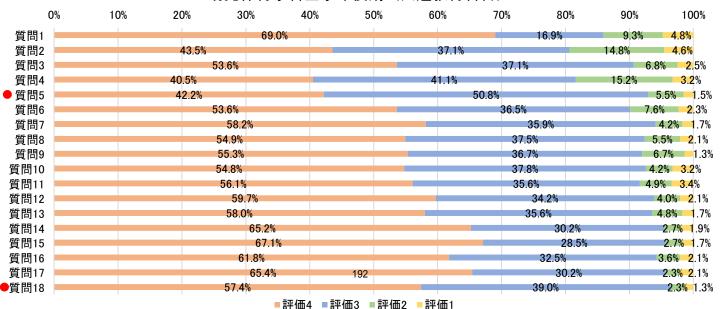




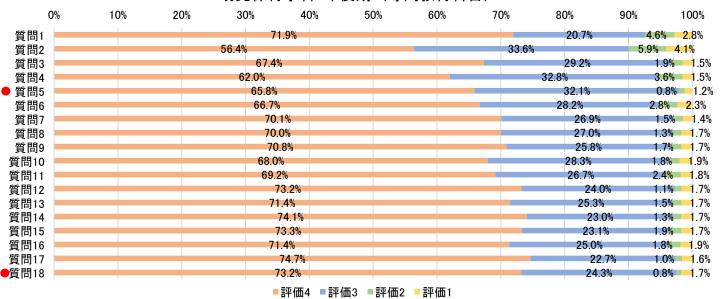
幼児保育学科2年後期(共通教育科目)



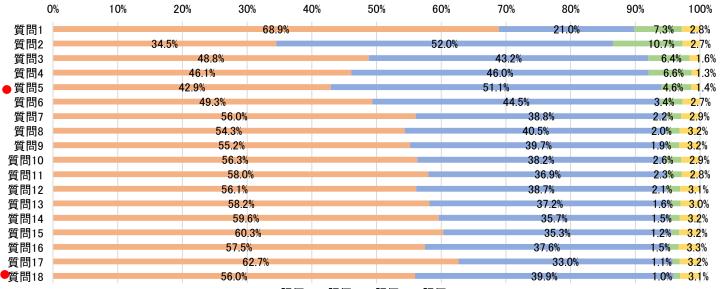
幼児保育学科全学年後期(共通教育科目)



幼児保育学科1年後期(専門教育科目)

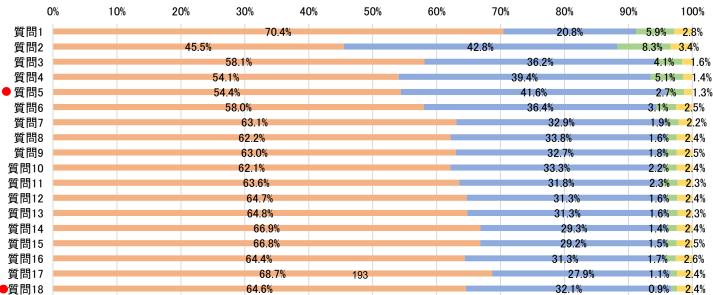


幼児保育学科2年後期(専門教育科目)



■評価4 ■評価3 ■評価2 ■評価1

幼児保育学科全学年後期(専門教育科目)



■評価4 ■評価3 ■評価2 ■評価1

令和 4 年度 授業評価アンケートに関する 自己評価報告書

令和 4(2022)年 9 月 西九州大学短期大学部

◆授業評価アンケートの活用

- 視点① 学生による授業評価アンケートの実施
- 視点② IR 業務を担当する者による分析
- 視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック

1. 事実の説明及び自己評価

視点① 学生による授業評価アンケートの実施

本学においては毎年、15回目の授業前後に学生に対して授業評価アンケートへの回答を 案内している。

アンケートは Web 上(学生ポータルサイト)で実施しており、「あなた(学生)自身の授業参加態度」について 5 項目、「授業内容・方法」について 8 項目、「教員の対応」について 4 項目、「総合評価」 1 項目の計 18 の評価項目で構成されており、項目 19 以降は教員による自由項目となっている。

学生への実施依頼では、アンケート実施の目的を明示し、アンケート結果については学内 外へ公表し学生へのフィードバックも行っている。

視点② IR 業務を担当する者による分析

授業評価アンケート結果を「学科別」「共通教育科目・専門科目別」に分類し、評価平均値をまとめた。学科別回答率を見ると、2 学科間で大きな差があることがわかる。この差の原因を個別集計の結果を調べたところ、留学生の在籍の有無による差であることが判明した。一方の学科の留学生が 0 名であるのに対し、もう一方の学科に所属する留学生は 62 名と大きな差がある。本調査の質問文の中には難解な日本語表現が散見されるため、主に留学生の回答率が学科間の差に影響していると考えられる。各質問項目の評価平均値を見ると、項目②「シラバス(授業計画)を活用しましたか」の平均得点が最も低く、項目①「授業は何回欠席しましたか(評価 $4\rightarrow 0$ 回、 $3\rightarrow 1$ 回、 $2\rightarrow 2\sim 3$ 回、 $1\rightarrow 4$ 回以上)」の平均得点が最も高い結果となった。

「共通教育科目・専門科目別」の結果によると、ほぼすべての項目において専門教育科目平均値が共通教育科目平均値を上回っていた。このことから資格に関連し、実習や実践活動を含む専門教育科目のほうが短期大学生の興味関心が高いことが考えられる。短期大学における一般教養を育む授業の在り方の再考が求められる一方で、専門分野への学習意欲の高さが確認できた。

また、「各学期別」の評価においては 1 年次と比べて 2 年次のほうが質問 $1\sim5$ の自己評価に関する項目と質問 $6\sim18$ の授業評価に関する項目のいずれにおいても評価平均値が下降している。授業評価の結果の改善が求められる。

視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック

担当科目ごとの授業評価結果は、ポータルサイトにレーダーチャートで示されるようになっている。教員は、「結果の分析と評価」及び「次年度に向けての取り組み」を必ず入力することになっており、評価が低かった項目の改善や反省点に対する取組み方法等を明確にし、次年度以降の授業改善へ繋げる仕組み(PDCA サイクル)が構築されている。学生

西九州大学短期大学部

による「授業評価結果」、教員による「結果の分析と評価」及び「次年度に向けての取り組み」は、本学ホームページへ掲載されるほか、冊子化し図書館へ設置され、学内外へ公表するとともに学生へのフィードバックを行っている。

2. 改善・向上方策(将来計画)

本調査は本学の教育の質を向上させるために毎年実施しているものであるが、以下の点において、改善・向上が望まれる。

・授業評価アンケート実施科目の形態についての分析

本調査は平成 13 年度より毎年継続して実施しているため、経年比較や学習者の傾向などを読み取ることが可能である。しかし、近年実施しているオンライン授業やアクティブラーニング等の授業形態や開講日・時間といった背景を含めた分析が必要となる。授業形態が多様化していく中で教育の質の改善を図るために、授業評価と受講者の学習方法を踏まえた改善活動が求められる。

・回答率を高めるための調査方法

昨年度の調査結果では一定の回答を得ることができた。その一方で、回答の精度を高める工夫が不十分であり、改善が求められている。学科や学年等による回答率の違いは本調査の正確性に疑念を抱かせてしまうことにつながりかねない。そのため、教員による働きかけや回答日の設定等の調査方法を各委員会において検討し、対応することを求める。

分析に基づく検証評価・改善について

地域生活支援学科

評価・成果等	課題・問題点等	今後実行可能な 改善事項等
共通科目の評価が総じて低くい。共通 科目には、非常勤/専任担当の科目のほ か、複数の専任教員が関わる科目があ り、詳細を見極めていく必要がある。本 学科は、幼児保育学科と比較して、全体 的に低い評価を与えていることは、従前 のとおりであるが、学生の性格的気質以 外の要因もあると考えられる。授業評価 は、総じて学年学期の進行に伴って高く なっている。このことは、幼児保育学科 とは異なる変化を与えている。	総じて入学前期の授業評価が低い傾向があることから、初年次教育での授業の受け方や学習の方法などの指導不足が考えられる。	あすなろう共通科目 において、初年次教育 として授業の受け方や 学習の方法を取り扱い、授業への興味関心 を高め、抵抗感をなで学 習内容の打ち合わせを 十分に行っていく。

幼児保育学科

評価・成果等	課題・問題点等	今後実行可能な 改善事項等
・学生の授業への取り組み、教員の授業 方法およびパフォーマンスの大部分に おいて、共通教育科目・地域生活支援学 科の専門教育科目にくらべて高い値と なっており、おおむね良好な評価となっ ている。 ・専門教育科目について、学生の回答を 期別に比較すると、学生の授業への取り 組み、教員の授業方法およびパフォーマンスのすべてにおいて、1年前期が高い 評価となっている。その後、期が進むに つれて評価が低くなる傾向(多少バラツ キあり)があり、2年後期には最も低い 評価となっている。 ・こうした傾向は、毎年みられるもので ある。	・社会との接続を考えた場合、2年後期は大切な時期である。学生たちが意欲的に授業に取り組めるよう、教員の授業方法およびパーマンスの改善・自動を図る必要がある。	・コロナが落ち着き、現 在は対面授業が主流、2 年間遠隔である。一年では をでは をでは をでいる。 をでは をでいる。 とでいる。 とている。 とっと。 とっと。 とっと。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と

編集者一覧

令和 4 年度 F D 委員会

FD 委員会委員長 武富 和美 准教授 副学長・地域生活支援学科長 平田 孝治 教授 幼児保育学科長 野口 美乃里 教授 地域生活支援学科 西岡 征子 教授 幼児保育学科 春原 淑雄 准教授 事務局・次長 大石 妙子

令和 4 年度 F D 専門委員会

地域生活支援学科 西岡 征子 教授 地域生活支援学科 吉村 浩美 准教授 幼児保育学科 川邊 浩史 准教授 幼児保育学科 春原 淑雄 准教授

西九州大学短期大学部

令和3年度 学生による授業改善のための授業評価結果に関する報告書

編集日 令和4年9月28日(水)

編集・発行 西九州大学短期大学部 教務課

〒840-0806 佐賀県佐賀市神園三丁目 18-15

話 0952-37-9614 (教務課直通) 電

U R L https://www.nisikyu-u.ac.jp/junior_college/

メ ー ル kyomu_info@nisikyu-u.ac.jp